

平成20年度

県立学校新任ネットワーク管理者研修講座

岩手県立総合教育センター

< 目 次 >

1	いわて教育情報ネットワークの概要	1
1-1	いわて教育情報ネットワーク機関ネットワークの移行について	1
1-2	ネットワークの接続イメージについて	1
1-3	教育情報ネットワークと行政ネットワークの統合イメージ	1
2	県立学校のサーバ構成	2
2-1	新サーバの構成について	2
2-2	県立学校サーバ機能	3
3	学校内に設置されているネットワーク関連機器等について	4
4	ネットワーク管理者の業務について	5
4-1	年度末・年度始めに行う作業	5
4-2	校内サーバ・クライアントPCの保守管理	6
4-3	学校Webページの更新	6
4-4	トラブルへの対応	6
4-5	「教育の情報化」の普及・啓蒙	7

以下 いわて教育情報ネットワーク学校ネットワーク管理者研修テキスト（平成17年度版）より抜粋

4-1	イントラネットサーバ1の運用管理	8
4-1-1	Windows 2000 Severのユーザー管理	8
4-1-2	Windows 2000 Severユーザーアカウント一括登録手順	26
4-1-3	IMailの運用管理	36
4-2	ファイルサーバの運用管理	62
4-2-1	共有フォルダのアクセス権限について	62
4-2-2	共有フォルダの作成手順	67
4-3	クライアントの運用管理	76
4-3-1	ネットワークの設定	76
4-3-2	InternetExploreの設定	96
4-3-5	OutlookExpressの設定	100
4-4	トラブルシューティング	110
4-4-1	Windows2000端末でネットワークにログオンできない場合	110
4-4-2	インターネット接続ができない場合	112
5	外部公開用WWWサーバの運用管理	116
5-1	外部公開用WWWサーバの概要	116
5-2	県立学校公式ホームページの公開手順	117
5-3	カウンターの設定方法	119
5-4	ホームページのアップロード方法	120

<追加マニュアルより>

サーバの停止方法	124
1 停止方法	124
2 起動方法	129

1 いわて教育情報ネットワークの概要

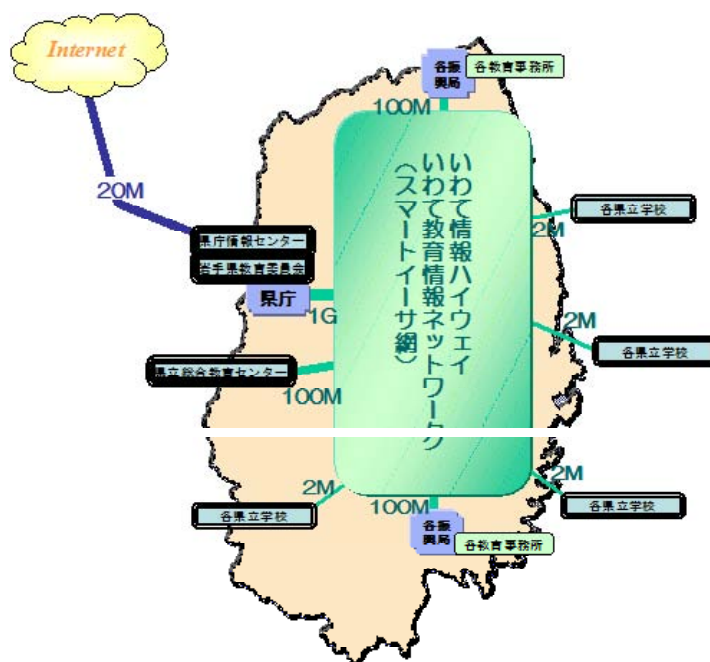
1-1 いわて教育情報ネットワーク基幹ネットワークの移行について

「いわて教育情報ネットワーク」はATMネットワークで構成された「いわて情報ハイウェイ」を基幹回線とし、直近の地区合同庁舎のアクセスポイントに、1.5Mbpsまたは128Kbpsの回線で接続されていました。しかし、県立学校には教育情報ネットワーク用の回線とは別に、事務室に行政ネットワーク用の回線が敷設され通信費がかさんでいること、また通信技術の進歩により構内／校内LANで使用される通信方式と同じ方式（イーサネット）の回線を通信業者が今までの回線よりも安く提供し始めたため、平成16年度、県立学校、単独公所（警察、県立の機関）、県立病院などの回線をNTTの「スマートイーサ」という回線に切替えをしました。これにより、県立学校については、教育情報ネットワークと事務室の行政ネットワークが統合されることとなりました。

また、平成17年度には「いわて情報ハイウェイ」もスマートイーサ回線に切替えを行い、全ての回線がイーサネット方式の回線に移行をしました。

1-2 ネットワークの接続イメージについて

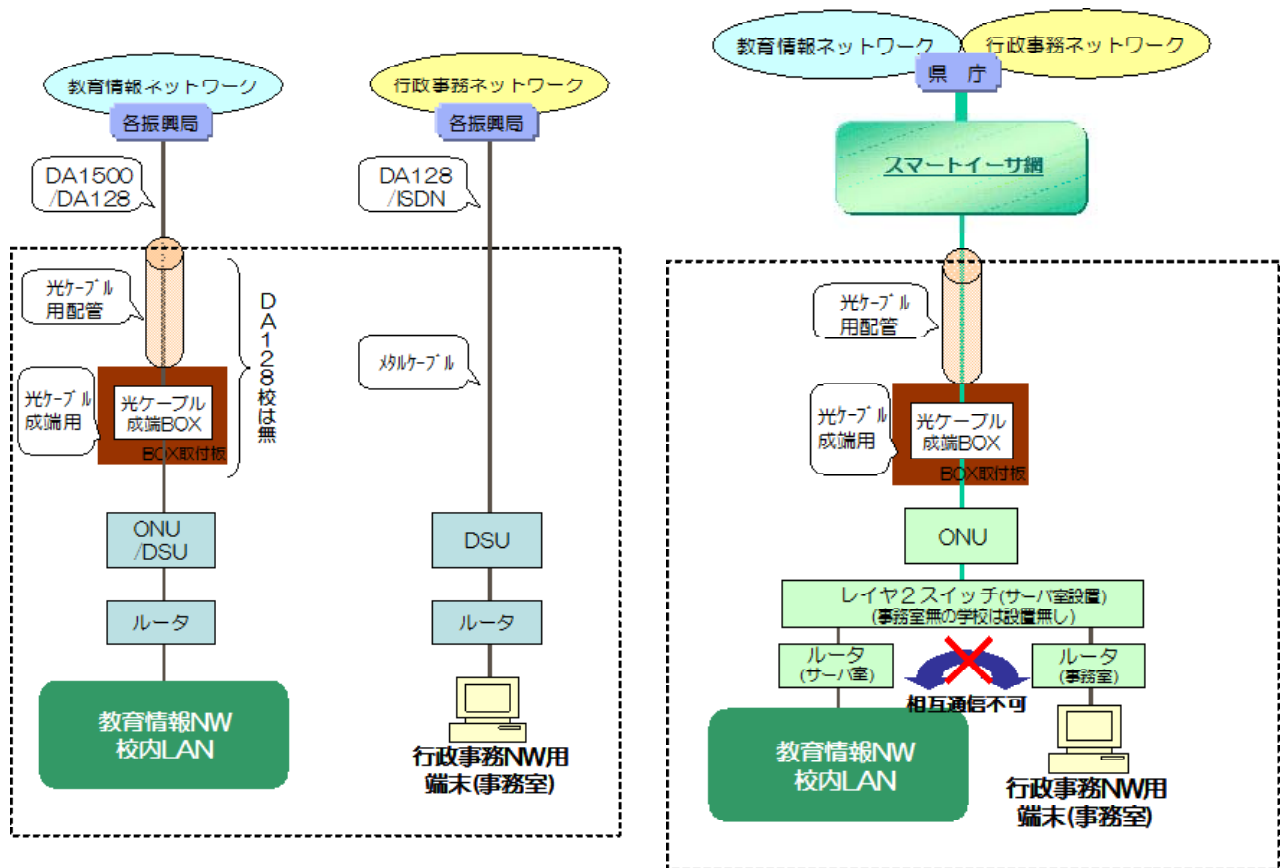
各県立学校が、NTTのスマートイーサ網に2Mbpsで接続されています。拠点となる岩手県庁とスマートイーサ網は1Gbpsで接続されています。2Mbpsの内訳は、1.5Mbpsが教育情報ネットワーク用、0.5Mbpsが行政ネットワーク用と想定されています。（帯域制御で設定されている訳ではありません。）



1-3 教育情報ネットワークと行政ネットワークの統合イメージ

教育情報ネットワークと行政ネットワークは、下記のようなイメージで統合されています。なお、各学校のサーバ室から事務室までは行政ネットワーク用のLAN配線を1本配線しており、VLANのIDによる識別により、教育情報ネットワークは県庁の教育委員会との通信を可能にし、行政ネットワークは県庁IT推進課やICSとの通信を可能にしています。

教育情報ネットワークと行政ネットワーク（職員ポータル）の接続については、2章で説明します。

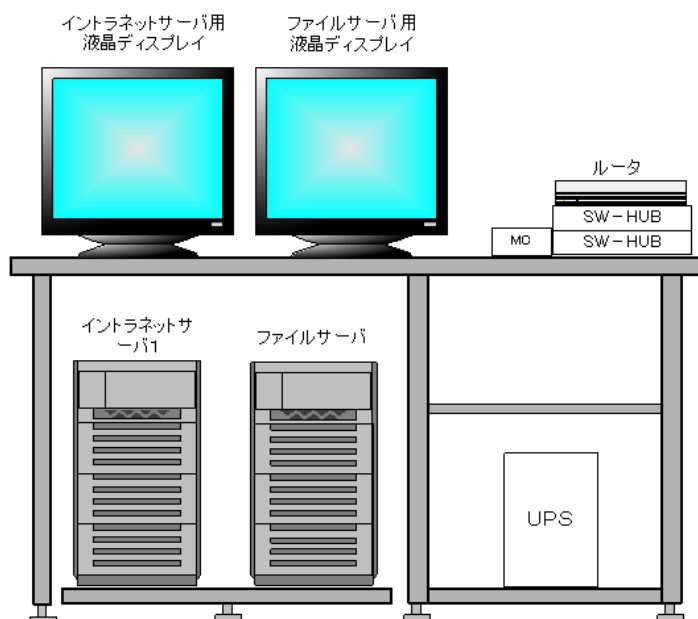


2 県立学校のサーバ構成

今回サーバの更改により、「イントラネットサーバ1」「イントラネットサーバ2」「ファイルサーバ」の3台構成を見直し、「イントラネットサーバ1」と「ファイルサーバ」の2台構成としました。

それに伴い、変更となった点や新たに追加された機能について説明します。

2-1 新サーバの構成について



- 【主な変更点（構成物品）】
- (1) 3台のサーバ構成を2台に統合
 - (2) 1台のUPSで2台のサーバに電源供給
 - (3) サーバ収容のSW-HUBをギガビット対応に変更

図1-1 サーバ設置イメージ図

2-2 県立学校のサーバ機能

更改サーバの機能について説明します。(網掛けが旧サーバと変更になった箇所)

(1) イン트라ネットサーバ1 (WindowsServer2003 R2)

コンピュータ名 : SV-INTRA1

機能	役割・アドレス等
WWWサーバ-(IIS)	学校内でWebサービスを提供します。 http://www.XXX-X.iwate-ed.jp
メールサーバ-(IMail)	学校内で電子メールサービスを提供します。 (アカウントはActive Directoryと連動) http://mail.XXX-X.iwate-ed.jp:8383
ActiveDirectory	Windowsのログオン管理、コンピュータ名の解決及びグループポリシー等を提供します。
DNS	ActiveDirectory用のDNS→INTRA2で提供していたDNS機能を統合 ns.XXX-X.iwate-ed.jp
ウイルスバスター-Corp. ServerProtect →ウイルスバスター-Corpに統合	ウイルスからクライアントを保護します。 ウイルスからサーバーを保護します。 →ウイルスバスター-Corpに統合
ARCserve 2000 →WindowsServer 2003の機能で実施	データのバックアップを行います。 →INTRA1のデータはファイルサーバにバックアップ
コンテンツフィルタリング (Intersafe)	インターネット上の有害コンテンツをフィルタリングします。 http://proxy.XXX-X.iwate-ed.jp:2319/

(2) イン트라ネットサーバ2

コンピュータ名 : SV-INTRA2

機能	役割・アドレス等
プロキシサーバ-(squid)	コンピュータに代わって、インターネットに接続します。 proxy.XXX-X.iwate-ed.jp (ポート番号 : 8080)
コンテンツフィルタリング (intersafe)	インターネット上の有害コンテンツをフィルタリングします。 http://ns.XXX-X.iwate-ed.jp:2319/intersafe
DNS	IPアドレスとドメイン名、コンピュータ名の変換を行います。 ns.XXX-X.iwate-ed.jp
その他 (管理画面)	http://ns.XXX-X.iwate-ed.jp:4649/admintool

※イン트라ネットサーバ1、ファイルサーバに統合

(3) ファイルサーバ (WindowsServer2003 R2)

コンピュータ名 : SV-FILE

機能	役割・アドレス等
GWW2000 WWWサーバ サイボウズサーバ	グループウェアを提供します。 http://gww.XXX-X.iwate-ed.jp グループウェアを提供します。 http://cbz.XXX-X.iwate-ed.jp/scripts/cbag/ag.exe
ファイル共有	先生フォルダ(先生グループのみアクセス可能) 生徒フォルダ(先生グループ及び生徒グループがアクセス可能)
ActiveDirectory	Windowsのログオン、コンピュータ名の解決及びポリシー等を提供します。
DNS (セカンダリ)	ActiveDirectory用のDNS→INTRA2で提供していたDNS機能を統合 ns.XXX-X.iwate-ed.jp(セカンダリ)
ServerProtect →ウイルスバスター-Corpに統合	ウイルスからサーバーを保護します。 →ウイルスバスター-Corpに統合
ARCserve 2000 →WindowsServer 2003の機能で実施	データのバックアップを行います。 →INTRA1のデータはファイルサーバにバックアップ
Ghost	クライアントPCの復元用イメージデータ保存・作成 →Skyメニューから移行

※「XXX-X」は各学校毎に異なるサブドメインです。

3 学校内に設置されているネットワーク関連機器等について

(1) ルーター (ROUTER)

ルーターは、ネットワーク間を接続するための機器です。ルーターには、通信経路が記されており、目的のネットワークに正しく中継する機能を持っています。また、一つのIPアドレスを、学校にあるコンピュータ台数分のIPアドレスに置き換える機能を持っています。学校では、サーバが設置してある場所に置かれています。



(2) ハブ (HUB)

ハブは、コンピュータに接続したネットワークケーブルを集線する（とりまとめる）装置です。学校にあるハブは、スイッチングハブと呼ばれるものが複数設置されています。学校によって設置している位置や台数は異なります。



職員室用のスイッチングハブは、VLAN の設定がされており、職員室内PCからのみアクセスできるように設定されています。

※利用方法は、「学校ネットワーク管理者研修テキスト」をご覧ください。



(3) コンピュータ

教師用（教諭・実習教諭全員）、生徒用（各教室）にノートパソコンが配備され、ネットワークケーブルで校内LANに接続しています。特別教室や図書室にも配備されています。

(4) プリンタ

レーザープリンタが職員室および特別教室、図書館に配備され、生徒用にインクジェットプリンタが配備されています。

(5) プロジェクタ・スクリーン

学年に1セットとして携帯用のプロジェクタとスクリーンが配備されています。

(6) スマートボード（電子黒板）

視聴覚室などに、デスクトップパソコンとともにスマートボード（電子黒板）が配備されています。パソコンとプロジェクタを接続すると、ボード上でパソコンを操作したり、文字や図形を書き込むことができます。



4 ネットワーク管理者の業務について

4-1 年度末・年度始めに行う作業

年度始めの4月1日から新年度の運用ができるように、年度末の3月中に、次のような作業を行います。年度末のネットワーク管理者の業務として、作業日時を決めて計画的に作業を行う必要があります。

- ・ 転勤された先生のアカウントの削除（イントラネットサーバ）
- ・ 必要に応じ、先生端末の初期化（NotonGhost、旧サーバではスカイメニュー）および諸設定作業
- ・ 新たに転勤してこられた先生のアカウントの追加（イントラネットサーバ、サイボウズ、GWW）
- ・ 共有ファイルのアクセス権の設定（ファイルサーバ）
- ・ 教育行政システムへの登録のためのユーザー情報の報告（県教育委員会より周知）
- ・ 端末の過不足による再配置のための端末数の過不足調査（県教育委員会より周知）

上記のような作業を少しでもスムーズに行うために、次のような項目の記録を残しておくことで、ネットワーク管理者間のスムーズな引継ぎが行えるものと思います。

- サーバのログインパスワードやGWW等の管理用パスワード
 - IPアドレスの一覧表
 - ユーザーアカウントの一覧表（教育行政システム登録用を含む）
 - 共有フォルダのアクセス権の設定やグループポリシーの適用状況について
 - 各コンピュータの設置教室の状況について
 - 過去の故障・トラブル事例
- 等々

なるべく手間をかけずに上記のような情報を管理していくために、過去に県教育委員会に報告したことのあるIPアドレス表や教育行政システム登録の報告様式等は保存しておき、変更があった都度、修正していくことを勧めます。また、学校独自でサーバのパスワード管理表等の様式が特に無い場合は、サポートサイトからもダウンロードできるようになっています。

The image displays several administrative templates and tables used for network management. Key components include:

- ID・パスワード管理表 (ID/Password Management Table):** A table with columns for 'サーバー名' (Server Name), 'ログイン名' (Login Name), and 'パスワード' (Password). It includes instructions on how to update the password table.
- コンピュータ故障対応表 (Computer Troubleshooting Table):** A table with columns for '発生日時' (Occurrence Date/Time), '発生場所' (Occurrence Location), '発生内容' (Occurrence Content), and '対応状況' (Response Status). It includes instructions on how to use the table for recording and resolving computer issues.
- コンピュータの仕様表 (Computer Specifications Table):** A table listing computer models, OS versions, and hardware specifications. It includes instructions on how to update the table with current computer inventory.
- その他の情報 (Other Information):** A section providing additional details and instructions related to the management of the network and servers.

4-2 校内サーバー・クライアントPCの保守管理

年度末・年度始めに行う業務の他に、校内サーバの保守管理業務として、次のような作業を適宜、実施します。基本的には初期設定の状態です運用しますが、不具合の発生や設定変更が必要となった場合にはネットワーク管理者が作業を行います。

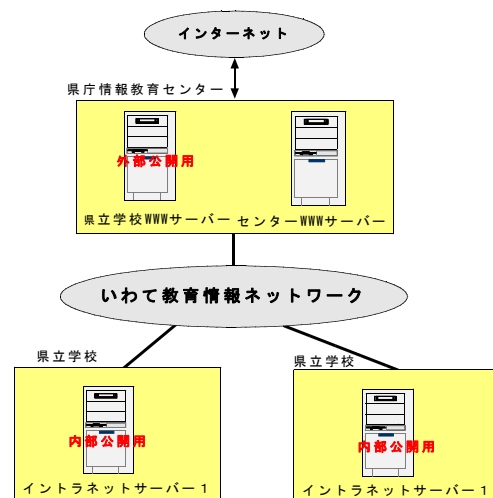
- (1) ウィルスバスター corp (ウィルス対策)
- (2) プロキシサーバの設定 (行政事務ネットワークへのアクセス設定)
- (3) Intersafe の設定 (フィルタリング設定変更)
- (4) WSUS の運用管理 (WindowsUpdate のサーバ設定)
- (5) サーバのバックアップ (Windows バックアップ機能)

4-3 学校Webページの更新

県庁教育情報センターに、各県立学校の学校Webページ (ホームページ) を公開するためのWWWサーバを配置しています。

また、各学校間の交流を実現するために、いわて教育情報ネットワーク内部用としては各県立学校のイントラネットサーバをWWWサーバとして利用することも可能です。

公開している情報は学校によって様々ですが、中学生用の案内など1年に一度更新することが定められているものがあります。常に最新の情報を提供できるように計画的に更新する必要があります。



4-4 トラブルへの対応

ネットワークに関するトラブルには次のようなものがありますが、ネットワーク機器を効果的に活用するためにも、過去の故障・トラブル事例を参考にしたり、「いわて教育情報 NW 管理者サポートサイト」 (<http://edudb.iwate-ed.jp/support/>) を参考にし、トラブルに迅速に対応できるようにしておく必要があります。

- ・ ネットワーク接続に関するトラブル
 - ・ 印刷に関するトラブル
 - ・ パソコンの設定や故障に関するトラブル
 - ・ 共有フォルダや共有ファイルなどサーバ設定に関するトラブル
 - ・ 電子メールに関するトラブル
 - ・ ウィルスなどセキュリティに関するトラブル
- 等々



「いわて教育情報 NW 管理者サポートサイト」(http://edudb.iwate-ed.jp/support/)

4-5 「教育の情報化」の普及・啓蒙

高度情報通信ネットワーク社会が進展していく中で、子どもたちが、コンピュータやインターネットを活用し、情報社会に主体的に対応できる「情報活用能力」を育成することは非常に重要です。

こうした情報活用能力の一層の充実を図るために、各学校段階を通じて、各教科等や「総合的な学習の時間」においてコンピュータやインターネットの積極的な活用を図るとともに、中・高等学校において、情報に関する教科・内容を必修としています。

また、各教科等の授業の中で、先生がプレゼンテーションしたり、子どもたちがコンピュータやインターネットで調べたり、交流したりすることによって、「わかる授業」や「魅力ある授業」の実現に役立てていくことが求められています。

一方で、社会問題化している情報化の影の部分の克服するための取り組みが急務であり、次代を担う子どもたちが、社会の中で情報が果たす役割や影響を十分に理解し、便利で安全な情報社会の創造に参画できるような態度を育成する「情報モラル」指導も重要となっています。



岩手県立総合教育センター「情報モラル」指導教材

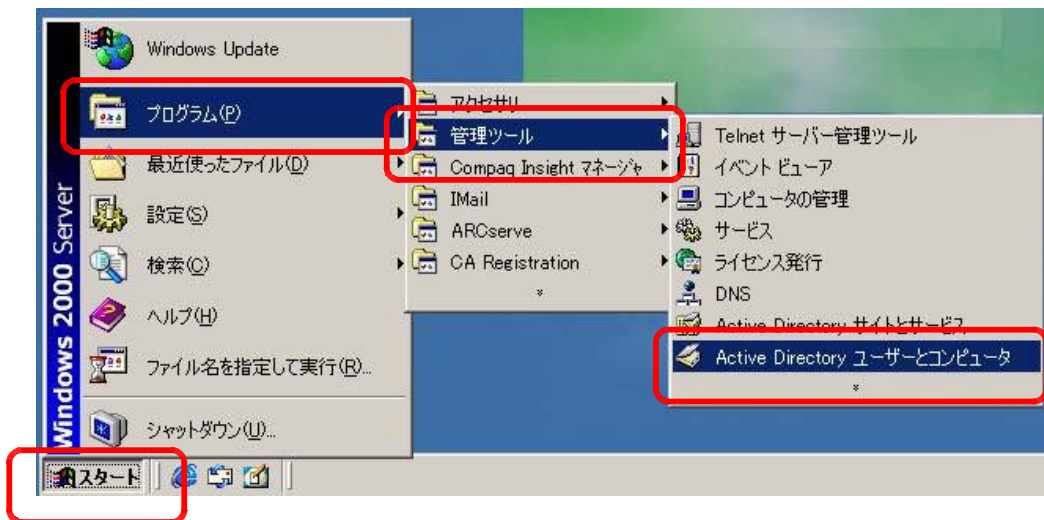
4 学校ネットワークの運用管理

4-1 イン트라ネットサーバー1の運用管理

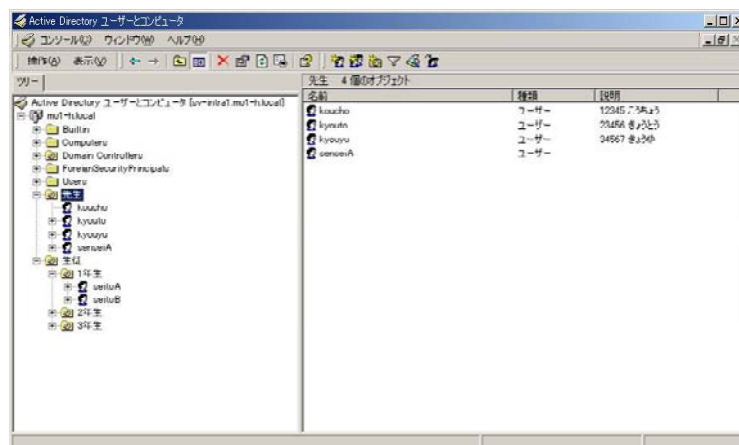
4-1-1 Windows 2000(2003) Serverのユーザー管理

(1) 「Active Directoryユーザーとコンピュータ」画面を表示する

- 1 【SV-INTRA1 (新SV-INTRA)】サーバー、(もしくは【SV-FILE】サーバー) からWindows2000 (2003) Serverにログインします。
- 2 [スタート]－[プログラム]－[管理ツール]－[Active Directoryユーザーとコンピュータ]をクリックします。

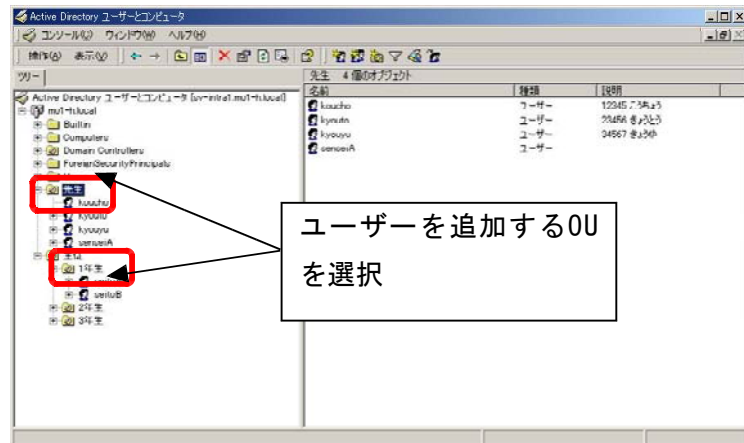


3 「Active Directoryユーザーとコンピュータ」画面が表示されます。



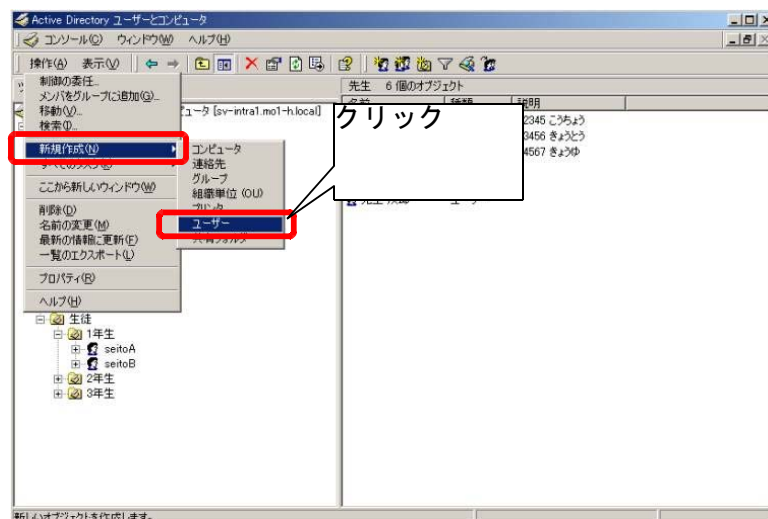
(2) ユーザーを作成する

- 1 「Active Directoryユーザーとコンピュータ」画面において、新規にユーザーを追加したいOU*¹をクリックします。



※ 1 OU(Organization Unit)：組織単位。管理者は先生及び生徒（学年単位）OUでユーザー管理を行います。

- 2 [操作]－[新規作成]－[ユーザー]をクリックします。



- 3 「新しいオブジェクトユーザー」画面が表示されます。新規ユーザーの「姓」、「名」、「ユーザーログオン名」を入力して[次へ]ボタンをクリックして下さい。



新しいオブジェクト - ユーザー

作成先: mo1-h.local/先生

姓(L): 先生

名(F): 太郎 ニンシャル(N):

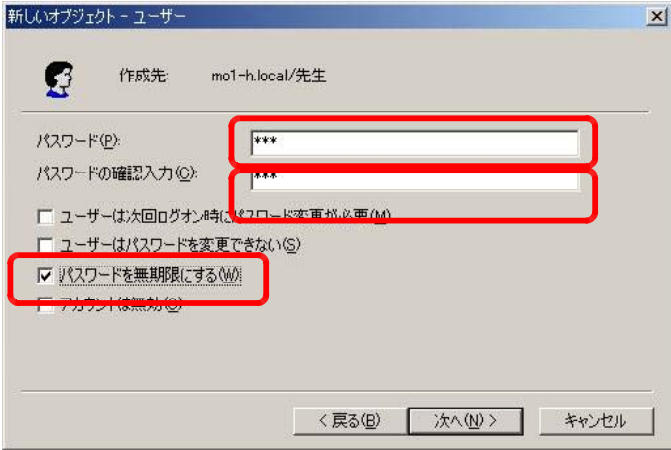
フルネーム(A): 先生 太郎

ユーザーログオン名(N): senseiB @mo1-h.local

ユーザーログオン名 (Windows 2000 以前)(M): MO1-H# senseiB

< 戻る(B) 次へ(N) > キャンセル

- 4 パスワード入力画面が表示されます。「パスワード」を入力後、「パスワードを無期限にする」にチェックして[次へ]ボタンをクリックして下さい。



新しいオブジェクト - ユーザー

作成先: mo1-h.local/先生

パスワード(P): ***

パスワードの確認入力(C): ***

ユーザーは次回ログオン時にパスワード変更が必須(M)

ユーザーはパスワードを変更できない(S)

パスワードを無期限にする(W)

アカウントは無効(O)

< 戻る(B) 次へ(N) > キャンセル

- 5 完了画面が表示されます。[完了]ボタンをクリックして下さい。



新しいオブジェクト - ユーザー

作成先: mo1-h.local/先生

[完了] をクリックすると、次のオブジェクトが作成されます:

フルネーム: 先生 太郎

ユーザーログオン名: senseiB@mo1-h.local

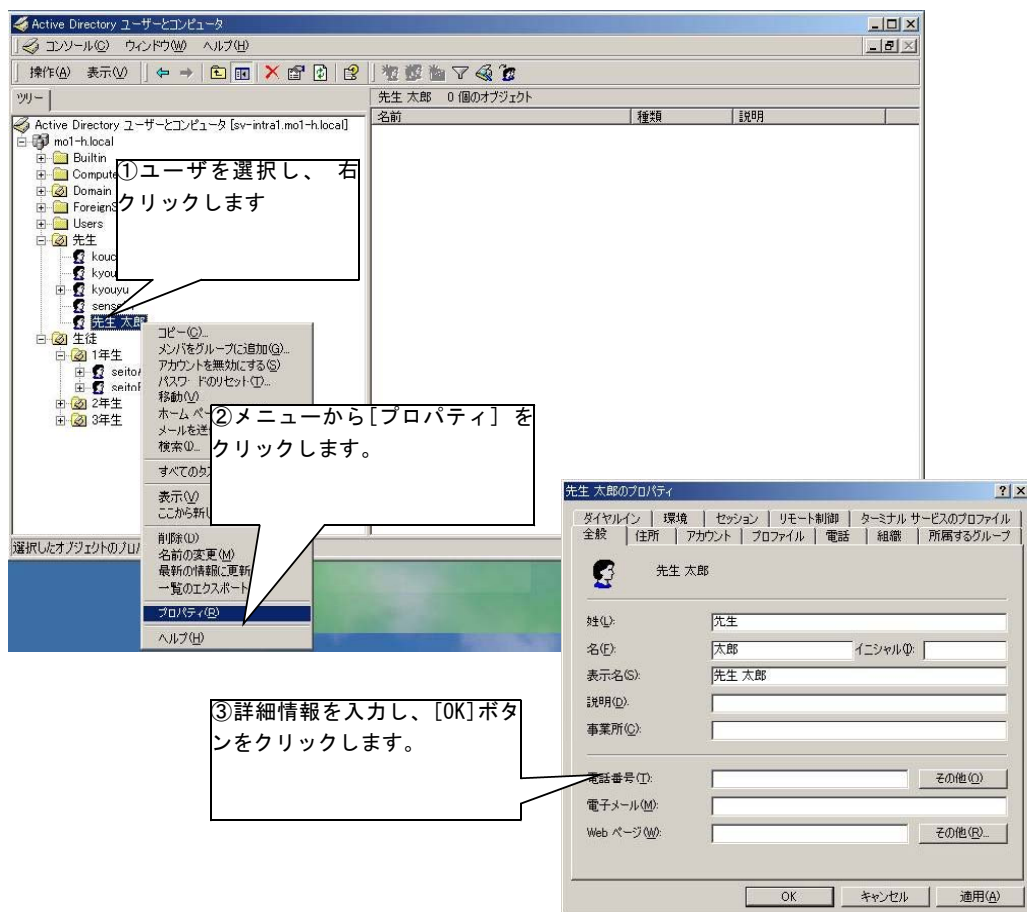
パスワードを無期限にする

< 戻る(B) 完了 キャンセル

- 6 クライアントから新規ユーザーでログインします。正常にログインできたら、ユーザー登録は完了です。

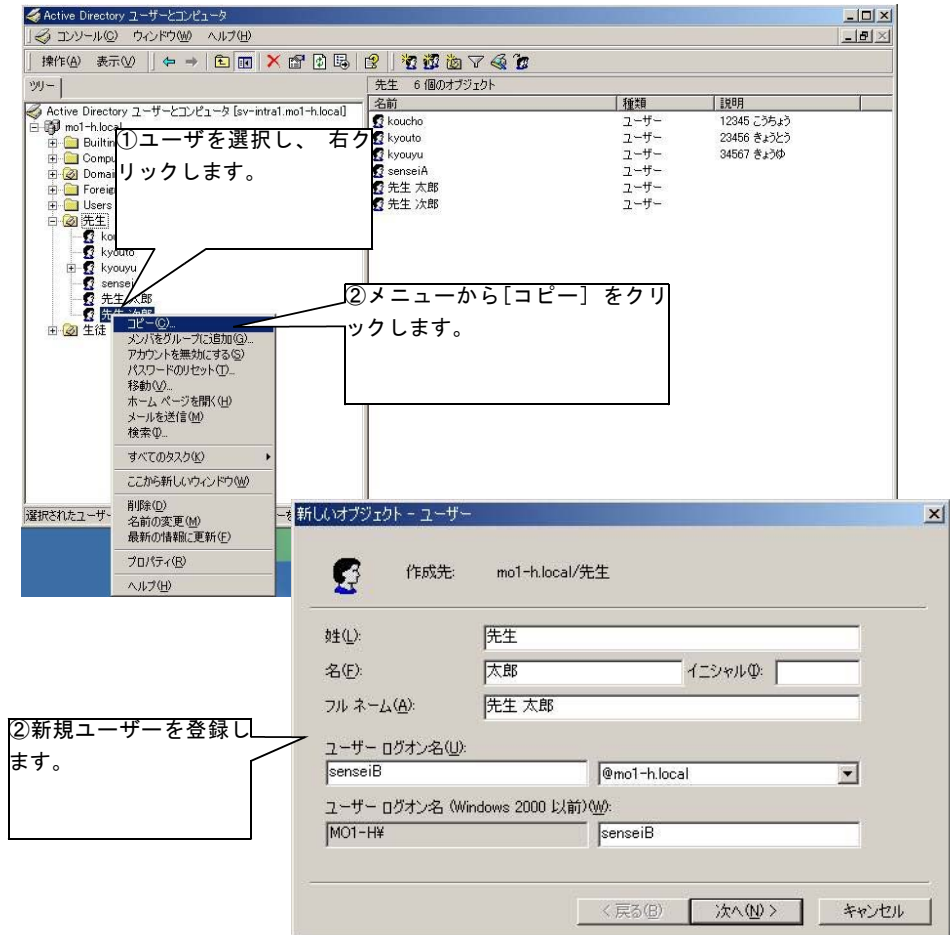
【補足①】 新規ユーザーの詳細情報を入力したい。

新規ユーザーのプロパティ画面において、詳細な情報を入力することが可能です。



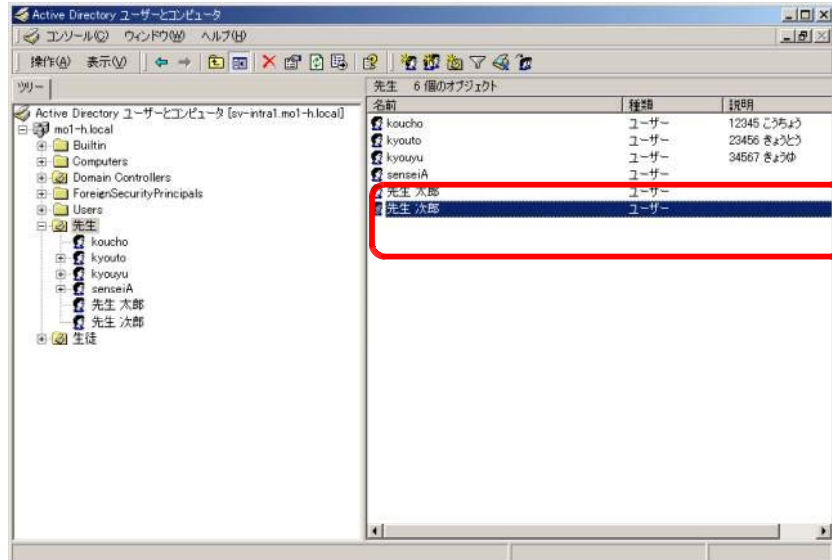
【補足②】新規ユーザーの詳細情報を入力する手間を省きたい。

既存のユーザー情報（学校名、所属するグループ等）を新規ユーザー作成時にコピーすることができます。

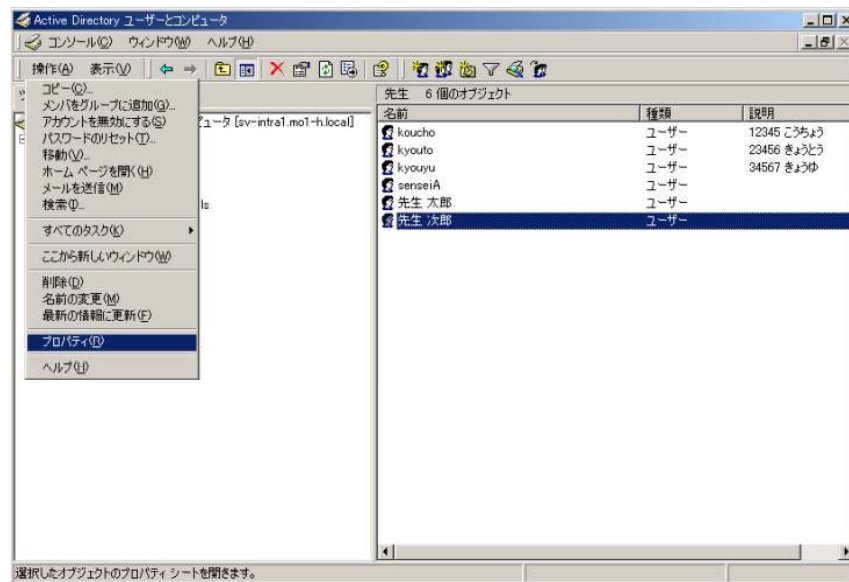


(3) ユーザー名を変更する

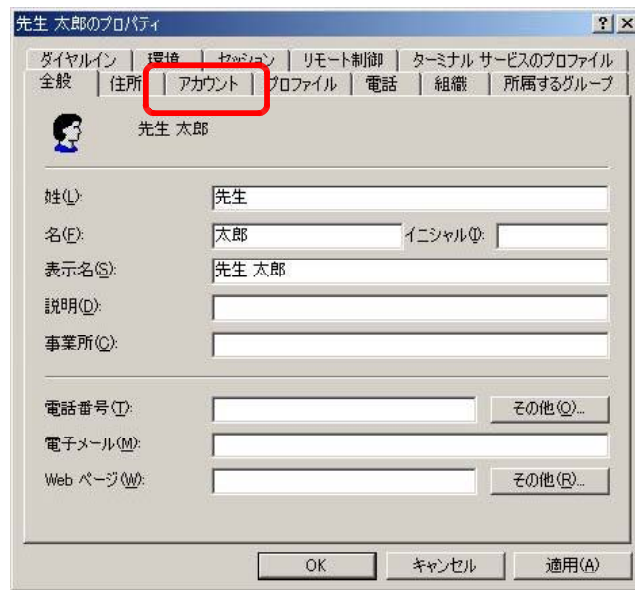
- 1 「Active Directoryユーザーとコンピュータ」画面において、変更するユーザーを選択します。



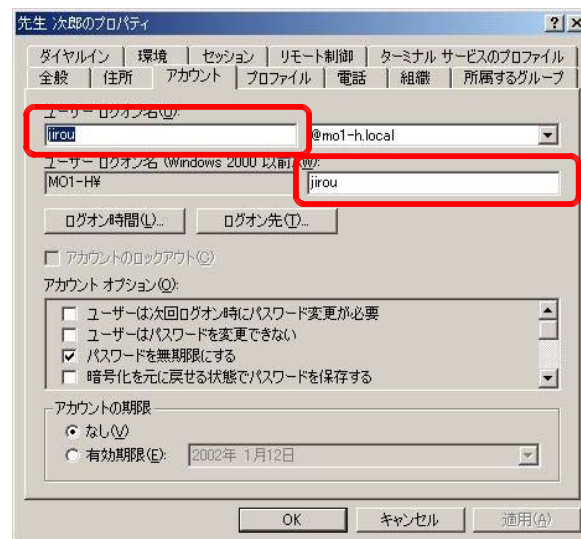
- 2 [操作] - [プロパティ] をクリックします。



- 3 「プロパティ」画面が表示されます。「アカウント」タブをクリックします。



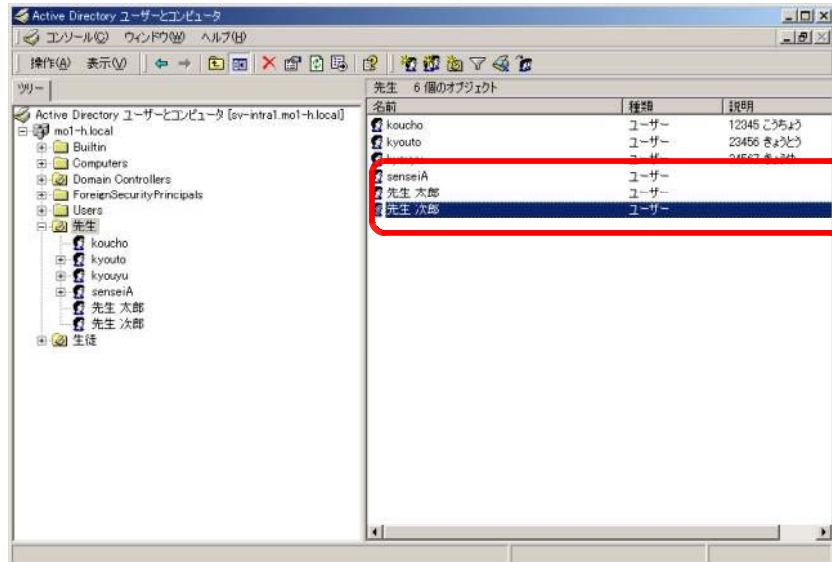
- 4 「ユーザーログオン名」、「ユーザーログオン名 (Windows2000 以前)」を変更し、[OK] ボタンをクリックします。



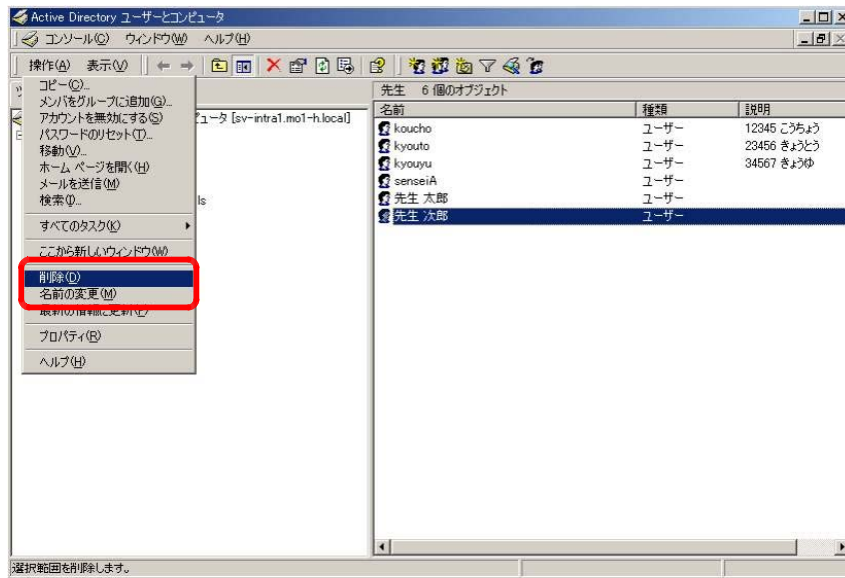
- 5 クライアントから新しいユーザー名でログインします。正常にログインできたら、ユーザー名の変更は完了です。

(4) ユーザーを削除する

- 1 「Active Directoryユーザーとコンピュータ」画面において、削除するユーザーを選択します。



- 2 [操作] - [削除] をクリックします。



- 3 「このオブジェクトを削除しますか？」画面が表示されます。[はい]ボタンをクリックしてください。



- 4 「Active Directoryユーザーとコンピュータ」画面において、ユーザーが削除されていることを確認したら、ユーザーの削除は完了です。

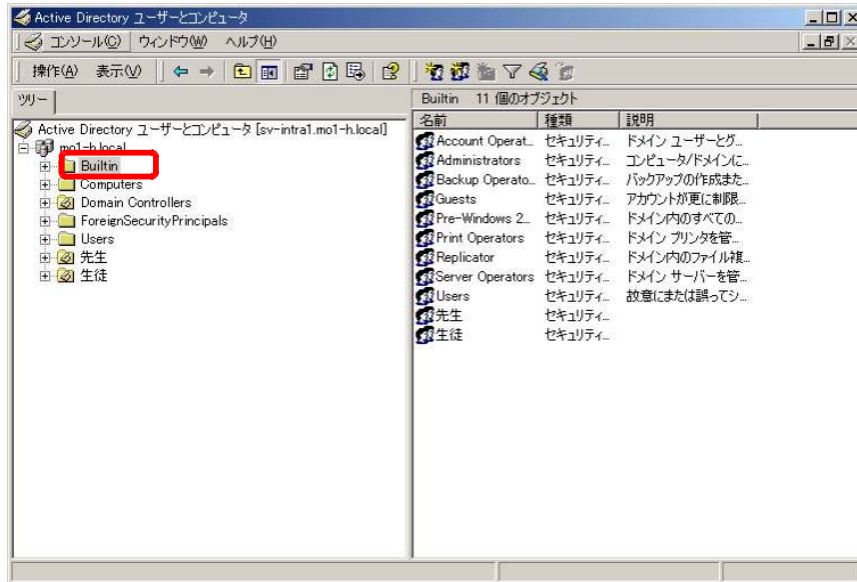
【補足③】一度に複数のユーザーを削除したい。

削除するユーザーを選択する際、[SHIFT]キー及び[CTRL]キーを活用することによって、複数のユーザーを選択することができます。複数のユーザーを選択した時も削除の操作は一緒です。

<p>[SHIFT]キーを押しながら、ユーザーを選択する。</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th>名前</th> <th>種類</th> <th>説明</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>koucho</td> <td>ユーザー</td> <td>12345 こうちょう</td> </tr> <tr> <td>kyouto</td> <td>ユーザー</td> <td>23456 きょうとう</td> </tr> <tr> <td>kyouyu</td> <td>ユーザー</td> <td>34567 きょうゆ</td> </tr> <tr> <td>senseiA</td> <td>ユーザー</td> <td></td> </tr> <tr> <td>先生 太郎</td> <td>ユーザー</td> <td></td> </tr> <tr> <td>先生 次郎</td> <td>ユーザー</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	名前	種類	説明	koucho	ユーザー	12345 こうちょう	kyouto	ユーザー	23456 きょうとう	kyouyu	ユーザー	34567 きょうゆ	senseiA	ユーザー		先生 太郎	ユーザー		先生 次郎	ユーザー	
名前	種類	説明																				
koucho	ユーザー	12345 こうちょう																				
kyouto	ユーザー	23456 きょうとう																				
kyouyu	ユーザー	34567 きょうゆ																				
senseiA	ユーザー																					
先生 太郎	ユーザー																					
先生 次郎	ユーザー																					
<p>[CTRL]キーを押しながら、ユーザーを選択する。</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th>名前</th> <th>種類</th> <th>説明</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>koucho</td> <td>ユーザー</td> <td>12345 こうちょう</td> </tr> <tr> <td>kyouto</td> <td>ユーザー</td> <td>23456 きょうとう</td> </tr> <tr> <td>kyouyu</td> <td>ユーザー</td> <td>34567 きょうゆ</td> </tr> <tr> <td>senseiA</td> <td>ユーザー</td> <td></td> </tr> <tr> <td>先生 太郎</td> <td>ユーザー</td> <td></td> </tr> <tr> <td>先生 次郎</td> <td>ユーザー</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	名前	種類	説明	koucho	ユーザー	12345 こうちょう	kyouto	ユーザー	23456 きょうとう	kyouyu	ユーザー	34567 きょうゆ	senseiA	ユーザー		先生 太郎	ユーザー		先生 次郎	ユーザー	
名前	種類	説明																				
koucho	ユーザー	12345 こうちょう																				
kyouto	ユーザー	23456 きょうとう																				
kyouyu	ユーザー	34567 きょうゆ																				
senseiA	ユーザー																					
先生 太郎	ユーザー																					
先生 次郎	ユーザー																					

(5) グループを作成する

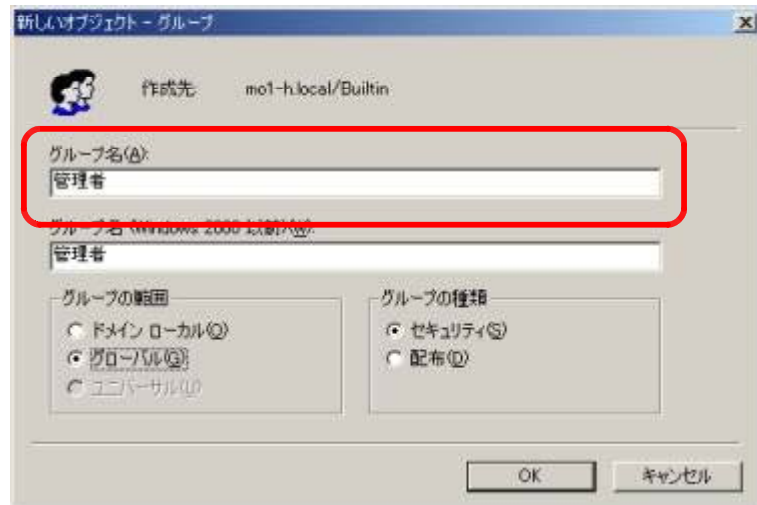
- 1 「Active Directoryユーザーとコンピュータ」画面において、[Builtin]をクリックします。



- 2 [操作]－[新規作成]－[グループ]を選択します。



- 3 「新しいオブジェクトグループ」画面が表示されます。「グループ名」を入力してください。

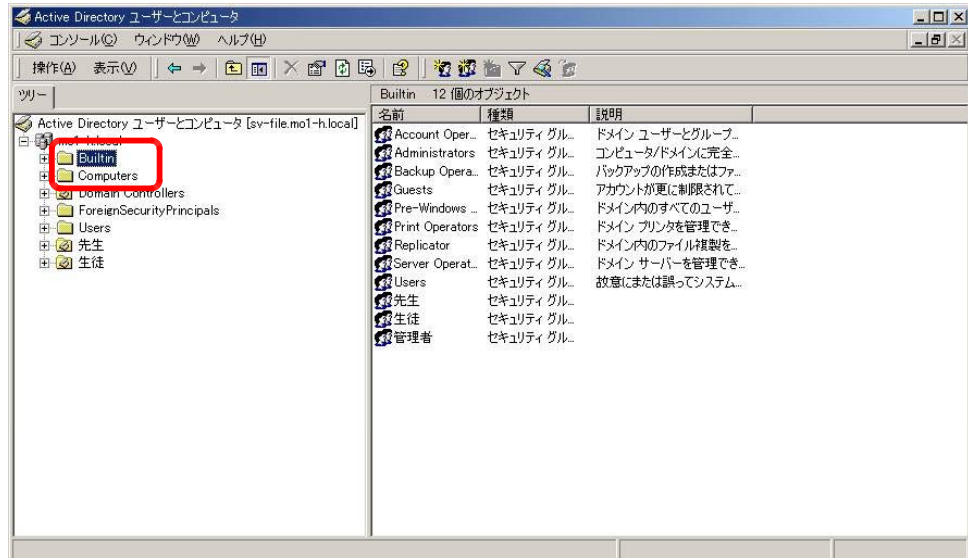


- 4 [OK] ボタンをクリックします。
- 5 「Active Directoryユーザーとコンピュータ」画面において、グループが作成されていることを確認したら、グループの作成は完了です。

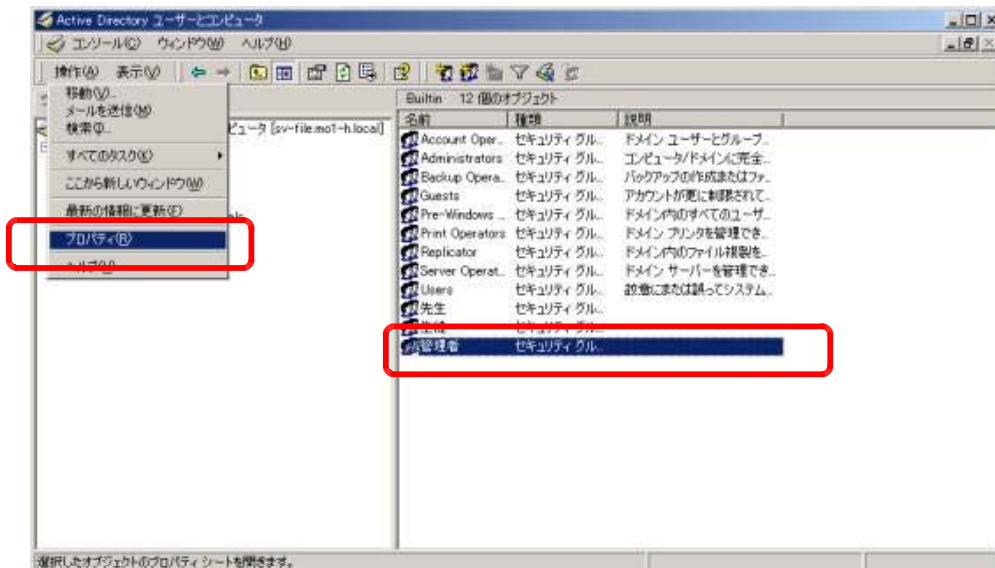
【補足④】 グループを変更・削除したい。
ユーザーの変更・削除と同様の操作で可能です。

(6) グループにユーザーを追加する

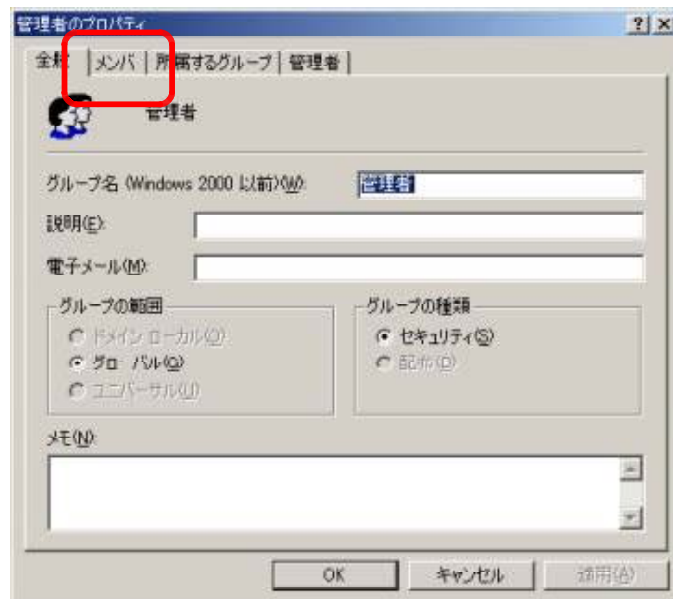
- 1 「Active Directoryユーザーとコンピュータ」画面において、[Builtin]をクリックします。



- 2 ユーザーを追加するグループをクリックし、[操作]—[プロパティ]を選択します。



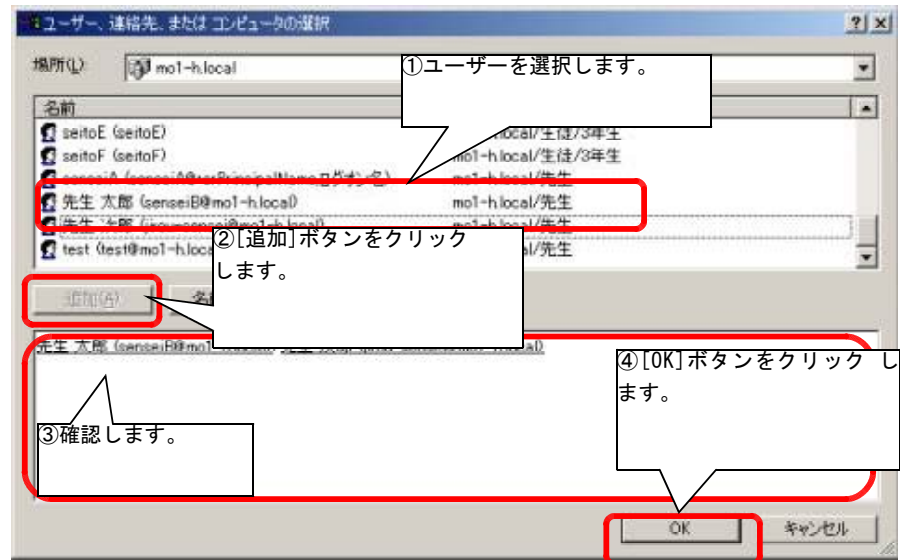
- 3 「プロパティ」画面が表示されます。[メンバ]タブをクリックしてください。



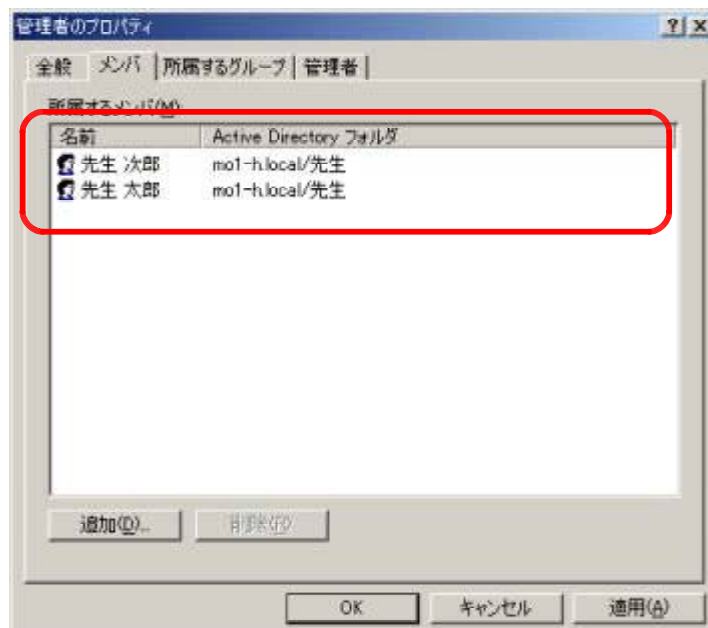
- 4 [追加] ボタンをクリックしてください。



- 4 「ユーザー、連絡先、またはコンピュータの選択」画面が表示されます。一覧からグループに追加するユーザーを選択し、[追加]ボタンをクリックしてください。グループの対象となるユーザーを追加したら、下段の表示欄にユーザーが追加されたことを確認して、[OK]ボタンをクリックしてください。



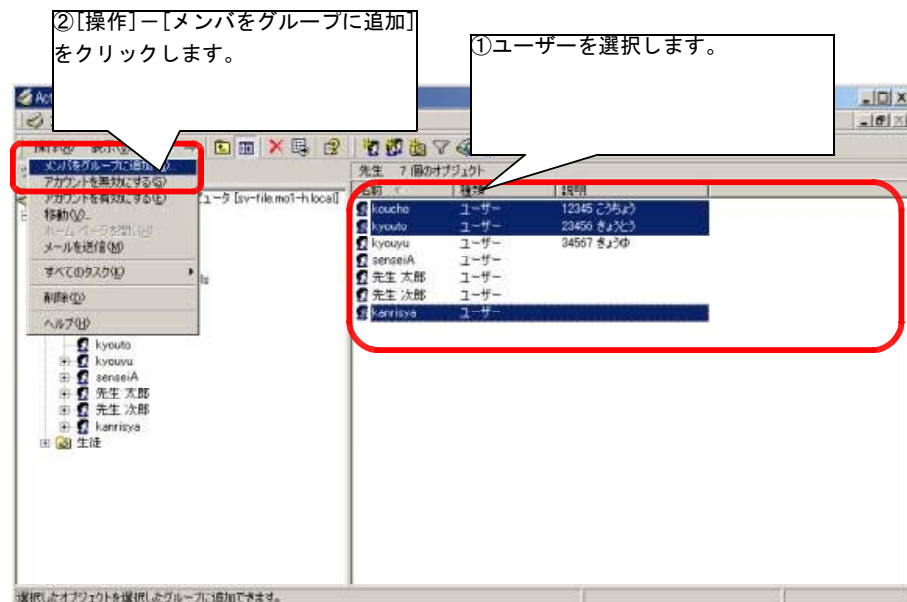
- 5 「プロパティ」画面に戻ります。「所属するメンバ」一覧にユーザーが表示されていることを確認してください。[OK]ボタンをクリックしてください。



- 6 「Active Directoryユーザーとコンピュータ」画面に戻ります。これではグループへのユーザー追加は完了です。

【補足⑤】「先生」OU配下にあるユーザーをまとめて「〇〇〇」グループに追加したい。OU配下のユーザーを選択し、[操作]－[メンバをグループに追加]をクリックするとユーザーをまとめて追加することが可能です。

- 1 OU配下において、ユーザーを選択します。
- 2 [操作]－[メンバをグループに追加]をクリックします。

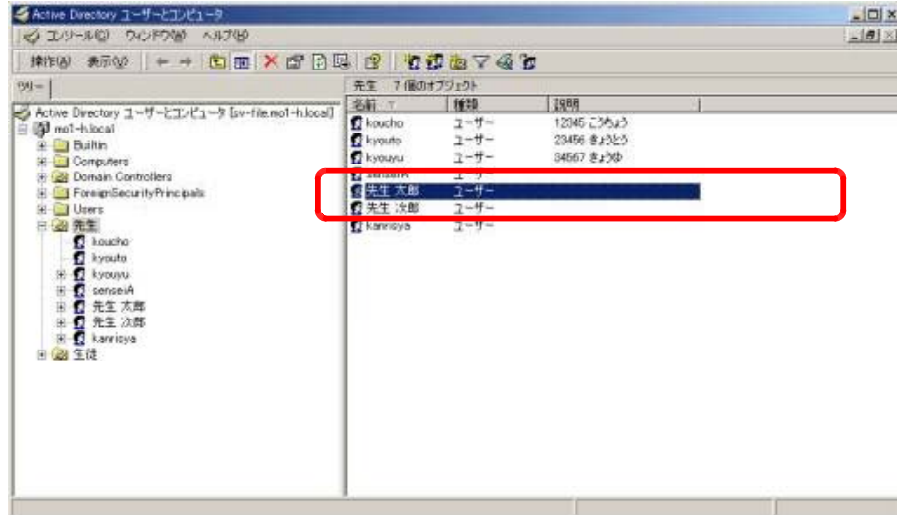


- 3 「グループの選択」画面が表示されます。追加したいグループを選択します。
- 4 [OK] ボタンをクリックします。

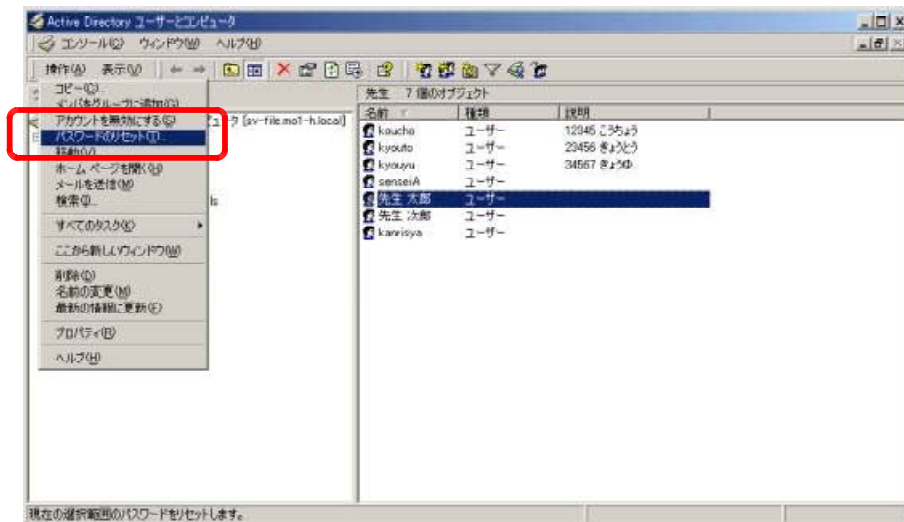


(7) ユーザーのパスワードを変更（解除）する

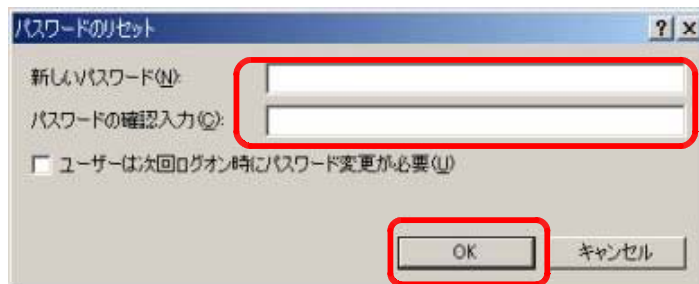
- 1 「Active Directoryユーザーとコンピュータ」画面において、パスワードを変更するユーザーをクリックします。



- 2 [操作] - [パスワードのリセット] をクリックします。



- 3 「パスワードのリセット」画面が表示されます。「パスワード」を入力し、[OK]ボタンをクリックしてください。



- 4 「〇〇〇〇のパスワードは変更されました。」画面が表示されます。[OK]ボタンをクリックしてください。



- 5 クライアントからパスワードを変更したユーザーでログインします。正常にログインできたら、ユーザーのパスワード変更は完了です。

【補足⑥】【SV-INTRA1】サーバーもしくは【SV-FILE】サーバーにおいて、ユーザー名「Administrator」のパスワードを変更したい。

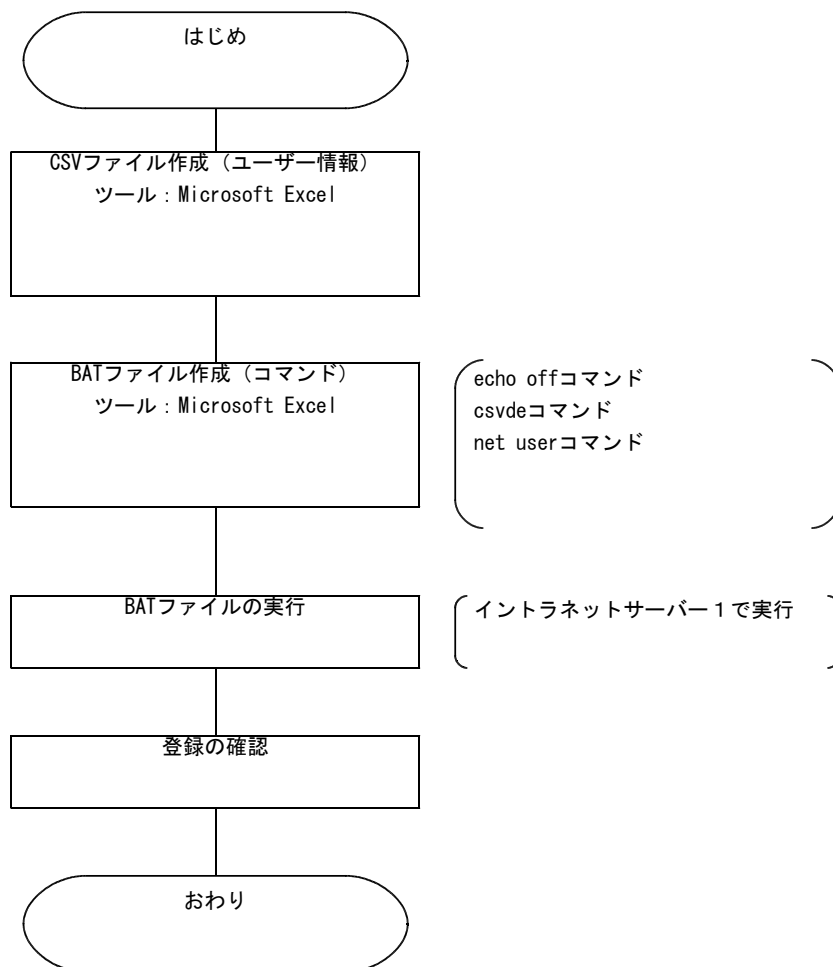
- 1 Windows 2000 Serverにおいて「Administrator」でログインします。
- 2 [Ctrl]+[Alt]+[Delete]キーを押下します。
- 3 「Windowsのセキュリティ」画面が表示されます。[パスワードの変更]ボタンをクリックします。
- 4 「パスワードの変更」画面が表示されます。「古いパスワード」及び「新しいパスワード」を入力し、[OK]ボタンをクリックします。
- 5 「パスワードは変更されました。」画面が表示されます。
- 6 Windows 2000 Serverにおいてユーザー名「Administrator」及び「新しいパスワード」で正常にログインできたら、パスワードの変更は完了です。

4-1-2 Windows 2000 Serverユーザーアカウント一括登録手順

1 作業フロー

Windows 2000 ServerのActive Directoryにおいて、ユーザーを一括登録する方法は、ユーザー情報をテキストファイル（CSV形式）に作成し、「CSVDE.EXE」コマンドで作成したユーザー情報をインポートする方法です。ただし、ユーザーのパスワードは「CSVDE.EXE」でインポート出来ませんので、DOSプロンプトにおいてユーザー個々に「net user」コマンドを打ち込む形となります。

しかし、手作業で行うと膨大な作業となりますので、実際にはこの一連の操作を自動化させるために、「CSVDE.EXE」、「net user」コマンドを実行するBATファイルを作成します。以下に全体的なフローを示します。



2 CSVファイル

2-1 ユーザー情報の属性

[Active Directoryユーザーとコンピュータ] 管理ツールでユーザーのプロパティで表示される「姓」、「名」及び「会社名」などの項目を属性と呼びます。一括登録する場合はインポートしたい属性を1行目に宣言し、2行目から個々のユーザー情報を追加していきます。なお、「cn」、「userPrincipalName」、「userAccountControl」の属性はユニークな文字を入力しなければなりません。

以下に属性とユーザーのプロパティで表示される項目名の対比表を示します。(一部を除く)

必須項目	今年度設定	属性	解説
○	○	DN	絶対識別名。作成するユーザーオブジェクトの名前と配置を特定する
○	○	objectClass	OUやユーザーなどのオブジェクトの種類を指定する
○	○	cn	識別名 (半角英数 20 文字以内)
	○	sn	姓
	○	givenName	名
	○	displayName	表示名
	○	description	説明
		physicalDeliveryOfficeName	事務所
		telephoneNumber	電話番号
	○	mail	電子メール
		wwwHomePage	ホームページ
○	○	userPrincipalName	ユーザーログオン名 (半角英数 20 文字以内)
○	○	sAMAccountName	ダウンレベルログオン名 (半角英数 20 文字以内)
○	○	userAccountControl	アカウントオプション
		profilePath	プロファイルパス
		scriptPath	ログオンスクリプト
		homeDirectory	ホームディレクトリ
	○	company	会社名
		department	部署
	○	title	役職

なお、ここでアカウントオプション（userAccountControl）に指定されている数値の意味について、以下に示します。アカウントオプションは数値（10進数）で指定します。

フラグ (10進数)	フラグ (16進数)	解説
1	1	ログオンスクリプトを実行する
2	2	アカウントを無効にする
3	3	ホームディレクトリが必須となる
16	10	アカウントはロックアウト状態である
32	20	パスワードを不必要にする
64	40	ユーザーはパスワードを変更できない
128	80	暗号化を元に戻せる状態でパスワードを保存する
512	200	デフォルト形式のユーザーアカウントとする
65536	10000	パスワードを無制限にする
262144	40000	対話型ログオンにはスマートカードが必要
524288	80000	アカウントは委任に対して信頼されている
1048576	100000	アカウントは重要なので委任できない
4194304	400000	Kerberos事前認証を必要としない

今回、アカウントオプションは以下の設定値を使用します。

設定内容	設定値(10進数)
パスワードを不必要にする	32
デフォルト形式のユーザーアカウントとする	512
パスワードを無制限にする	65536
合 計	66080

2-2 CSVファイルの作成

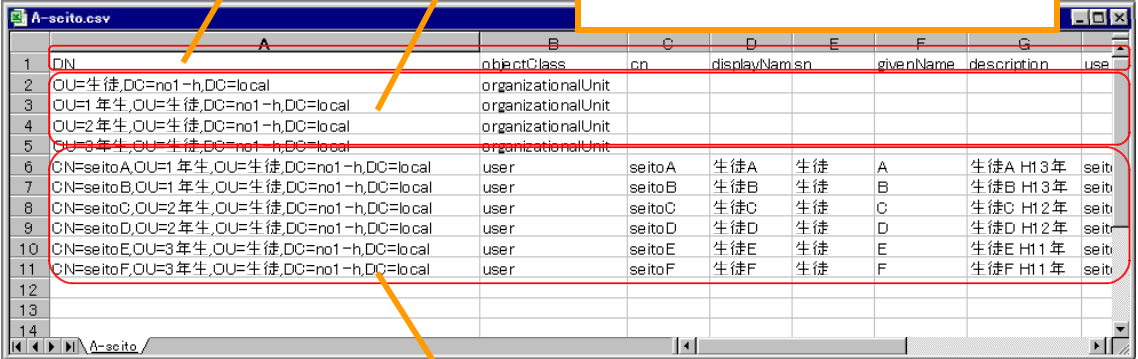
【作業手順】

- 1 Microsoft Excelを立ち上げ、以下の様にユーザー情報を入力します。

※Microsoft Excelの関数等を使用すると作業がスムーズに進みます。

登録する属性を入力します。

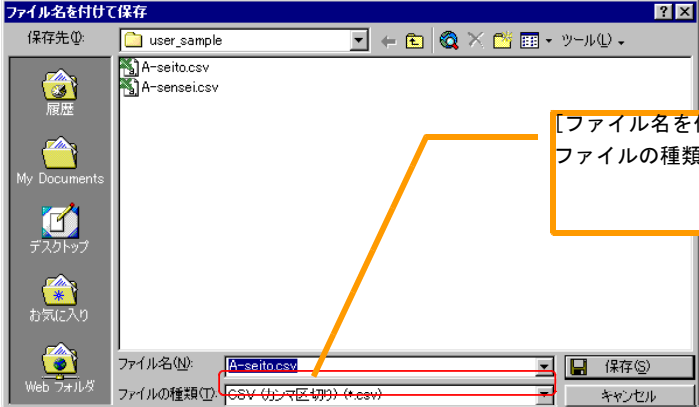
OUを新規に作成する場合に記述します。既にOUが存在する場合は必要ありません。



	A	B	C	D	E	F	G	
1	DN	objectClass	cn	displayName	givenName	description		use
2	OU=生徒,DC=no1-h,DC=local	organizationalUnit						
3	OU=1年生,OU=生徒,DC=no1-h,DC=local	organizationalUnit						
4	OU=2年生,OU=生徒,DC=no1-h,DC=local	organizationalUnit						
5	OU=3年生,OU=生徒,DC=no1-h,DC=local	organizationalUnit						
6	CN=seitoA,OU=1年生,OU=生徒,DC=no1-h,DC=local	user	seitoA	生徒A	生徒	A	生徒A H13年	seito
7	CN=seitoB,OU=1年生,OU=生徒,DC=no1-h,DC=local	user	seitoB	生徒B	生徒	B	生徒B H13年	seito
8	CN=seitoC,OU=2年生,OU=生徒,DC=no1-h,DC=local	user	seitoC	生徒C	生徒	C	生徒C H12年	seito
9	CN=seitoD,OU=2年生,OU=生徒,DC=no1-h,DC=local	user	seitoD	生徒D	生徒	D	生徒D H12年	seito
10	CN=seitoE,OU=3年生,OU=生徒,DC=no1-h,DC=local	user	seitoE	生徒E	生徒	E	生徒E H11年	seito
11	CN=seitoF,OU=3年生,OU=生徒,DC=no1-h,DC=local	user	seitoF	生徒F	生徒	F	生徒F H11年	seito
12								
13								
14								

ユーザー情報を入力します。

- 2 作成したファイルをCSV形式で保存します。



[ファイル名を付けて保存]で保存します。
ファイルの種類はCSVにします。

3 作成したCSV形式のファイルをメモ帳等で開き、確認します。

```
DN,objectClass,cn,displayName,sn,givenName,description,userPrincipalName,sAMAccountName,user
AccountControl,mail,Company,title
"OU=生徒,DC=no1-h,DC=local",organizationalUnit,,,,,,,,,
"OU=1年生,OU=生徒,DC=no1-h,DC=local",organizationalUnit,,,,,,,,,
"OU=2年生,OU=生徒,DC=no1-h,DC=local",organizationalUnit,,,,,,,,,
"OU=3年生,OU=生徒,DC=no1-h,DC=local",organizationalUnit,,,,,,,,,
"CN=seitoA,OU=1年生,OU=生徒,DC=no1-h,DC=local",user,seitoA,生徒A,生徒,A,生徒A H13年,seitoA,se
itoA,66080,seitoA@no1-h.iwate-ed.jp,第一高等学校,
"CN=seitoB,OU=1年生,OU=生徒,DC=no1-h,DC=local",user,seitoB,生徒B,生徒,B,生徒B H13年,seitoB,se
itoB,66080,seitoB@no1-h.iwate-ed.jp,第一高等学校,
"CN=seitoC,OU=2年生,OU=生徒,DC=no1-h,DC=local",user,seitoC,生徒C,生徒,C,生徒C H12年,seitoC,se
itoC,66080,seitoC@no1-h.iwate-ed.jp,第一高等学校,
"CN=seitoD,OU=2年生,OU=生徒,DC=no1-h,DC=local",user,seitoD,生徒D,生徒,D,生徒D H12年,seitoD,se
itoD,66080,seitoD@no1-h.iwate-ed.jp,第一高等学校,
"CN=seitoE,OU=3年生,OU=生徒,DC=no1-h,DC=local",user,seitoE,生徒E,生徒,E,生徒E H11年,seitoE,se
itoE,66080,seitoE@no1-h.iwate-ed.jp,第一高等学校,
"CN=seitoF,OU=3年生,OU=生徒,DC=no1-h,DC=local",user,seitoF,生徒F,生徒,F,生徒F H11年,seitoF,se
itoF,66080,seitoF@no1-h.iwate-ed.jp,第一高等学校,
```

3 BATファイル

3-1 使用する実行ファイル及びコマンド

BATファイルの内容は以下の実行ファイル及びコマンドを使用します。

実行コマンド/コマンド	解説
echo off csvde -i -f [ファイル名.csv]	コマンドエコーをOFFにします。 Active Directoryの情報をテキストファイルにインポートします。 -i インポートモードにします。 -f [ファイル名.csv] インポートしたファイルを指定します。
net user [属性cn] [パスワード]	ユーザーのパスワードを設定します。

3-2 BATファイルの作成とユーザー情報のインポート

【作業手順】

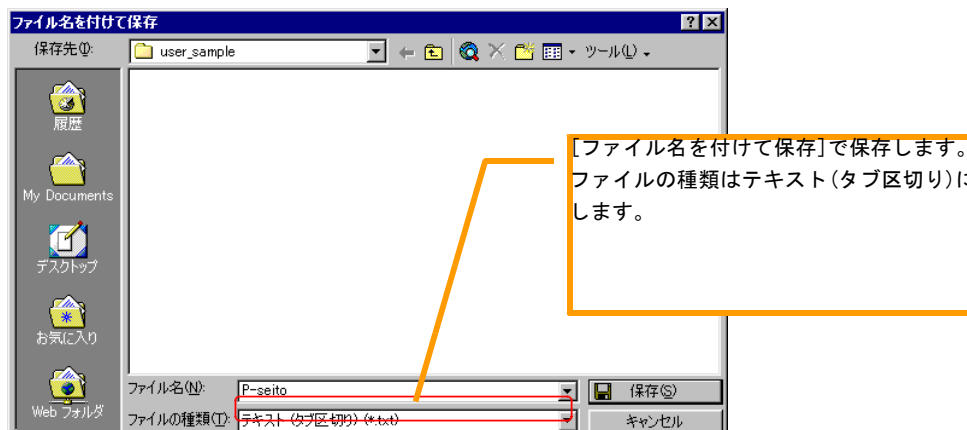
- 1 Microsoft Excelを立上げ、以下の様にユーザー情報を入力します。

「csvde.exe」によりユーザー情報をインポートします。

3行目以降にユーザーのパスワードを設定します。

B列に属性のcnの値、C列にパスワードを入力し、A列で関数等を使用すると作業がスムーズになります。
例) A列の数式
=" net user "&B3&" "C3
最後にB列、C列を削除してください。

- 2 作成したファイルをテキスト形式で保存します。



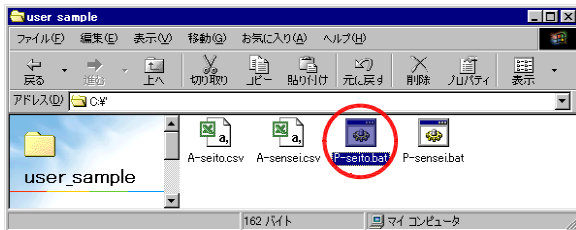
- 3 ファイルの拡張子を「.txt」から「.bat」に変更します。

- 4 作成したBATファイルをメモ帳等で開き、確認します。

```
echo off
csvde -I -f A-seito.csv
net user seitoA aaa
net user seitoB bbb
net user seitoC ccc
net user seitoD ddd
net user seitoE eee
net user seitoF fff
```

- 5 作成したCSVファイル及びBATファイルをフロッピーディスク等に保存し、イントラネットサーバー 1 にコピーします。ただし、CSVファイル及びBATファイルの保存は同一ディレクトリとします。

6 BATファイルを実行します。



7 イン트라ネットサーバー 1 において、[Active Directoryユーザーとコンピュータ] 管理ツールを開き、ユーザー情報が一括登録されているか確認します。

正常に一括登録された場合、「csv.log」ファイルが作成されます。ファイルの内容は以下
のとおりです。

```
ファイル名 : csv.log

“(null)” に接続しています
SSPI を使って現在のユーザーとしてログインしています
ファイル “Conv-seito.csv” からディレクトリをインポートしています
エントリを読み込んでいます
2: OU=生徒,DC=edu,DC=local
Attribute 0) objectClass: organizationalUnit

エントリを正しく修正しました。
3: OU=1 年生,OU=生徒,DC=edu,DC=local
Attribute 0) objectClass: organizationalUnit

エントリを正しく修正しました。
4: OU=2 年生,OU=生徒,DC=edu,DC=local
Attribute 0) objectClass: organizationalUnit

エントリを正しく修正しました。
5: OU=3 年生,OU=生徒,DC=edu,DC=local
Attribute 0) objectClass: organizationalUnit

エントリを正しく修正しました。
6: CN=h14-yamada-tarou,OU=1 年生,OU=生徒,DC=edu,DC=local
Attribute 0) objectClass: user
Attribute 1) cn: h14-yamada-tarou
Attribute 2) displayName: 山田 太郎
Attribute 3) sn: 山田
Attribute 4) givenName: 太郎
Attribute 5) description: やまだたろう h14 年
Attribute 6) userPrincipalName: h14-yamada-tarou
Attribute 7) sAMAccountName: h14-yamada-tarou
Attribute 8) userAccountControl: 66080
Attribute 9) mail: h14-yamada-tarou@edu.iwate-ed.jp
Attribute 10) Company: 岩手県立〇〇高等学校

エントリを正しく修正しました。
5 個のエントリを正しく修正しました。

コマンドが正しく完了しました
```

また、登録エラーの場合は、「csv.log」及び「csv.err」ファイルが作成されます。ファイルの内容は以下のとおりです。

＜CSVファイルに既に登録されているOUが存在する場合＞

ファイル名 : csv.log	ファイル名 : csv.err
<p>“(null)”に接続しています SSPI を使って現在のユーザーとしてログインしています ファイル “Conv-seito.csv” からディレクトリをインポートしています エンTRIESを読み込んでいます 2: OU=生徒,DC=edu,DC=local Attribute 0) objectClass: organizationalUnit エラー (行 2: 既に存在します) サーバー側のエラー “既に使用されている名前でオブジェクトをディレクトリに追加しようとした。” ” 0 個のエンTRIESを正しく修正しました。 プログラムでエラーが発生しました</p>	<p>Attribute 0) objectClass: organizationalUnit エラー (行 2: 既に存在します) サーバー側のエラー “既に使用されている名前でオブジェクトをディレクトリに追加しようとした。” プログラムでエラーが発生しました</p>

<CSVファイルに同じ名前のユーザーが存在する場合>

ファイル名 : csv.log	ファイル名 : csv.err
<p>“(null)” に接続しています SSPI を使って現在のユーザーとしてログインしています ファイル “Conv-seito.csv” からディレクトリをインポートしています エントリを読み込んでいます 2: OU=生徒,DC=edu,DC=local Attribute 0) objectClass: organizationalUnit</p> <p>エントリを正しく修正しました。 3: OU=1 年生,OU=生徒,DC=edu,DC=local Attribute 0) objectClass: organizationalUnit</p> <p>エントリを正しく修正しました。 4: OU=2 年生,OU=生徒,DC=edu,DC=local Attribute 0) objectClass: organizationalUnit</p> <p>エントリを正しく修正しました。 5: OU=3 年生,OU=生徒,DC=edu,DC=local Attribute 0) objectClass: organizationalUnit</p> <p>エントリを正しく修正しました。 6: CN=h14-yamada-tarou,OU=1 年生,OU=生徒,DC=edu,DC=local Attribute 0) objectClass: user Attribute 1) cn: h14-yamada-tarou Attribute 2) displayName: 山田 太郎 Attribute 3) sn: 山田 Attribute 4) givenName: 太郎 Attribute 5) description: やまだたろう h14 年 Attribute 6) userPrincipalName: h14-yamada-tarou Attribute 7) sAMAccountName: h14-yamada-tarou Attribute 8) userAccountControl: 66080 Attribute 9) mail: h14-yamada-tarou@edu.iwate-ed.jp Attribute 10) Company: 岩手県立〇〇高等学校</p> <p>エントリを正しく修正しました。 7: CN=h14-yamada-tarou,OU=1 年生,OU=生徒,DC=edu,DC=local Attribute 0) objectClass: user Attribute 1) cn: h14-yamada-tarou Attribute 2) displayName: 山田 太郎 Attribute 3) sn: 山田 Attribute 4) givenName: 太郎 Attribute 5) description: やまだたろう h14 年 Attribute 6) userPrincipalName: h14-yamada-tarou Attribute 7) sAMAccountName: h14-yamada-tarou Attribute 8) userAccountControl: 66080 Attribute 9) mail: h14-yamada-tarou@edu.iwate-ed.jp Attribute 10) Company: 岩手県立〇〇高等学校</p> <p>エラー (行 7: 既に存在します) サーバー側のエラー “指定されたユーザーは既に存在します。” プログラムでエラーが発生しました</p> <p>5 個のエントリを正しく修正しました。 プログラムでエラーが発生しました</p>	<p>Attribute 0) objectClass: user Attribute 1) cn: h14-yamada-tarou Attribute 2) displayName: 山田 太郎 Attribute 3) sn: 山田 Attribute 4) givenName: 太郎 Attribute 5) description: やまだたろう h14 年 Attribute 6) userPrincipalName: h14-yamada-tarou Attribute 7) sAMAccountName: h14-yamada-tarou Attribute 8) userAccountControl: 66080 Attribute 9) mail: h14-yamada-tarou@edu.iwate-ed.jp Attribute 10) Company: 岩手県立〇〇高等学校</p> <p>エラー (行 7: 既に存在します) サーバー側のエラー “指定されたユーザーは既に存在します。” プログラムでエラーが発生しました</p>

4-1-3 IMailの運用管理

(1) IMailのユーザー登録について

IMailにおけるユーザー(アカウント)登録はWindows 2000 ServerのActive Directoryのデータベースから取得する設定をしているため、IMailで新規に登録する必要はありません。各ユーザーのメールアドレスは、Windowsドメインのログイン名に学校ドメインを追加したアドレスとなります。また、パスワードもWindowsドメインのパスワードとなります。

メールアドレス	: [ログイン名]@〇〇〇-〇.iwate-ed.jp
パスワード	: [ログイン時のパスワード]

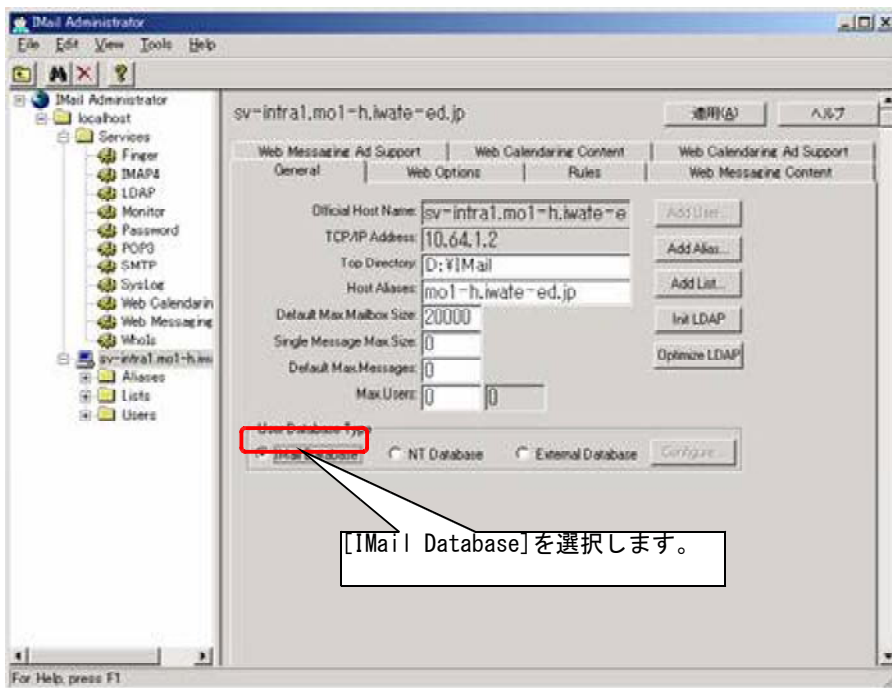
Active Directoryにおいて新規にユーザーを作成後、すぐにユーザーのメール環境が整いますが、以下の事象が確認されており、追加作業をしなければなりません。

- | |
|--|
| <ul style="list-style-type: none">・新規ユーザーのメールボックスが作成されず、最初にWebメールを送信しようとするファイルが添付できない。・Webメールでメールを送信した場合、アドレスのドメイン部の初期値が[sv-intra1.〇〇〇-〇.iwate-ed.jp]となる。この場合、Webメールで送信後、相手がWebメールで返信すると[sv-intra1.]が付いているため返信できない。 |
|--|

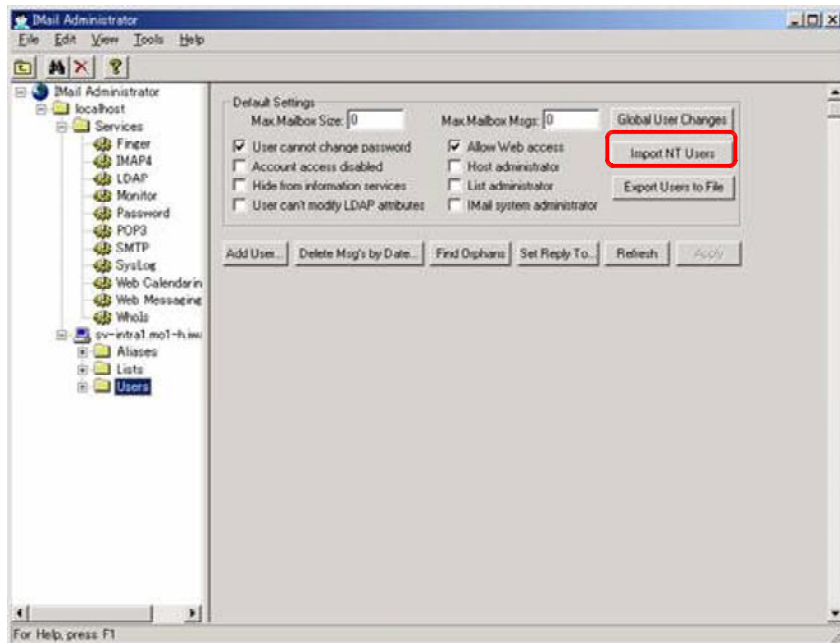
以下に、Active Directoryでユーザーの新規作成後に行う追加の作業手順を示します。

【新規ユーザー登録後の作業手順】

- 1 ディスก์トップにおいて、[スタート]－[プログラム]－[IMail]－[IMail Administrator]をクリックします。
- 2 「IMail Administrator」画面が表示されます。[IMail Administrator]－[localhost]－[sv-intra1.000-0.iwate-ed.jp]の[General]タブを選択し、以下の様に設定します。設定後、[適用]ボタンをクリックしてください。



- 3 [IMail Administrator]－[localhost]－[sv-intra1.OOO-O.iwate-ed.jp]－[Users] を選択し、[Import NT Users]ボタンをクリックしてください。

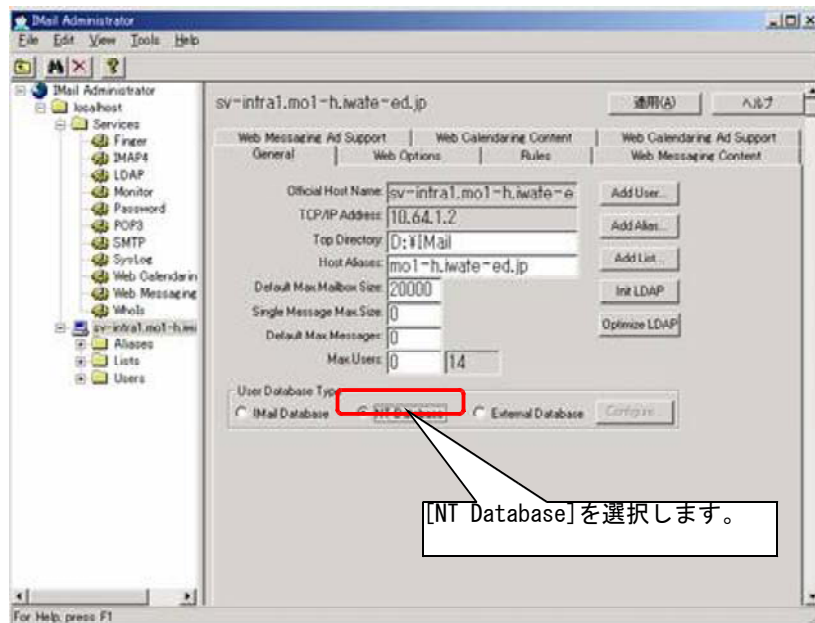


- 4 「Import NT Users」画面が表示されます。登録したユーザーを選択し、[Add Selected Users]ボタンをクリックしてください。

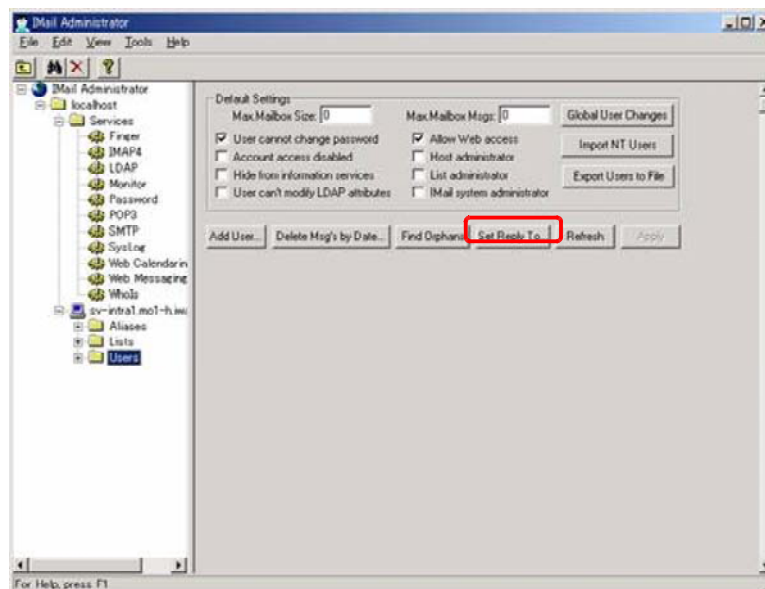


以下のユーザーを選択します。
Administrator
maint
先生ユーザー（全て）
生徒ユーザー（全て）

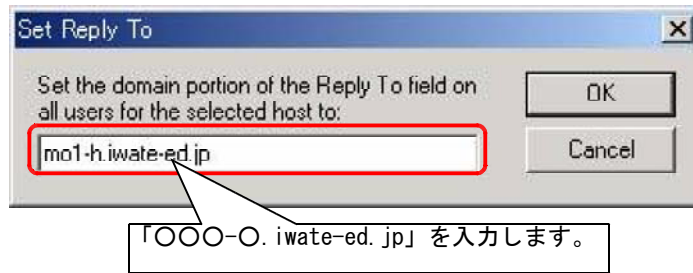
- 5 [IMail Administrator]－[localhost]－[sv-intra1.OOO-O.iwate-ed.jp]を選択し、以下の様に設定します。設定後、[適用]ボタンをクリックしてください。



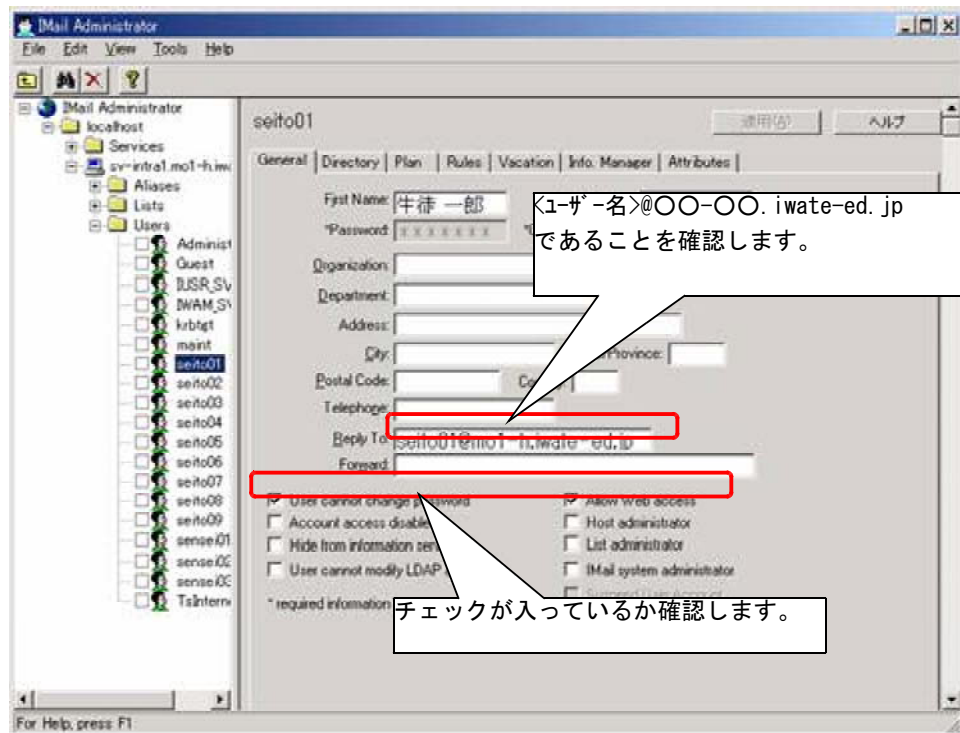
- 6 [IMail Administrator]－[localhost]－[sv-intra1.OOO-O.iwate-ed.jp]－[Users]を選択し、[Set Reply To]ボタンをクリックしてください。



- 7 「Set Reply To」画面が表示されます。設定後、[OK]ボタンをクリックしてください。



- 8 [IMail Administrator] - [localhost] - [sv-intra1.〇〇〇-〇.iwate-ed.jp] - [Users] を選択し、任意のユーザーをクリックしてください。[General] タグをクリックし、以下のように設定されているか確認してください。



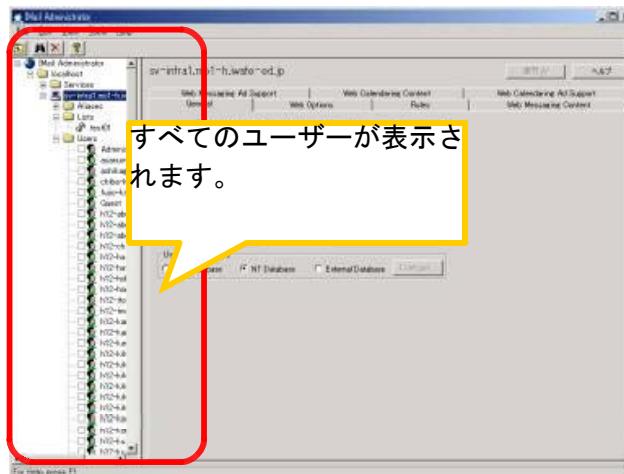
(2) リモートからのメーリングリスト管理

ユーザーに管理者権限を付与するとにより、リモートからメーリングリスト等の管理が行えます。小規模のメーリングリストを作成したり、設定変更等があった場合にはこちらが便利です。

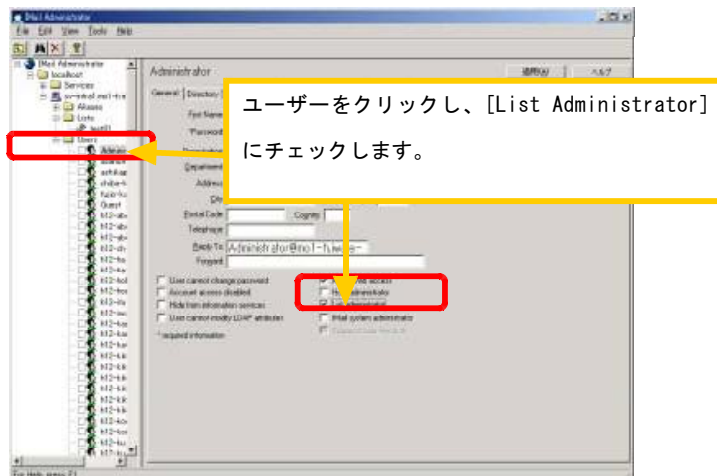
以下にユーザーへ管理者権限を与える設定手順と管理方法を述べます。

【手順 1】ユーザーに全てのメーリングリストを管理する権限を与える

- 1 [スタート]－[プログラム]－[IMail]－[I Mail Administrator]をクリックします。
- 2 「I Mail Administrator」画面が表示されます。[localhost]－[sv-intra1.000-0.iwat-e-ed.jp]－[Users]を展開します。



- 3 一覧からユーザーをクリックし、List Administrator権限にチェックを入れます。チェックを入れた後は[適用]ボタンをクリックします。

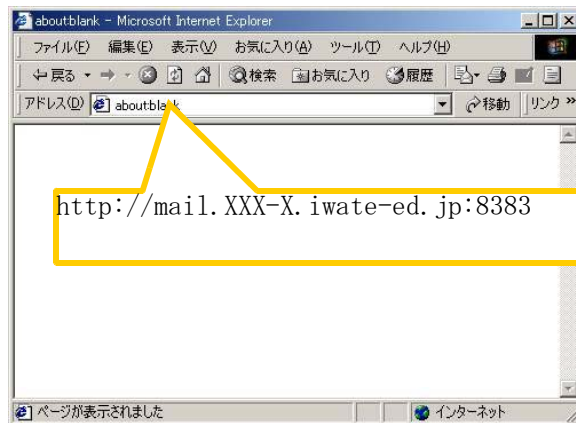


- 4 管理者権限を与えたユーザーは以下のようになります。引き続きユーザーに管理者権限を与える場合は、同様に設定してください。終了するときは、「Imail Administrator」画面を閉じてください。

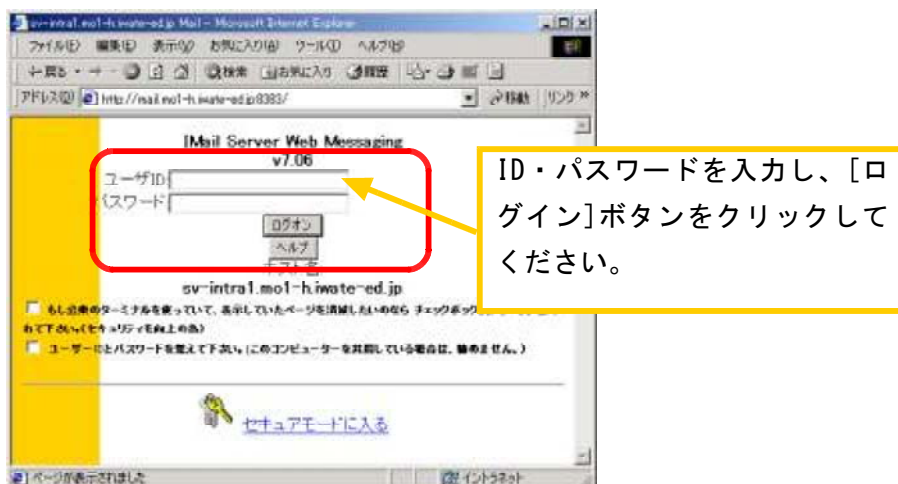


【手順2】リモートでメーリングリストを管理する

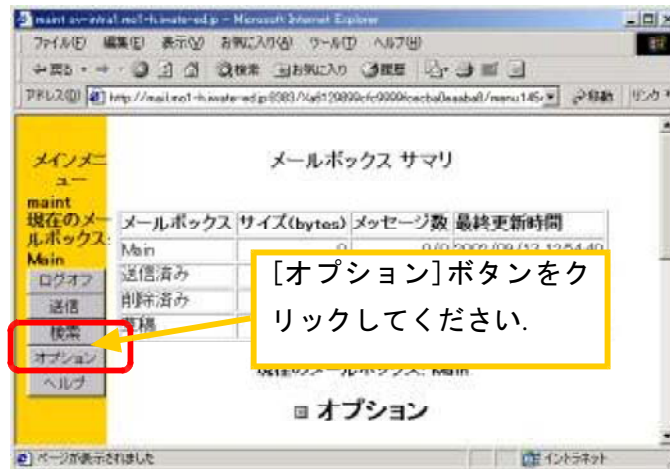
- 1 クライアントよりInternet Explorerのアイコンをダブルクリックしてください。
- 2 「Internet Explorer」画面が表示されます。「アドレス」入力欄にImailのURLを入力し、[Enter]キーを押下してください。



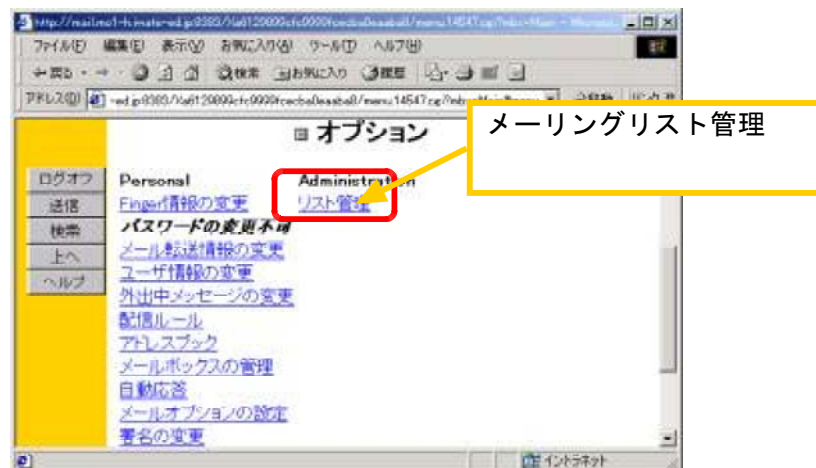
- 3 Administrator権限を与えたユーザーのID・パスワードを入力し、[ログイン]ボタンをクリックしてください。



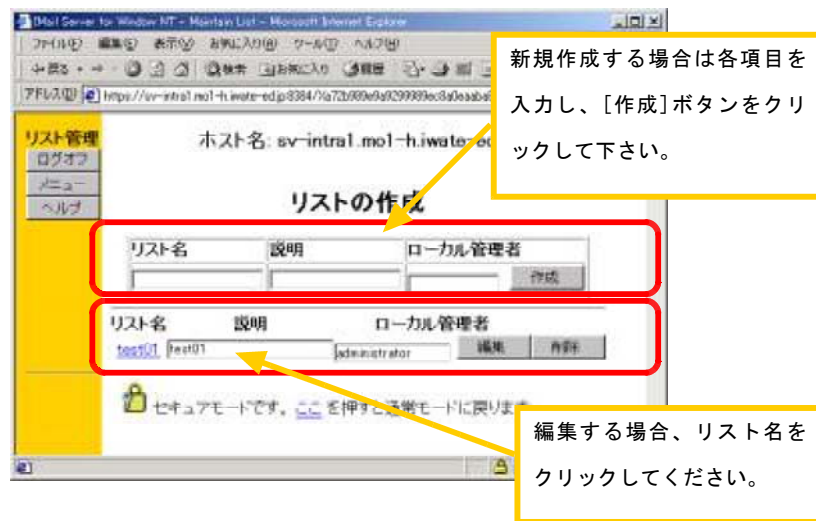
- 4 「メールボックスサマリ」画面が表示されます。メインメニューより[オプション]ボタンをクリックしてください。



- 5 「オプション」が表示されます。Administrationから[リスト管理]を選択してください。

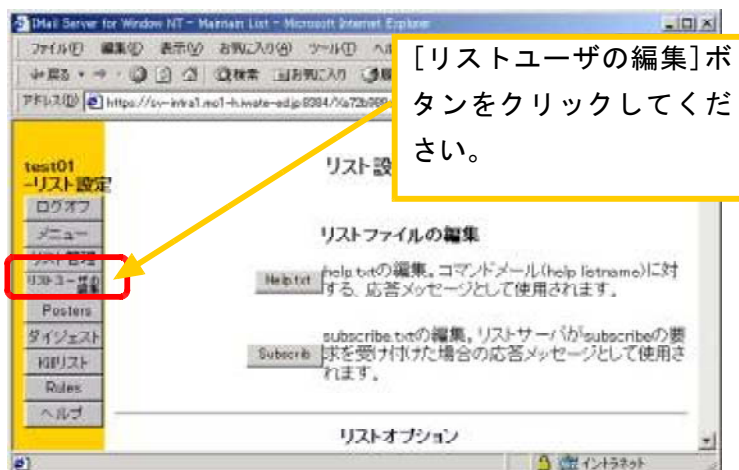


- 6 「リスト管理」画面が表示されます。こちらの画面からメーリングリストの作成を行います。既存のメーリングリストを修正する場合は、リスト名をクリックしてください。



ローカル管理者は個々のメーリングリストのみを管理できます。よって、新規にメーリングリストを作成する権限は与えられません。
全てのメーリングリストを管理する権限を与えるには「IMail Administrator」でList Administratorの権限を与えます。

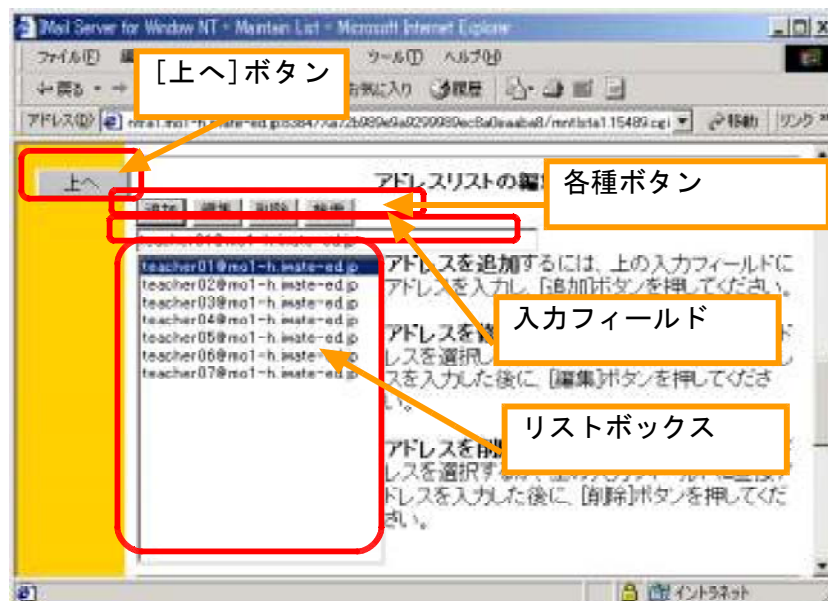
- 7 「リスト設定」画面が表示されます。[リストユーザの編集]ボタンをクリックしてください。



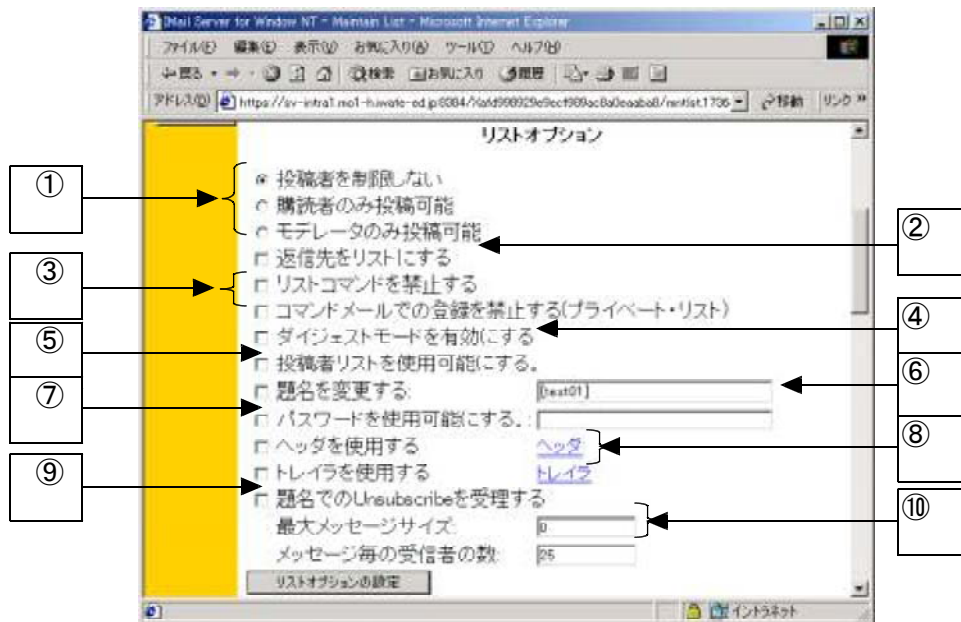
8 「アドレスリストの編集」が表示されます。操作方法は以下のとおりです。アドレスリストの編集が終了したら、[上へ]ボタンをクリックしてください。

※「アドレスリストの編集に」登録されたユーザーのみ、メーリングリストに投稿されたメールが配信されます。

項目	内容
追加	入力フィールドにアドレスを入力し、[追加]ボタンを押してください。
編集	リストボックスからアドレスを選択し、入力フィールドに新しいアドレスを入力した後に[編集]ボタンを押してください。
削除	リストボックスからアドレスを選択した後に[削除]ボタンを押してください。
検索	入力フィールドにアドレスを入力し、[検索]ボタンを押してください。登録されているメールアドレスを検索します。



9 メーリングリストのオプションを設定します。設定後、[リストオプションの設定] ボタンをクリックしてください。各オプションの詳細を以下に示します。



No.	概要	項目	解説
①	メールを送信できるユーザを決定します。	投稿者を制限しない	どのユーザーでもメーリングリスト宛にメールを送信できます。
		購読者のみ投稿可能	アドレスリストで登録されたユーザーのみがメーリングリスト宛にメールを送信できます。
		モデレータのみ投稿可能	メーリングリスト管理者のみがメーリングリスト宛にメールを投稿できます。
②	着信したメールの返信先を決定します。	返信先をリストにする	返信の宛先はメーリングリストのアドレスになります。チェックなしの場合はメール送信者になります。
③	コマンド付きのメールを送信して情報を入手したり、登録する操作を禁止します。	リストコマンドを禁止する	メーリングリストに登録されているユーザー一覧をListコマンドを使用して受信できない様にします。
		コマンドメールでの登録を禁止する	コマンドを使用したメールによる操作を拒否します。

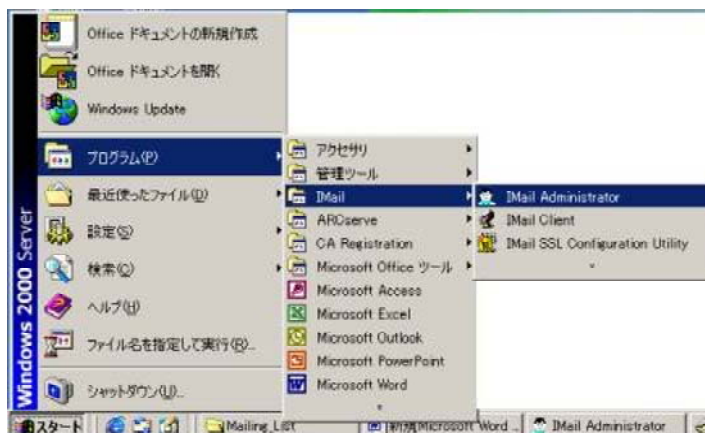
No.	概要	項目	解説
④	ダイジェストモードの有効/無効を決定します。	ダイジェストモードを有効にする	メーリングリストに送信したメールをまとめて配信します。オプション設定が可能です。
⑤	登録者のみ投稿を許可します。	投稿者リストを使用可能にする。	登録されたメールアドレスのみメーリングリストに投稿できます。「リスト投函者のアドレスのリストを変更する」で登録します。
⑥	件名に題名を付加するか決定します。	題名を変更する	件名の始めに題名を付加して配信します。
⑦	投稿時にパスワードが必要になります。	パスワードを使用可能にする	メーリングリストに投稿する場合、メールにパスワードを記述して送信します。
⑧	メール本文に文字を付加するかを決定します。	ヘッダを使用する	メール本文の最初にheader.txtファイルの内容を付加して配信します。
		トレイラを使用する	メール本文の最後にtrailer.txtファイルの内容を付加して配信します。
⑨	Unsubscribeコマンド(登録解除)を受け入れます。	題名でのUnsubscribeを受け理する	通常受け付けるコマンドの他、メッセージのSubject行で指定するUnsubscribeコマンド(登録解除)も受け入れます。
⑩	投稿するメールを制限します。	最大メッセージサイズ	投稿可能な最大のメッセージサイズ(byte)を決定します。サイズを無制限にする場合は"0"を入力します。
		メッセージ毎の受信者の数	SMTPの各プロセスが送信するメールの受信者数を決めるために、計算して入力します。通常、設定は必要ありません。

10 終了する場合は、[メニュー]もしくは[ログオフ]ボタンをクリックします。以上でメーリングリストの管理は終了です。

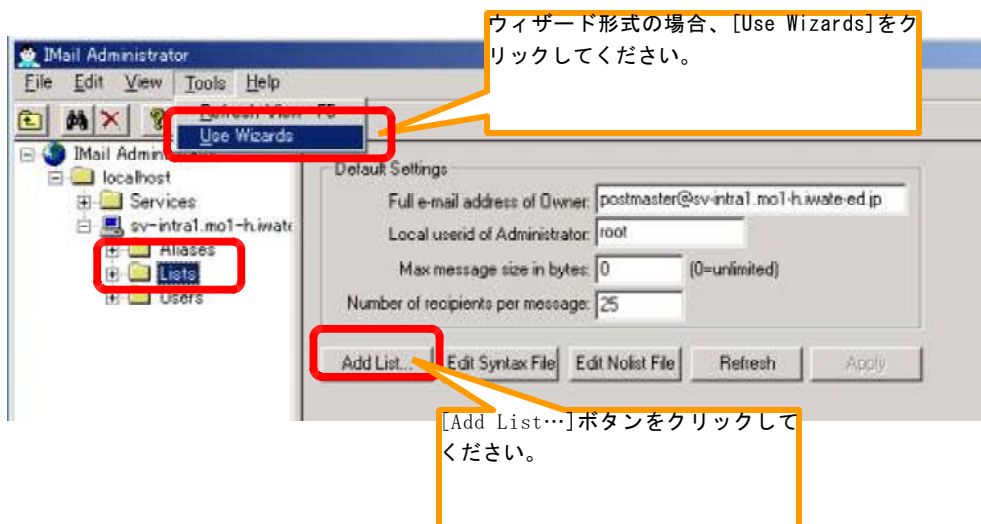
(3) IMail Administratorによるメーリングリストの管理

【手順】メーリングリストを管理する

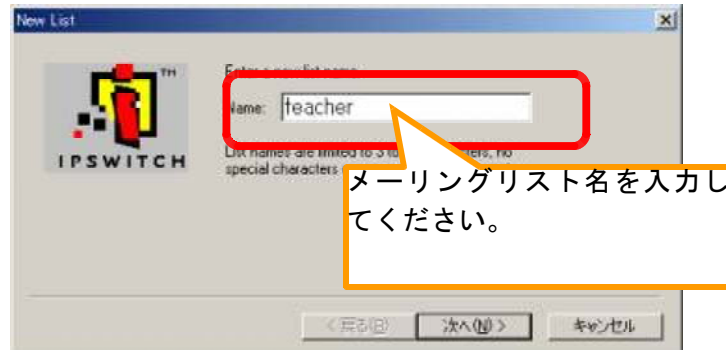
- 1 【SV-INTRA1】サーバにおいて、[スタート]－[プログラム]－[IMail]－[IEmail Administrator]をクリックします。



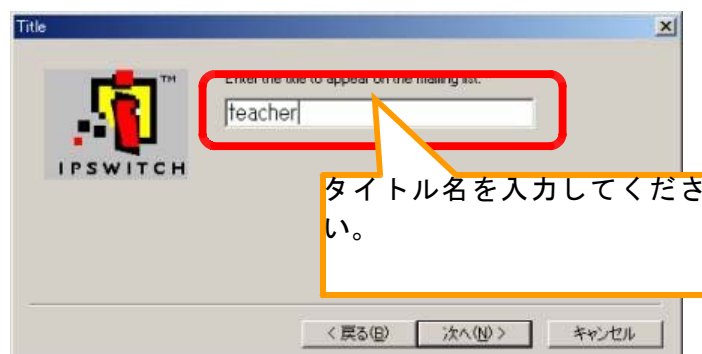
- 2 「IEmail Administrator」画面が表示されます。ツリービューで[local host]－[sv-intra1.000-0.iwate-ed.jp]－[Lists]を展開します。ウィザード形式で作成する場合は、[Tools]－[Use Wizards]を選択し、[Add List...]ボタンをクリックしてください。



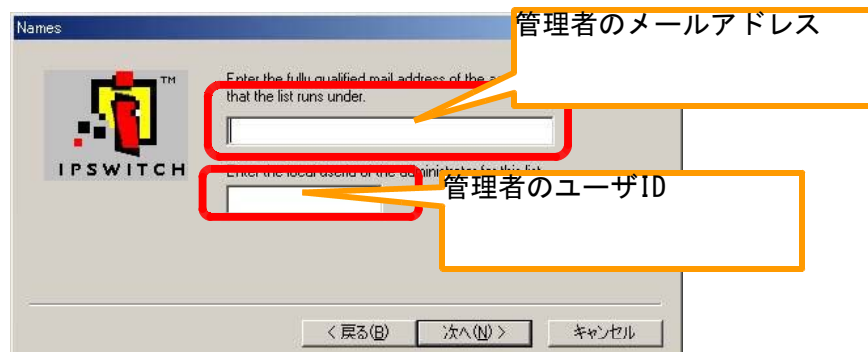
- 3 [New List]画面が表示されます。[Name]入力欄にメーリングリスト名を入力し、[次へ]ボタンをクリックしてください。この名前は、メーリングリストにメールを送信するときの宛先になります。



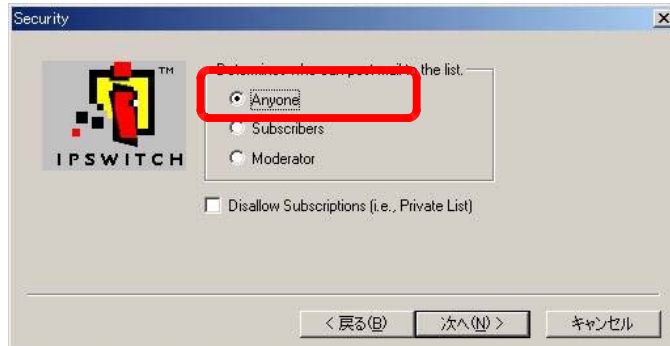
- 4 [Title]画面が表示されます。[Enter the title ...]入力欄にタイトル名を入力し、[次へ]ボタンをクリックしてください。



- 5 [Names]画面が表示されます。[Enter the fully qualified mail address...]入力欄にメーリングリスト管理者のメールアドレス、[Enter the local userid of...]入力欄にメーリングリスト管理者のユーザIDを入力し、[次へ]ボタンをクリックしてください。



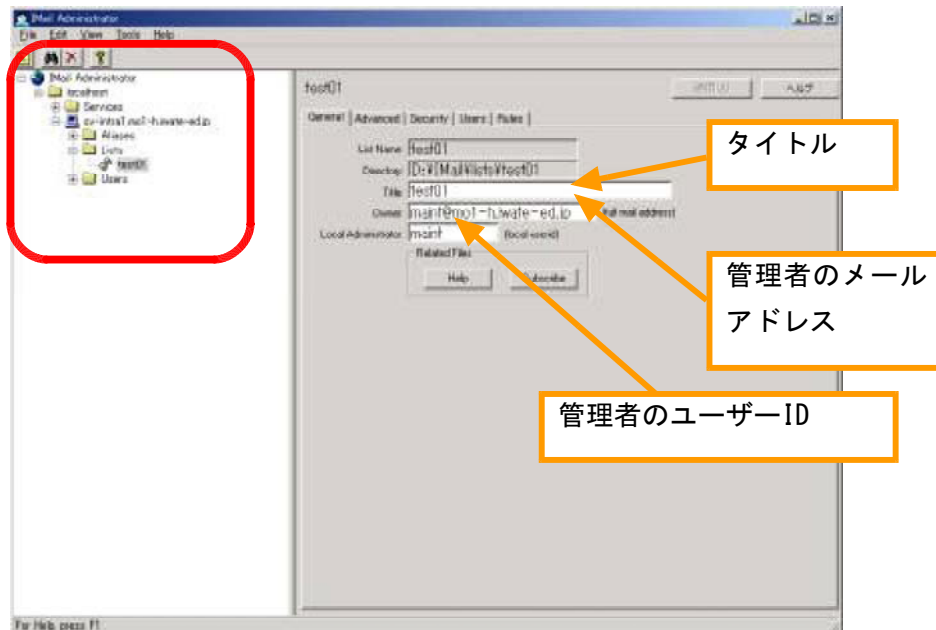
- 6 「Security」画面が表示されます。[Anyone]をクリックし、[次へ]ボタンをクリックしてください。



- 7 [Greate New List]画面が表示されます。[完了]ボタンをクリックしてください。



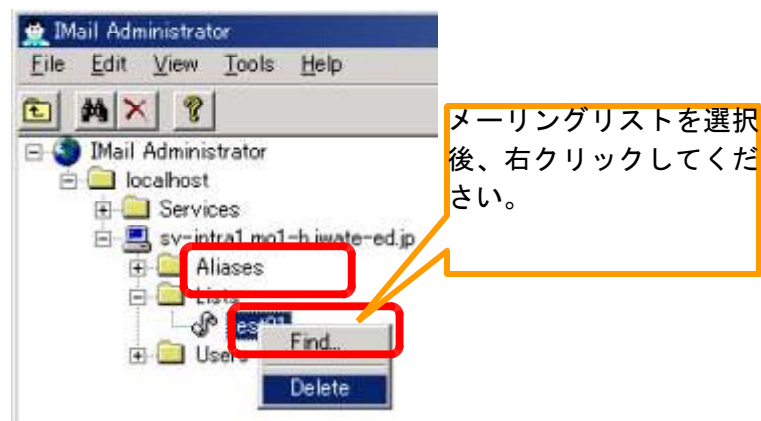
- 8 「I Mail Administrator」画面が表示されます。ツリービューで[Lists]配下にメーリングリストが作成されたことを確認してください。



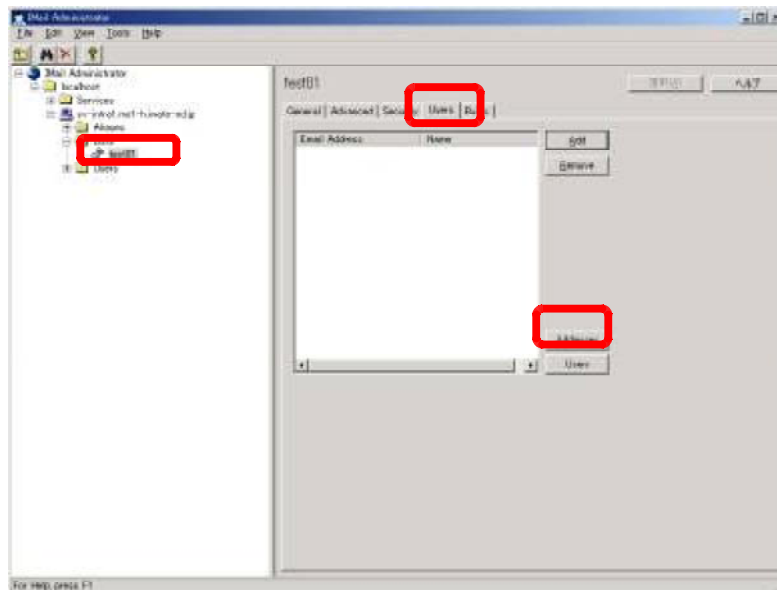
- 9 これでメーリングリストの新規作成は終了です。

【補足①】メーリングリストの削除

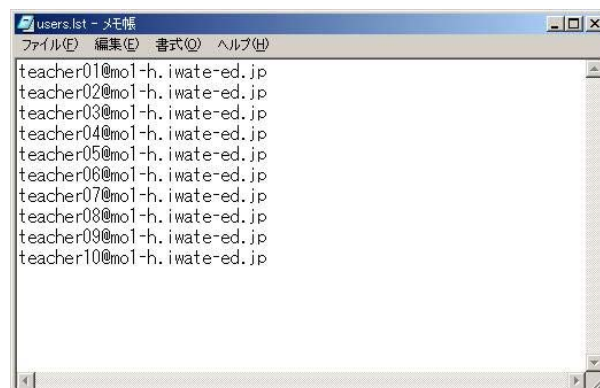
- 1 [I Mail Administrator]画面において、対象のメーリングリストを選択します。右クリックし、[Delete]を選択します。
- 2 ダイアログが表示されます。[はい]ボタンをクリックしてください。



- 10 メーリングリストのメンバーを登録します。「I Mail Administrator」画面において[Users]タブを選択後、[Addresses]ボタンをクリックしてください。



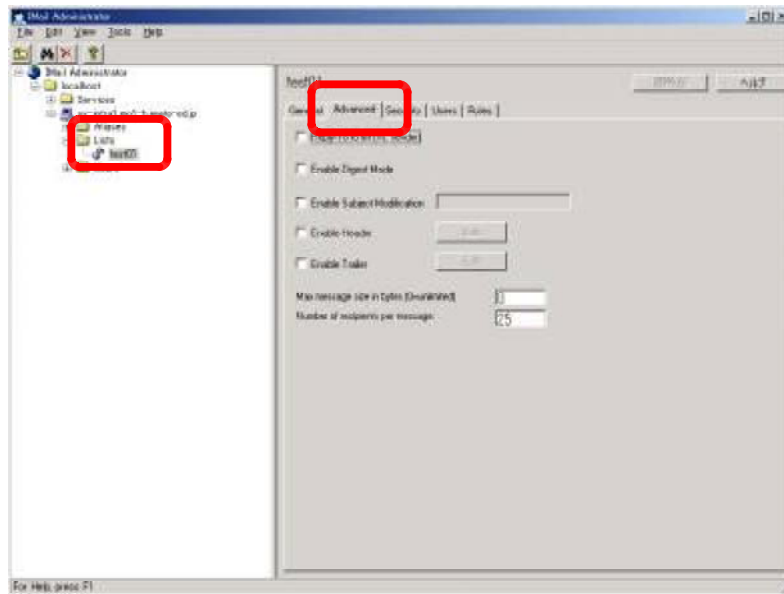
- 11 メモ帳が起動します。「users.lst」ファイルにメンバーのメールアドレスを入力します。
※入力するメールアドレスは半角英数文字を使用し、行の末尾に改行(CR/LF)を入力します。



- 12 「users.lst」ファイルを上書き保存し、メモ帳を閉じます。

- 13 これで、メンバー登録は終了です。オプションの設定をします。「I Mail Administrator」画面において、対象となるメーリングリストをクリックし[Advanced]タブをクリックしてください。

※ここでは基本的な設定を述べています。詳細は、「I Mail Server for Windows NT」マニュアルをご参照ください。



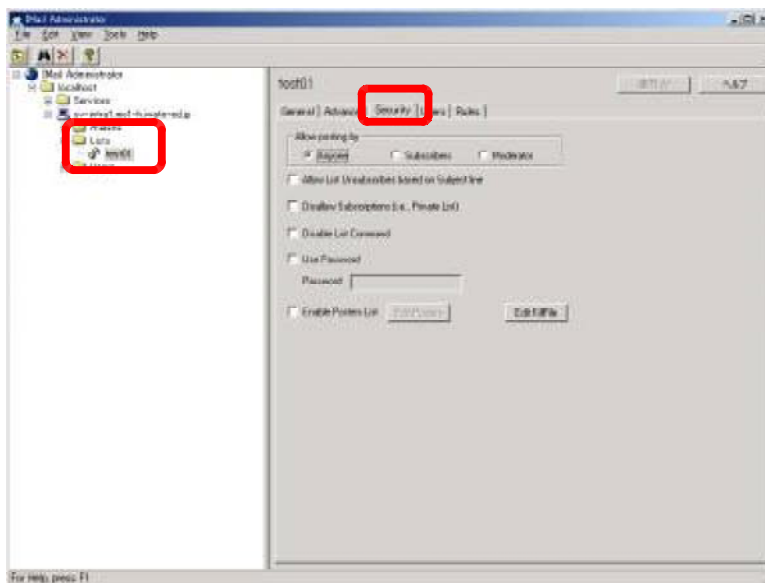
下表を参照し、各種設定を行ってください。設定後は[適用]ボタンをクリックします。

[Advanced]オプションの設定一覧表

オプション	チェック	説明
Reply-To list (vs. sender)	ON	返信の宛先はメーリングリストになります。
	OFF	返信の宛先はメッセージの送信者になります。
Enable Subject Modification	ON	（[編集]ボックスで入力した）文字列がメーリングリストに送信されたメッセージのSubjectの最初に追記されます。 デフォルトの文字列は、メーリングリスト名です。 例) [Teacher-Info]を設定 Subject: [Teacher-Info]〇〇会議の開催について
	OFF	Subjectには追記されません。
Enable Header	ON	（[Edit]機能で入力された）テキスト情報がメーリングリストに送信されたメッセージの最初に追記されます。メーリングリストの登録解除先等を表示させることができます。
	OFF	メッセージの最初には追記されません。
Enable Trailer	ON	（[Edit]機能で入力された）テキスト情報がメーリングリストに送信されたメッセージの最後に追記されます。メーリングリストの登録解除先等を表示させることができます。
	OFF	メッセージの最後には追記されません。

- 14 「Iml Administrator」画面において、対象となるメーリングリストをクリックし[Security]タブをクリックしてください。

※本マニュアルでは基本的な設定を述べています。詳細は、「Iml Server for Windows NT」マニュアルをご参照ください。



下表を参照し、各種設定を行ってください。設定後は[適用]ボタンをクリックします。

[Security]オプションの設定一覧表

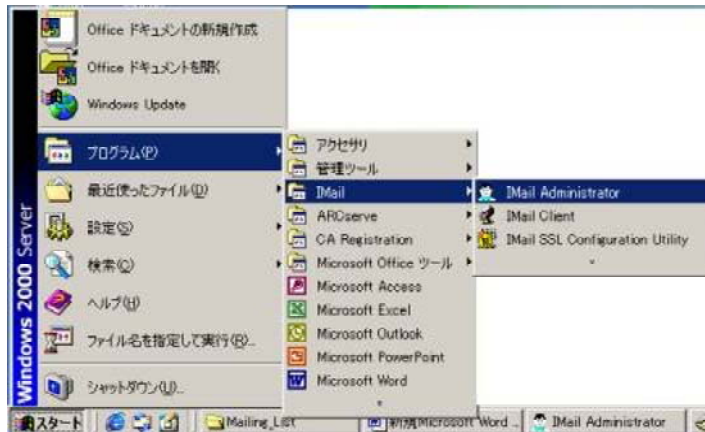
オプション	説明	
Allow posting by	メーリングリストにメールを投稿できるユーザを決定します。	
	Anyone	どのユーザーでもメールを投稿できます。
	Subscribers	Users.lstファイルで登録されたユーザーのみがメールを投稿できます。
	Moderator	メーリングリスト管理者だけがメールを投稿できます。 例えば、投稿されたメールをメーリングリスト管理者が確認して、配信する場合に使用します。
Use Password	ON	メーリングリストへの投稿にパスワードが必要となります。 <パスワードの使用方法> → Subjectの最初にパスワードを” :” (コロン) と角括弧” []” ではさんで入力します。 例) Subject: [: (password) :] 人事異動について
	OFF	メーリングリストへの投稿にパスワードはいりません。

15 以上でメーリングリストの管理は終了です。

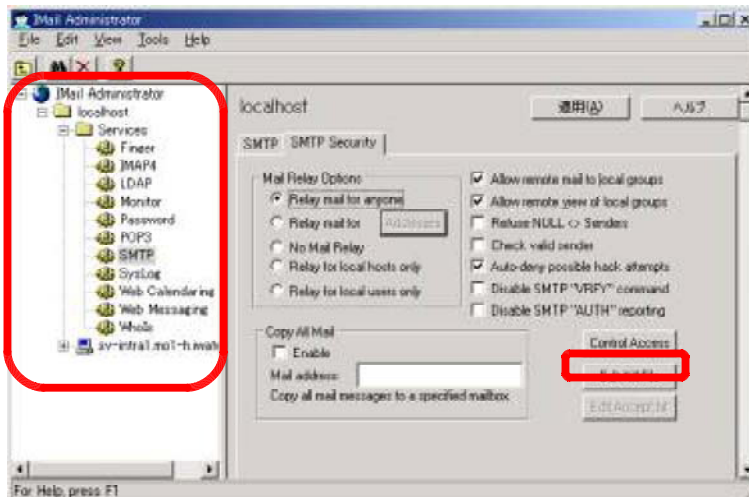
(4) 迷惑メールの防止

【手順】

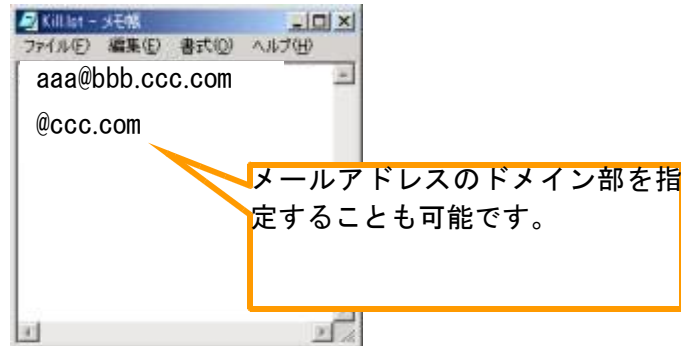
- 1 【SV-INTRA1】サーバにおいて、[スタート]－[プログラム]－[IMail]－[IEmail Administrator]をクリックします。



- 2 「IEmail Administrator」画面が表示されます。ツリービューで[local host]－[Services]－[SMTP]を展開します。[Edit kill File]ボタンをクリックしてください。



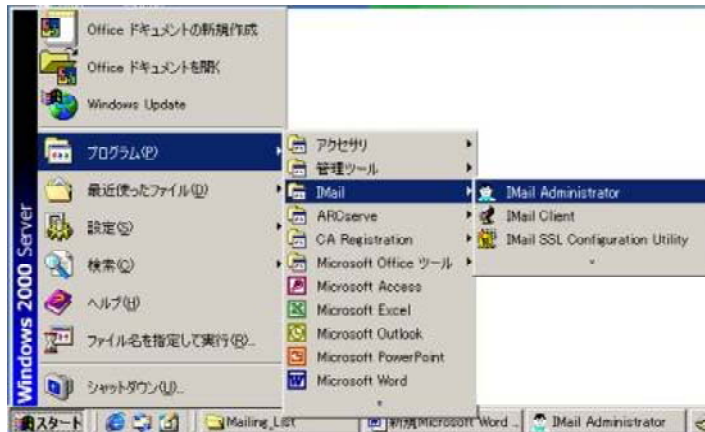
- 3 メモ帳が起動します。「Kill.lst」ファイルに送られてくる迷惑メールのメールアドレスを入力し、保存します。



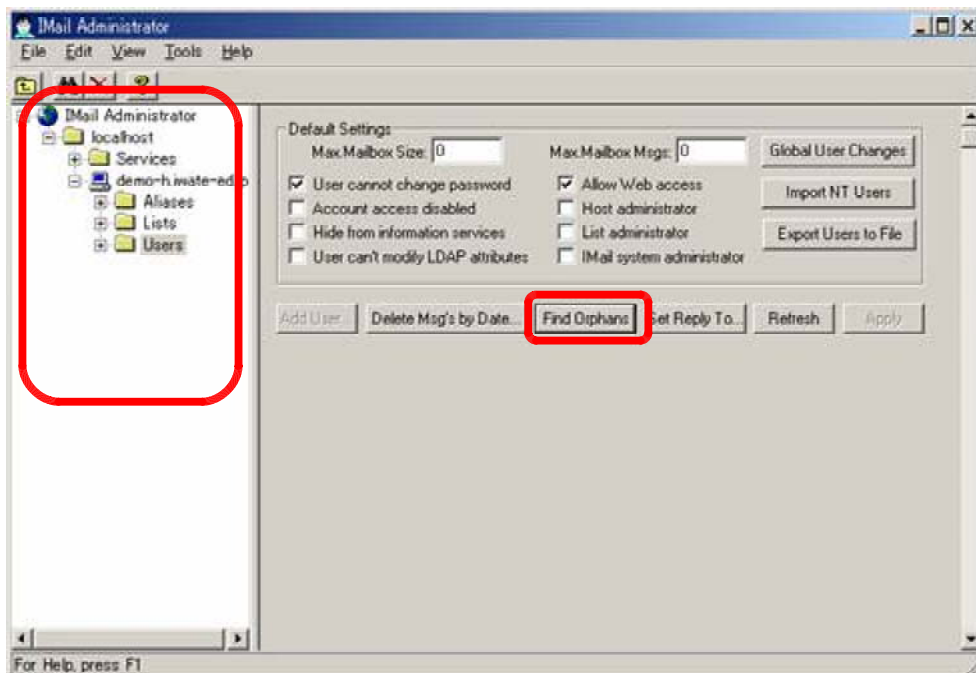
(5) 孤立メールボックスの削除

【手順】

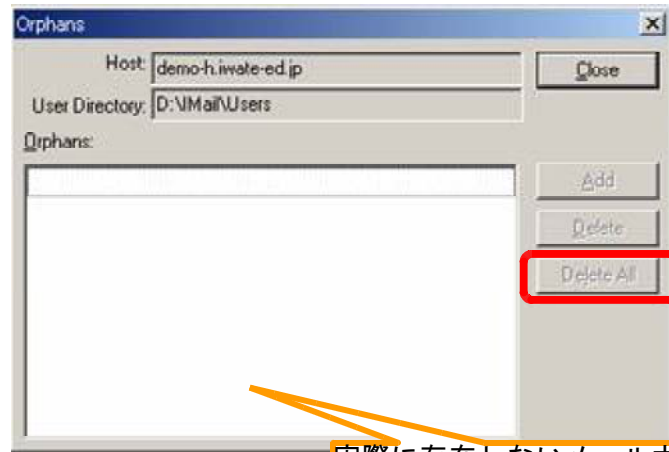
- 1 【SV-INTRA1】サーバにおいて、[スタート]－[プログラム]－[IMail]－[IEmail Administrator]をクリックします。



- 2 「IEmail Administrator」画面が表示されます。ツリービューで[local host]－[XXX-X.iwate-ed.jp]－[Users]を展開します。[Find Orphans]ボタンをクリックしてください。



- 3 「Orphans」画面が表示されます。実際に存在しないメールボックス（アカウント）が表示されます。[Delete All]ボタンをクリックして下さい。



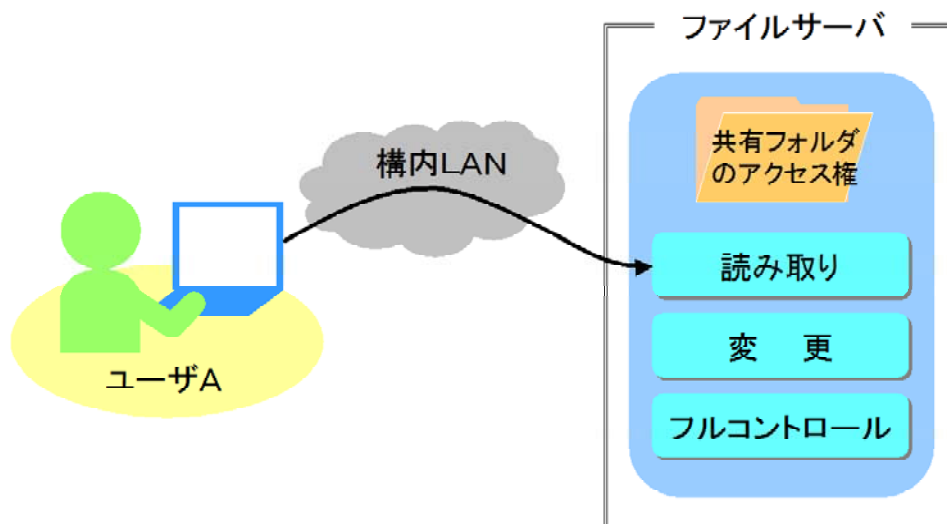
実際に存在しないメールボックス（アカウント）が表示されます。

4-2 ファイルサーバーの運用管理

4-2-1 共有フォルダのアクセス権限について

(1) 共有のアクセス権

共有フォルダではユーザーごとにアクセスの許可や拒否ができます。共有フォルダへのアクセスはユーザーがネットワークを使って接続しているときにのみ適用されます。



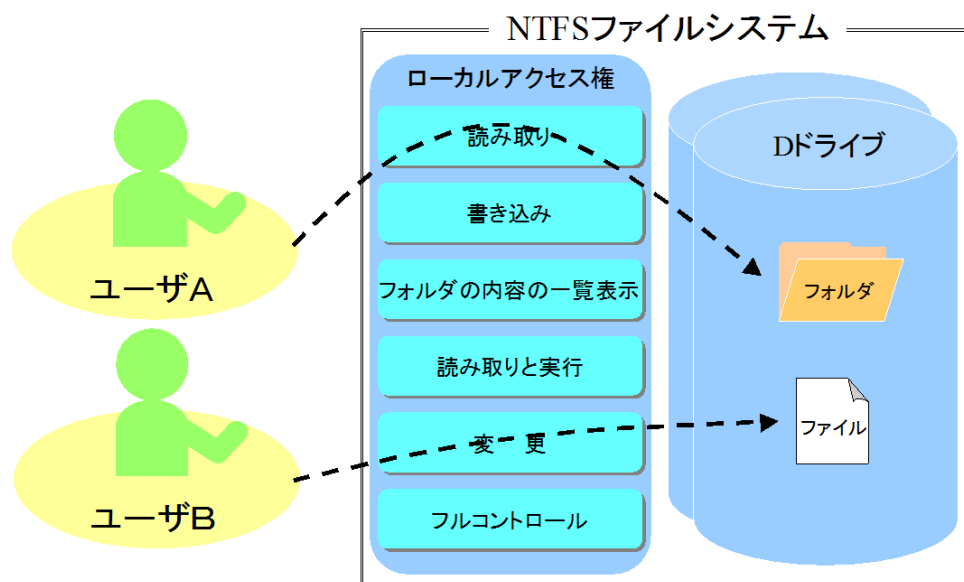
また、共有フォルダへのアクセス権は以下の3種類があります。

アクセス権	内 容
読み取り	<ul style="list-style-type: none">・ファイル名とサブフォルダ名の表示・プログラムの実行・ファイルの読み込み
変更	<ul style="list-style-type: none">・読み取りに含まれるすべての権利・ファイルとサブフォルダの追加・ファイルの更新・サブフォルダとファイルの削除
フルコントロール	<ul style="list-style-type: none">・変更に含まれるすべての権利・ローカルアクセス許可の変更・フォルダの所有者権の取得

アクセス権には「許可」と「拒否」の2種類があります。「拒否」は「許可」より優先されますので、ご注意ください。

(2) ローカルアクセス権

ローカルアクセス権はサーバのハードディスクそのものに対するアクセス権をいいます。Windows 2000 Server (Professional) ではNTFSファイルシステムを実装しているため、ユーザーごとにファイルやフォルダに対してローカルアクセス権が設定できます。



ローカルアクセス権は以下のとおりです。

アクセス権	内 容
書き込み	・ ファイル、フォルダの作成
読み取り	・ ファイル/フォルダの一覧表示 ・ データの読み取り
フォルダの内容の一覧表示	・ 読み取りに含まれるすべての権利 ・ プログラムの実行
読み取りと実行	・ フォルダの内容の一覧表示と同じ
変更	・ 読み取りと実行に含まれるすべての権利 ・ 書き込みに含まれるすべての権利 ・ ファイル、フォルダの削除
フルコントロール	・ 変更に含まれるすべての権利 ・ アクセス許可の変更・所有権の取得

NTFSファイルシステム配下にあるルートフォルダは、自動的に「Everyone」グループへ「フルコントロール」を許可します。アクセスを制限する場合、作成したファイルやフォルダのアクセス許可を変更する必要があります。

また、共有のアクセス権と同様に「許可」と「拒否」の両方が設定可能です。基本的には「許可」のみを使い、「拒否」は補助的に使うことをお勧めします。

(3) 共有アクセス権とローカルアクセス権の組み合わせ

実際にファイルサーバを運用する場合は、共有アクセス権とローカルアクセス権を組み合わせ、フォルダへのアクセス制御を行います。両者のアクセス権を組み合わせると、ユーザーへのアクセス権は以下のようになります。

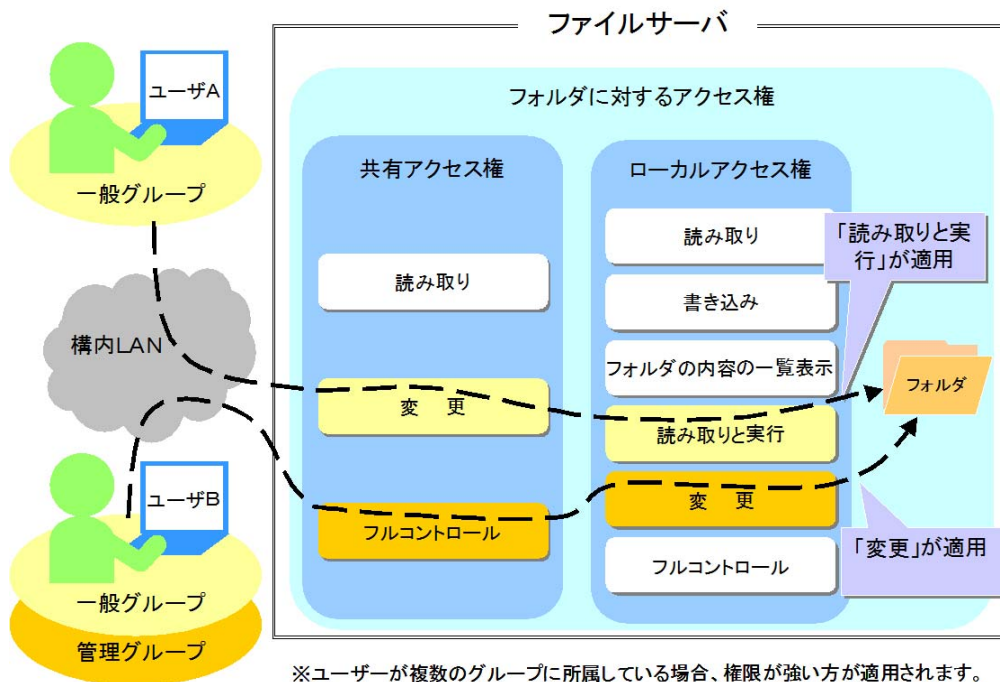
- ◆ 共有アクセス権とローカルアクセス権の厳しい方が適用されます。
- ◆ ユーザーが複数のグループに所属していた場合は、所属グループの中で一番強力な権限が適用されます。

両者を比較してアクセス権が厳しい方が適用されます。

【例－1】

ユーザ名	所属グループ	共有アクセス権	ローカルアクセス権	最終的なアクセス権
ユーザA	一般グループ	変更	読み取りと実行	読み取りと実行 変更
ユーザB	一般グループ	変更 (×)	読み取りと実行 (×)	
	管理グループ	フルコントロール (○)	変更 (○)	

複数のグループに所属していた場合は、所属グループの中で一番強力な権限が適用されます。



【補足1】 アクセス権限の継承

フォルダに対してアクセス権限の設定を行うと、そのフォルダ内のサブフォルダやファイルにもこのアクセス許可が適用されます。これを「継承」といいます。

【補足2】 ファイルやフォルダのコピーと移動

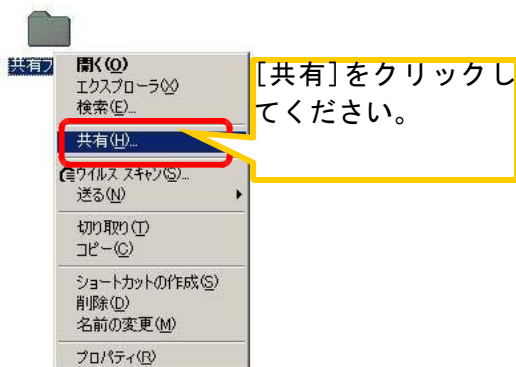
NTFSファイルシステムでは、ローカルアクセス権の設定や圧縮属性の機能等がありますが、その中にあるファイルやフォルダのコピーや移動に伴い、属性が変化します。また、共有フォルダの場合は共有が解除されます。

	同一NTFSパーティション内	異なるNTFSパーティション内
コピー	コピー先の属性	コピー先の属性
移動	元の属性	移動先の属性

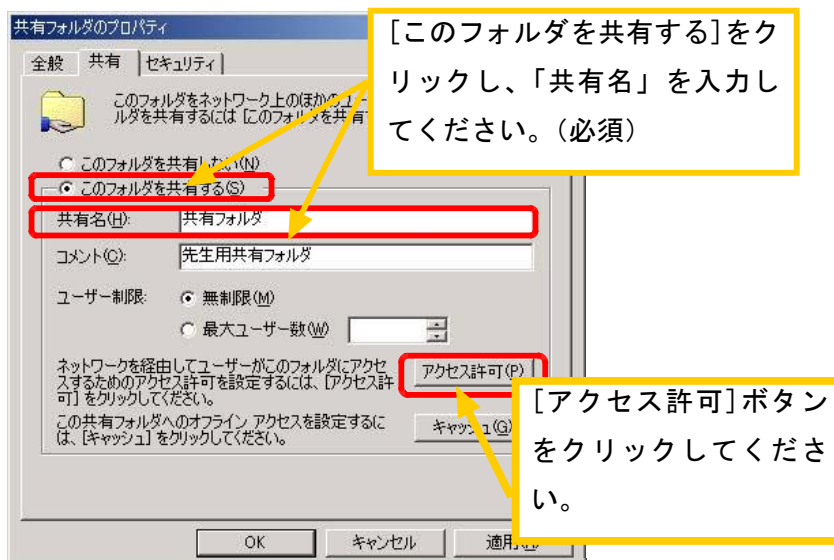
※ NTFSからFATへのコピーや移動をした場合、ローカルアクセス権や圧縮属性は解除されます。

4-2-2 共有フォルダの作成手順

- (1) 【SV-FILE】サーバの「Dドライブ」において、共有したいフォルダを右クリックしてください。
- (2) [共有]をクリックします。



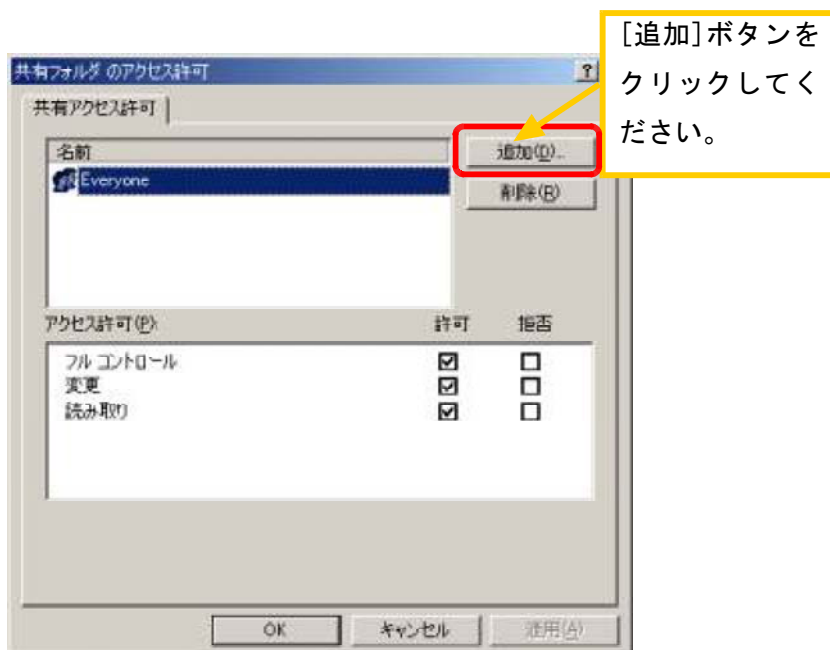
- (3) フォルダの「プロパティ」画面が表示されます。[共有]タブをクリックしてください。
 - (4) [このフォルダを共有する]をクリックし、「共有名」を入力してください。入力後は[アクセス許可]ボタンをクリックしてください。
- ※「コメント」、「ユーザー制限」も設定可能です。



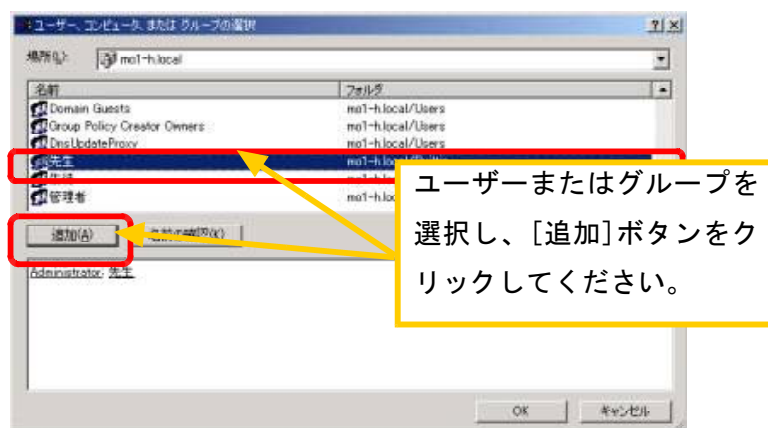
(5) 共有フォルダの「アクセス許可」画面が表示されます。ユーザー及びグループを追加する場合は[追加]ボタンをクリックします。

※ ユーザー及びグループを削除する場合は一覧から選択し、[削除]ボタンをクリックします。

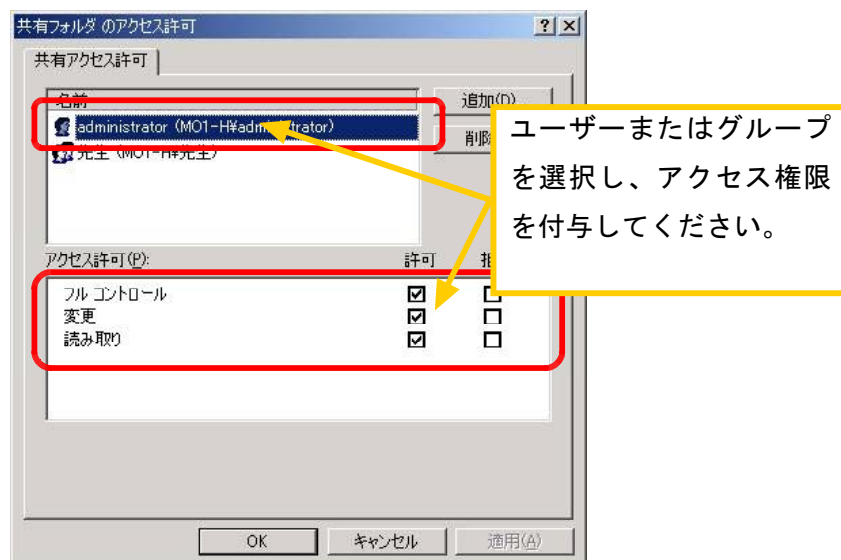
※ デフォルトでは「everyone」にフルコントロールのアクセス許可が適用されます。



(6) 「ユーザー、コンピュータ、またはグループの選択」画面が表示されます。追加するユーザーまたはグループを選択し、[追加]ボタンをクリックしてください。追加したら[OK]ボタンをクリックしてください。



- (7) 共有フォルダの「アクセス許可」画面に戻ります。ユーザーまたはグループを選択し、アクセス権限を付与します。アクセス権限の設定が完了したら、[OK]ボタンをクリックします。



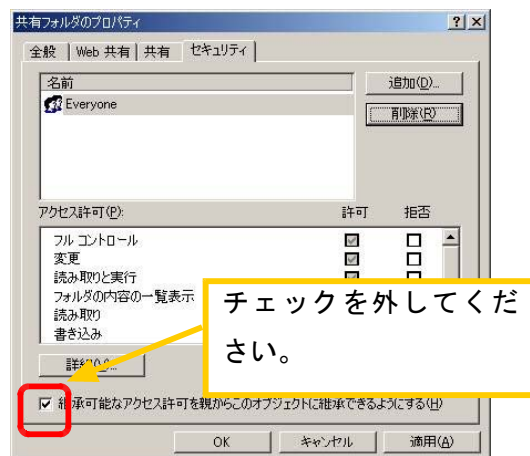
共有のアクセス権一覧表

アクセス権	内 容
読み取り	<ul style="list-style-type: none"> ・ ファイル名とサブフォルダ名の表示 ・ プログラムの実行 ・ ファイルの読み込み
変更	<ul style="list-style-type: none"> ・ 読み取りに含まれるすべての権利 ・ ファイルとサブフォルダの追加 ・ ファイルの更新 ・ サブフォルダとファイルの削除
フルコントロール	<ul style="list-style-type: none"> ・ 変更に含まれるすべての権利 ・ ローカルアクセス許可の変更 ・ フォルダの所有者権の取得

- (8) 共有フォルダの「プロパティ」画面に戻ります。[セキュリティ]タブをクリックしてください。

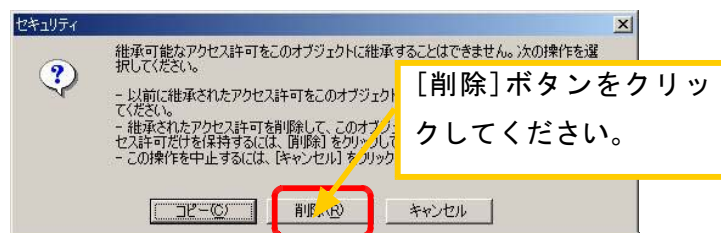
- (9) 「Everyone」グループに「フルコントロール」が付与されていますので、アクセス権を変更します。「継承可能なアクセス許可を親から・・・」のチェックを外します。

※ 【SV-FILE】サーバの「Dドライブ」のローカルアクセス権は「Everyone」グループに「フルコントロール」が付与されていますので、「Dドライブ」配下のフォルダは同様にローカルアクセス権が継承されます。継承を解除するときは「継承可能なアクセス許可を親から・・・」のチェックを外します。



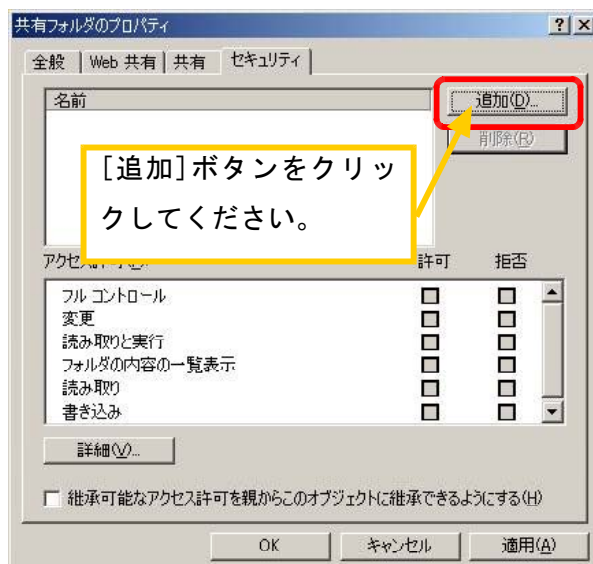
- (10) 「セキュリティ」画面が表示されます。[削除]ボタンをクリックしてください。「Everyone」グループのアクセス権がクリアされます。

※ 「Everyone」グループの継承されたアクセス権を残すときは[コピー]ボタンをクリックしてください。

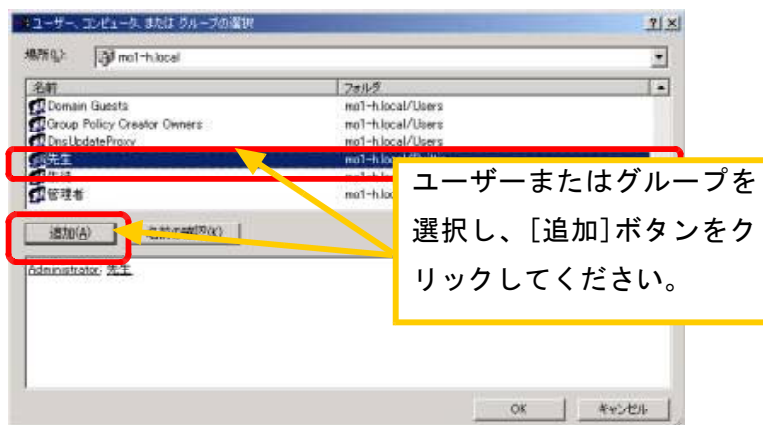


- (11) 共有フォルダの「プロパティ」画面に戻ります。[Everyone]グループを削除するときは[Everyone]グループを選択し、[削除]ボタンをクリックします。ユーザー及びグループを追加する場合は[追加]ボタンをクリックします。

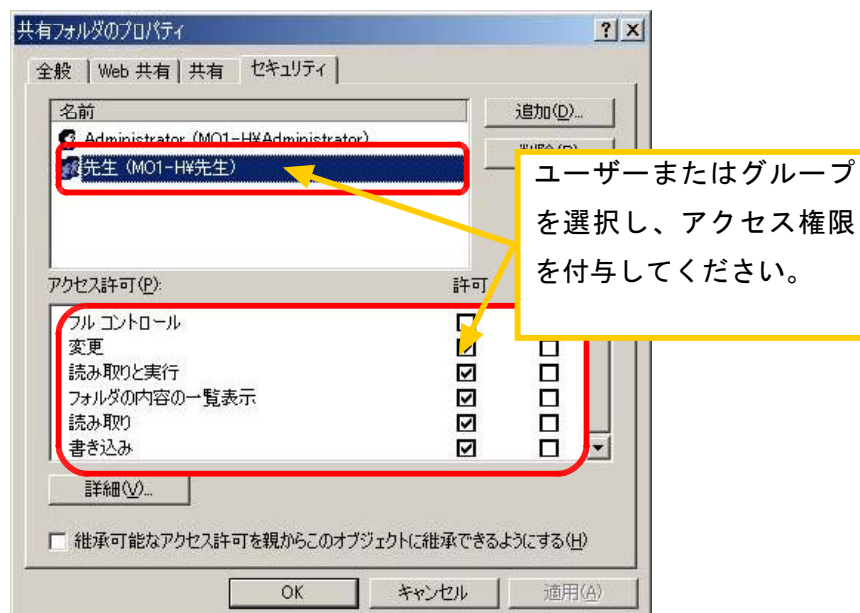
※ ユーザー及びグループを削除する場合は一覧から選択し、[削除]ボタンをクリックします。



- (12) 「ユーザー、コンピュータ、またはグループの選択」画面が表示されます。追加するユーザーまたはグループを選択し、[追加]ボタンをクリックしてください。追加したら[OK]ボタンをクリックしてください。



- (13) 共有フォルダの「プロパティ」画面に戻ります。ユーザーまたはグループを選択し、アクセス権限を付与します。アクセス権限の設定が完了したら、[OK]ボタンをクリックします。



ローカルアクセス権一覧表

アクセス権	内 容
書き込み	・ ファイル、フォルダの作成
読み取り	・ ファイル/フォルダの一覧表示 ・ データの読み取り
フォルダの内容の一覧表示	・ 読み取りに含まれるすべての権利 ・ プログラムの実行
読み取りと実行	・ フォルダの内容の一覧表示と同じ
変更	・ 読み取りと実行に含まれるすべての権利 ・ 書き込みに含まれるすべての権利 ・ ファイル、フォルダの削除
フルコントロール	・ 変更に含まれるすべての権利 ・ アクセス許可の変更・所有権の取得

(14) 共有フォルダは以下の様に表示されます。これで共有フォルダの作成は終了です。



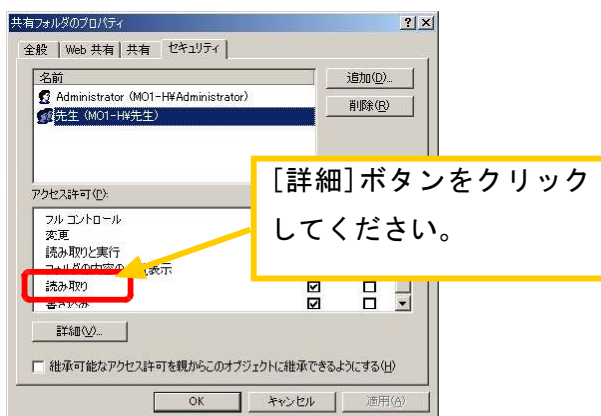
なお、【SV-FILE】サーバの「D」ドライブには既に「先生」及び「生徒」フォルダが作成されています。「先生」及び「生徒」フォルダに対する各ユーザーのアクセス権限は以下の様に設定されています。

フォルダ名	共有アクセス権		ローカルアクセス権	
先生	Administrators	フルコントロール	Administrators	フルコントロール
	[先生]グループ	フルコントロール	[先生]グループ	変更
生徒	Administrators	フルコントロール	Administrators	フルコントロール
	[先生]グループ	フルコントロール	[先生]グループ	変更
	[生徒]グループ	フルコントロール	[生徒]グループ	変更

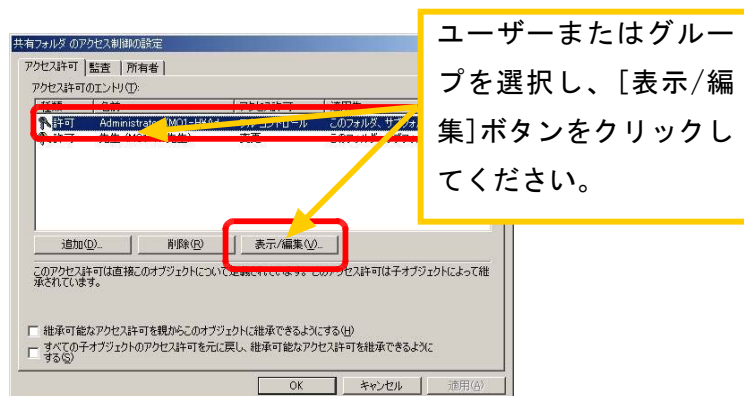
【補足 3】 ローカルアクセス権の詳細設定について

ローカルアクセス権は詳細設定が可能です。各設定項目は運用に応じて変更してください。

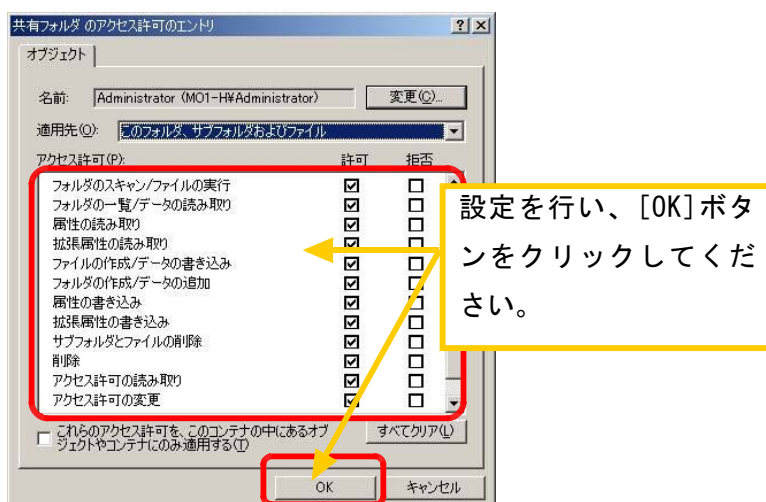
- 1 初めにフォルダの[プロパティ]画面を表示してください。[セキュリティ]タブをクリックし、[詳細]ボタンをクリックしてください。



- 2 「アクセス制御の設定」画面が表示されます。ユーザーまたはグループを選択し、[表示/編集]ボタンをクリックしてください。



- 3 「アクセス許可のエントリ」画面が表示されます。設定を行い、[OK]ボタンをクリックしてください。



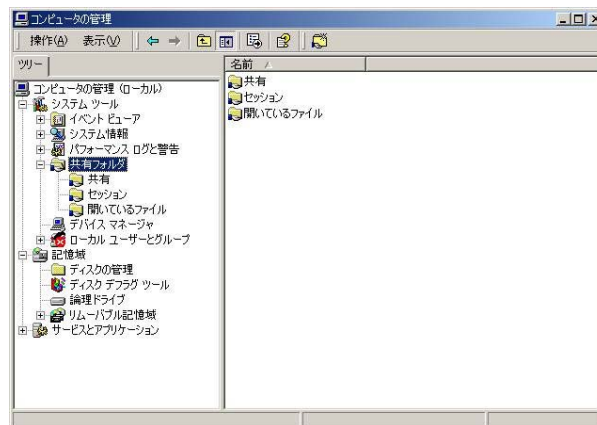
- 4 「アクセス制御の設定」画面に戻ります。[OK]ボタンをクリックしてください。
- 5 「プロパティ」画面に戻ります。[OK]ボタンをクリックしてください。
- 6 これで、終了です。

【補足4】 共有フォルダの管理

共有フォルダの構成情報の設定やリモートユーザーからのアクセス利用状況を監視することができます。共有フォルダを管理する場合は「コンピュータの管理」ツールを使用します。主な機能は以下のとおりです。

- ・ [共有] → 現在提供されている共有フォルダの一覧を表示します。
- ・ [セッション] → 共有フォルダの新規設定やプロパティを変更します。
- ・ 共有を解除します。
- ・ 共有フォルダを利用するユーザーへメッセージを送信します。

「コンピュータの管理」を起動する場合は、[スタート]－[プログラム]－[管理ツール]－[コンピュータの管理]をクリックします。



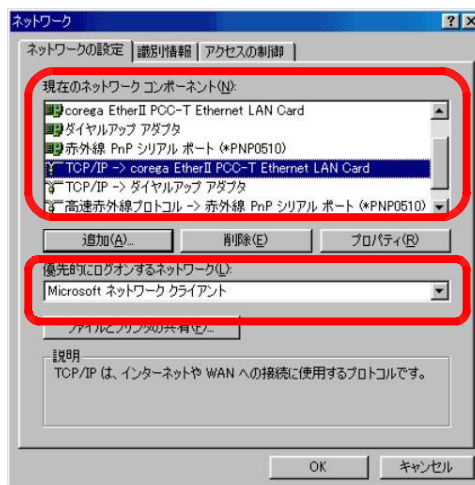
4-3 クライアントの運用管理

4-3-1 ネットワークの設定

1 Windows Me/98/95 のネットワーク設定

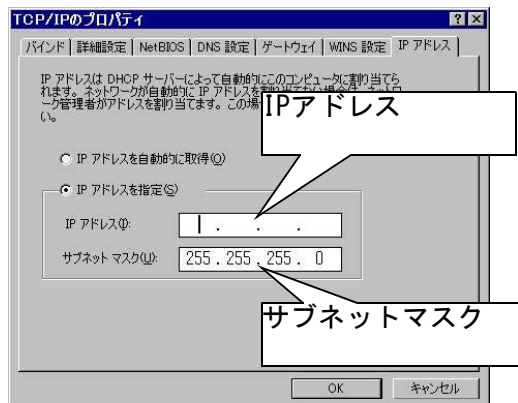
(1) ネットワーク設定

- ① 「ネットワーク」ウィンドウより、「優先的にログオンするネットワーク」から「Microsoft ネットワーククライアント」を選択します。また、「接続のネットワークコンポーネント」からLANカードに対応する「TCP/IP」を選択し、「プロパティ」ボタンをクリックします。



「ネットワーク（ネットワークの設定）」ウィンドウ

- ② 「TCP/IPのプロパティ」ウィンドウが表示されます。「IPアドレス」タブをクリックし、「IPアドレスを指定」を選択して下さい。IPアドレスは「IPアドレス管理表」を参照して「IPアドレス」、「サブネットマスク」を入力して下さい。



「TCP/IPのプロパティ（IPアドレス）」ウィンドウ

- ③ 「ゲートウェイ」タブをクリックし、「IPアドレス管理表」を参照して「新しいゲートウェイ」のアドレスを入力してください。入力後は[追加]ボタンをクリックしてください。
 → [追加]ボタンをクリックすると、「インストールされているゲートウェイ」にアドレスが表示されます。



「TCP/IPのプロパティ（ゲートウェイ）」ウィンドウ

- ④ 「DNS設定」タブをクリックし、「ODNSを使う」をクリックしてください。アドレスを入力してください。「IPアドレス管理表」を参照して「ホスト」、「ドメイン」を入力してください。

注意：

- ① 「ホスト」入力欄には「コンピュータ名」を入力して下さい。
- ② 「ドメイン」入力欄には「<サブドメイン>+<.local>」を入力して下さい。



「TCP/IPのプロパティ（ゲートウェイ）」ウィンドウ

- ⑤ 「DNSサーバーの検索順」の入力欄に「IPアドレス管理表」を参照して「DNS（プライマリ）」のアドレスを入力してください。入力後は[追加]ボタンをクリックしてください。同様に「DNS（セカンダリ）」のアドレスを入力し、[追加]ボタンをクリックしてください。
- [追加]ボタンをクリックすると、「DNS（プライマリ）」、「DNS（セカンダリ）」のアドレスが表示されます。

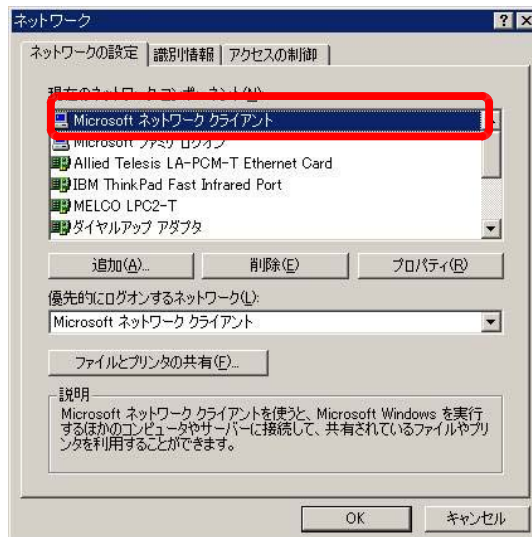


「TCP/IPのプロパティ（DNS設定）」ウィンドウ

- ⑥ [OK] ボタンをクリックして下さい。
- 「ネットワーク」ウィンドウに戻ります。

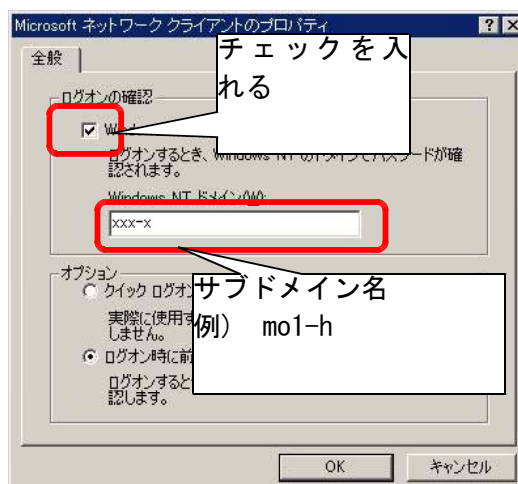
(2) ネットワーククライアントの設定

- ① 「ネットワーク」ウィンドウにおいて、[ネットワークの設定]タブをクリックして下さい。「現在のネットワークコンポーネント」から「Microsoftネットワーククライアント」を選択し、「プロパティ」ボタンをクリックします。



「ネットワーク（ネットワークの設定）」ウィンドウ

- ② 「Microsoftネットワーククライアントのプロパティ」ウィンドウが表示されます。「Windows NT のドメインにログインする」にチェックを入れ、「Windows NT ドメイン」入力欄にサブドメイン名を入力して下さい。



「Microsoftネットワーククライアントのプロパティ」ウィンドウ

- ⑥ [OK] ボタンをクリックして下さい。「ネットワーク」ウィンドウに戻ります。

(3) 識別情報の設定

- ① 「ネットワーク」ウィンドウにおいて、[識別情報]タブをクリックして下さい。
- ② 「IPアドレス管理表」を参照して「コンピュータ名」、「ワークグループ（サブドメイン）」、「コンピュータの説明」を入力して下さい。「コンピュータの説明」は任意で入力して下さい。なお、「ワークグループ」入力欄には「サブドメイン」を入力して下さい。

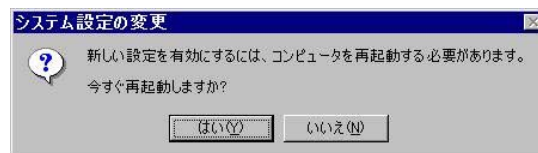
注意：

- ① 「ワークグループ」入力欄には<サブドメイン>を入力して下さい。



「ネットワーク（識別情報）」ウィンドウ

- ③ [OK] ボタンをクリックして下さい。
- ④ 「システム設定の変更」ウィンドウが表示されます。[はい] ボタンをクリックして下さい。



「システム設定の変更」ウィンドウ

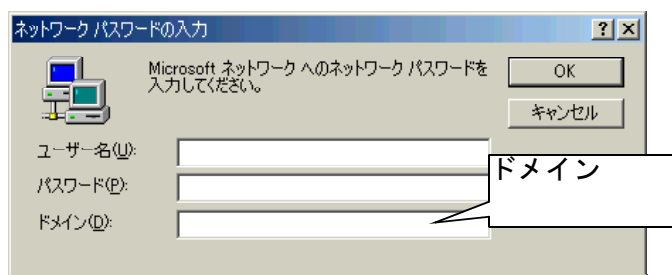
- ⑤ パソコンが再起動されます。

(4) ログイン方法

- ① パソコンが再起動したら、「ネットワークパスワードの入力」画面が表示されます。各自割り当てられた「ユーザ名」、「パスワード」を入力して下さい。

注意：

- ① 「ドメイン」入力欄には<サブドメイン>を入力して下さい。



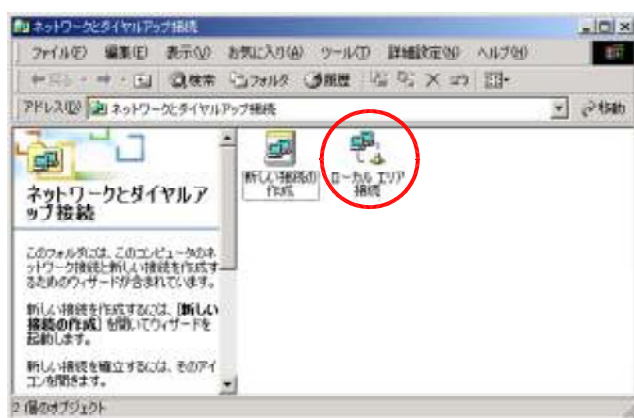
「ネットワークパスワードの入力」ウィンドウ

- ② 入力後、[OK] ボタンをクリックして下さい。
- ③ Windowsが起動します。

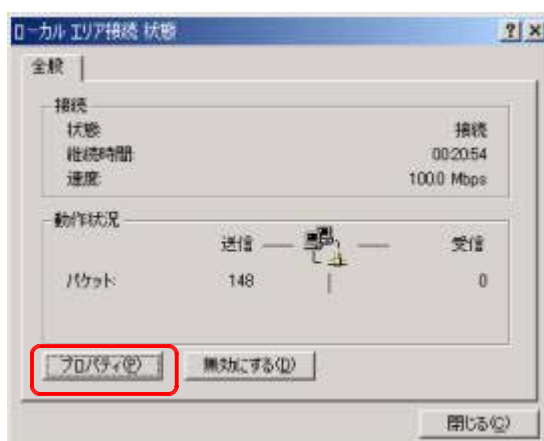
2 Windows 2000 のネットワーク設定

(1) ネットワークの設定

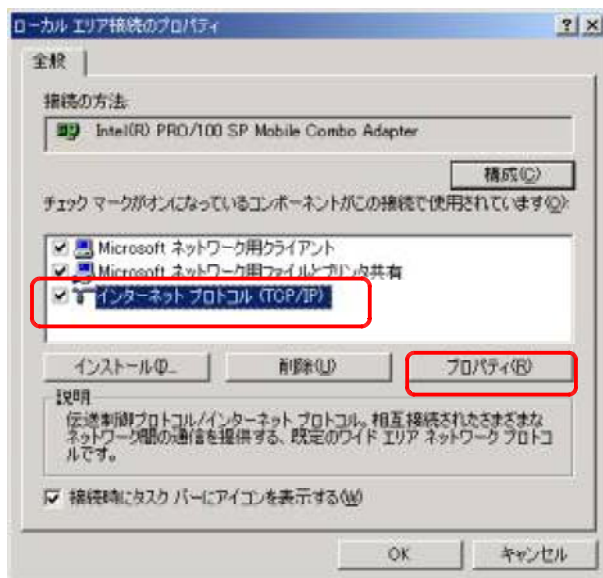
- ① Administratorでログインし、デスクトップにおいて、[マイネットワーク]アイコンを選択し、マウスの右クリックで表示されるメニューから[プロパティ]をクリックして下さい。
- ② 「ネットワークとダイヤルアップ接続」画面が表示されます。[ローカルエリア接続]をダブルクリックして下さい。



- ③ 「ローカルエリア接続状態」画面が表示されます。[プロパティ]ボタンをクリックして下さい。



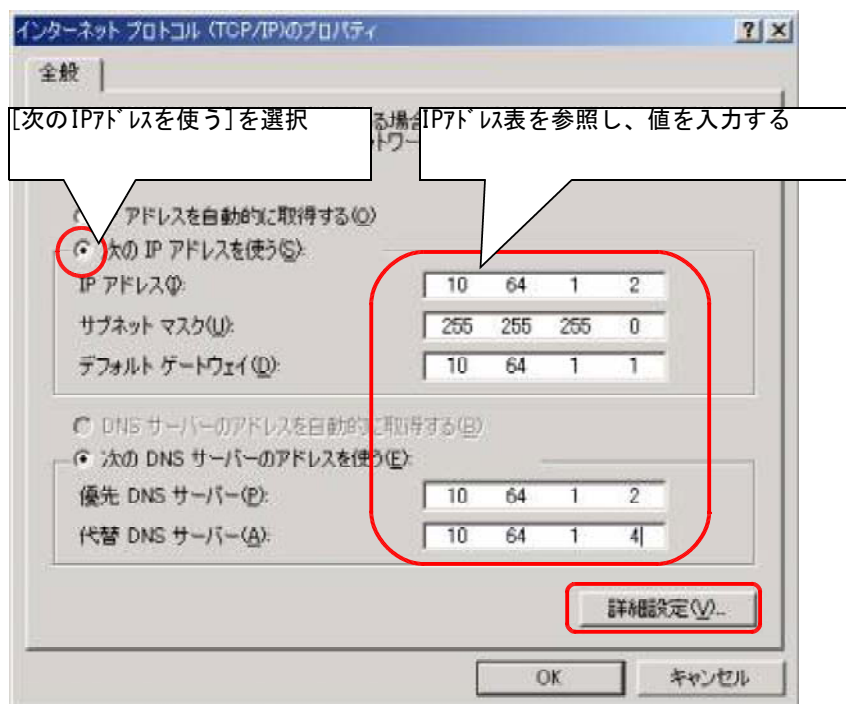
- ④ 「ローカルエリア接続のプロパティ」画面が表示されます。一覧から[インターネットプロトコル(TCP/IP)]を選択し、[プロパティ]ボタンをクリックして下さい。



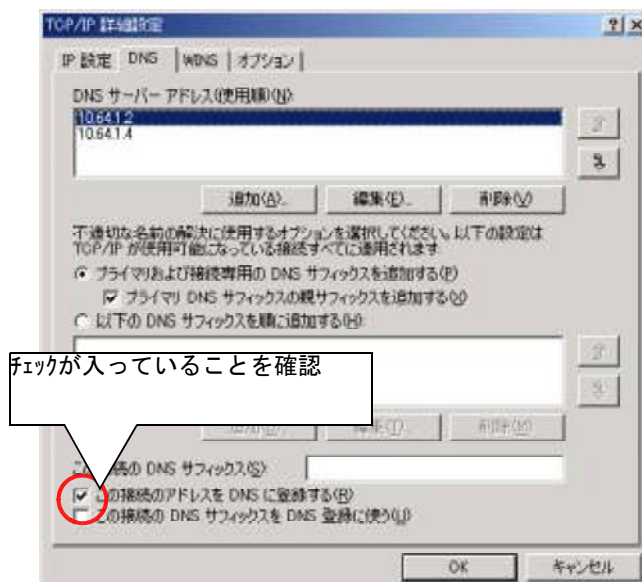
- ⑤ 「インターネットプロトコル(TCP/IP)のプロパティ」画面が表示されます。以下のとおり設定して下さい。設定後、[詳細設定]ボタンをクリックして下さい。

項目	値
IPアドレス	クライアントのIPアドレス
サブネットマスク	255.255.255.0
デフォルトゲートウェイ	ルーターのIPアドレス
DNS	
優先DNSサーバー	イントラネットサーバー1のIPアドレス
代替DNSサーバー	ファイルサーバーのIPアドレス

※値はIPアドレス表を参照



- ⑥ 「TCP/IP 詳細設定」画面が表示されます。「この接続のアドレスをDNSに登録する」にチェックが入っていることを確認して下さい。確認後、[OK] ボタンをクリックして下さい。



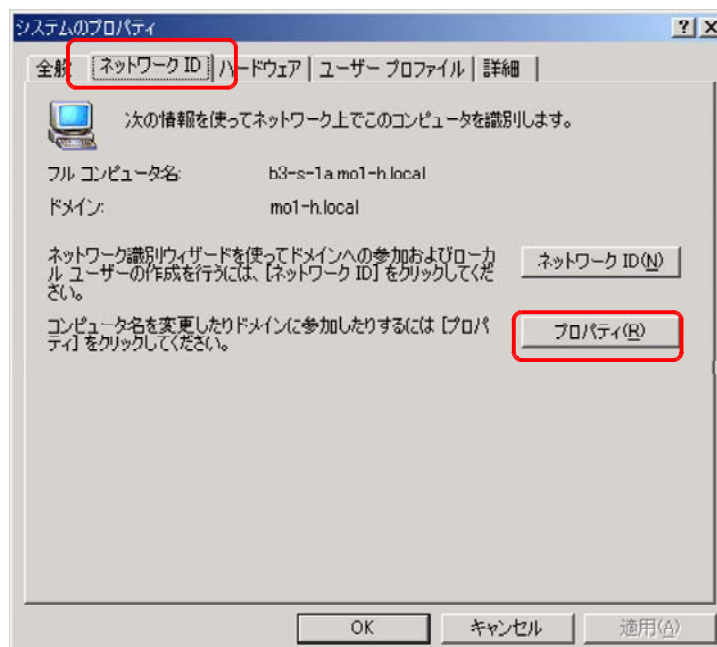
- ⑦ 「インターネットプロトコル(TCP/IP)のプロパティ」画面に戻ります。[OK]ボタンをクリックして下さい。以上でネットワーク設定は終了です。

(2) コンピュータをドメインに参加させる設定

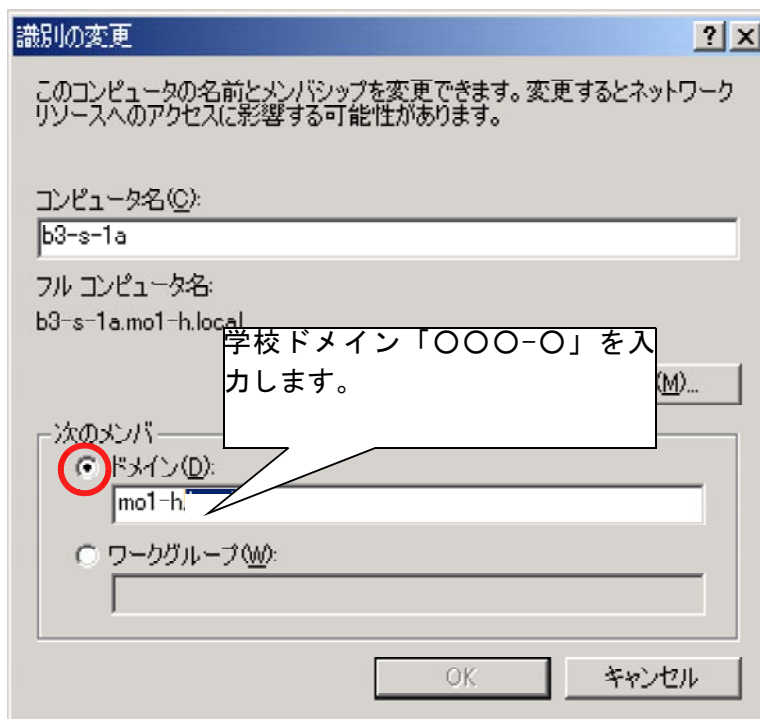
- ① 以下のユーザーでローカルへログインしてください。
※このユーザー情報はH13年度に整備した端末のものです。

項目	値
ユーザー名	Administrator
パスワード	なし
ログイン先	〇〇-〇-〇〇〇(このコンピュータ)

- ② ディスクトップ上において、[マイコンピュータ]を右クリックして表示されたショートカットメニューから[プロパティ]を選択してください。
- ③ 「システムのプロパティ」画面が表示されます。[ネットワーク]タブを選択し、[プロパティ]ボタンをクリックしてください。

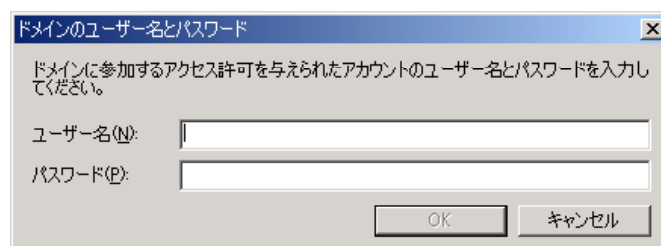


- ④ 「識別の変更」画面が表示されます。[ドメイン]を選択し、学校ドメインを入力します。

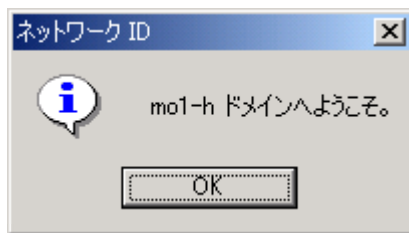


- ⑤ パスワードを要求されます。ユーザー名とパスワードを入力し、[OK]ボタンをクリックして下さい。

※新規にコンピュータを参加させる場合は、Active Directoryに登録されているユーザー名とパスワードでも可能です。既にコンピュータが参加していた場合はユーザー名に「Administrator」とサーバーのパスワードを使用します。



- ⑥ 「〇〇〇-〇ドメインへようこそ。」画面が表示されます。[OK]ボタンをクリックして下さい。コンピュータを再起動します。



(3) ログイン方法

- ① パソコンが再起動したら、各自割り当てられた「ユーザー名」、「パスワード」を入力し、ログイン先をドメインにして下さい。
- ② 入力後、[OK]ボタンをクリックして下さい。
- ③ Windowsが起動します。

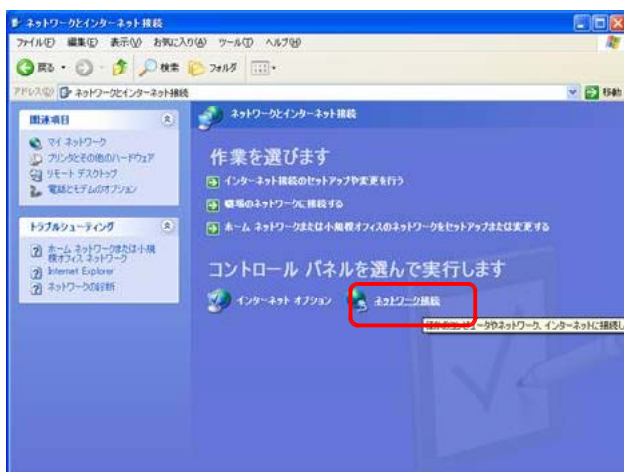
3 Windows XPのネットワーク設定

(1) ネットワークの設定

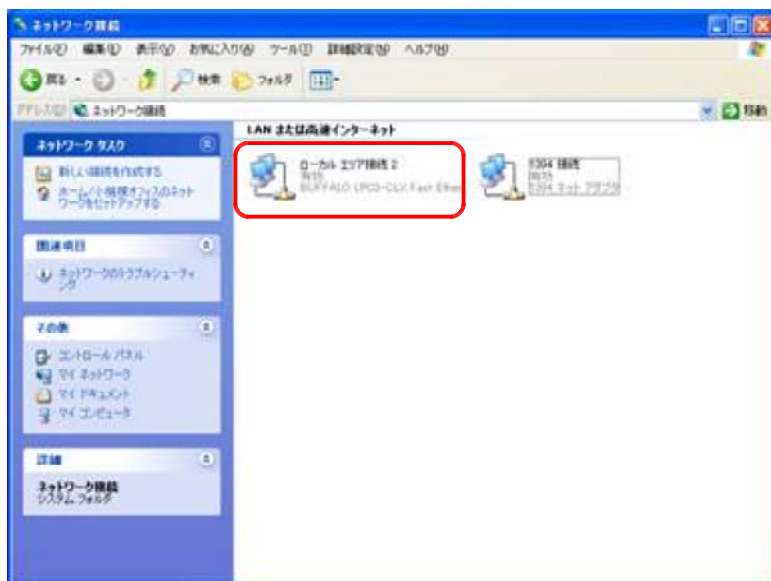
- ① ディスクトップにおいて、[スタート]－[コントロールパネル]をクリックします。
- ② 「コントロールパネル」画面が表示されます。[ネットワークとインターネット接続]をクリックしてください。



- ③ 「ネットワークとインターネット接続」画面が表示されます。[ネットワーク接続]をクリックしてください。



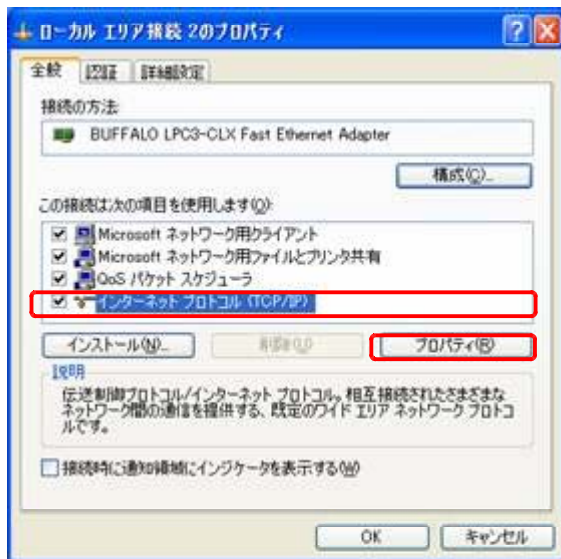
- ④ 「ネットワーク接続」画面が表示されます。[ローカルエリア接続]をダブルクリックしてください。



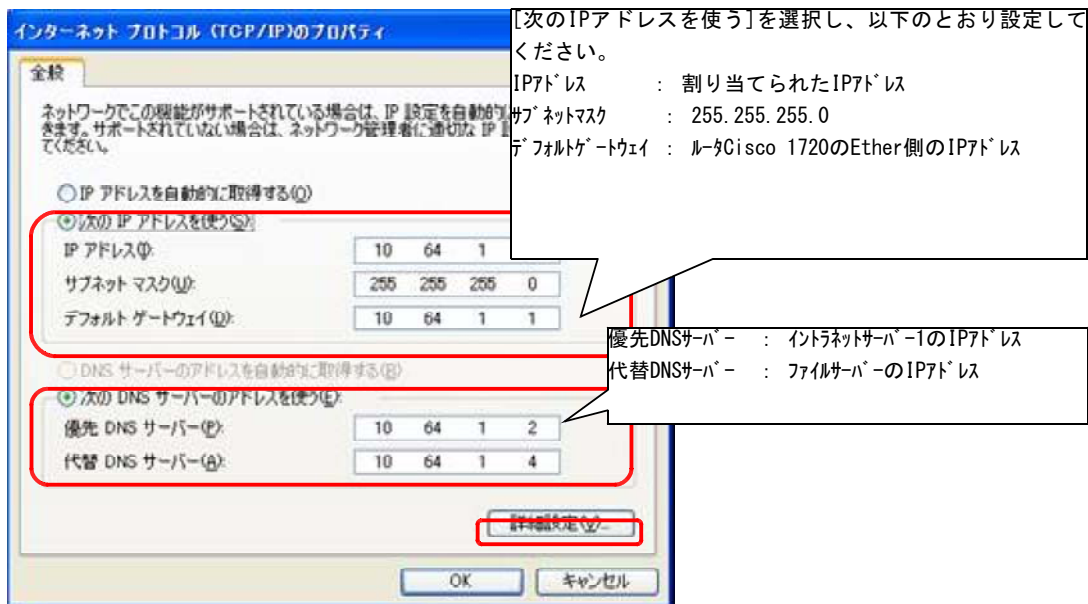
- ⑤ 「ローカルエリア接続の状態」画面が表示されます。[プロパティ]ボタンをクリックしてください。



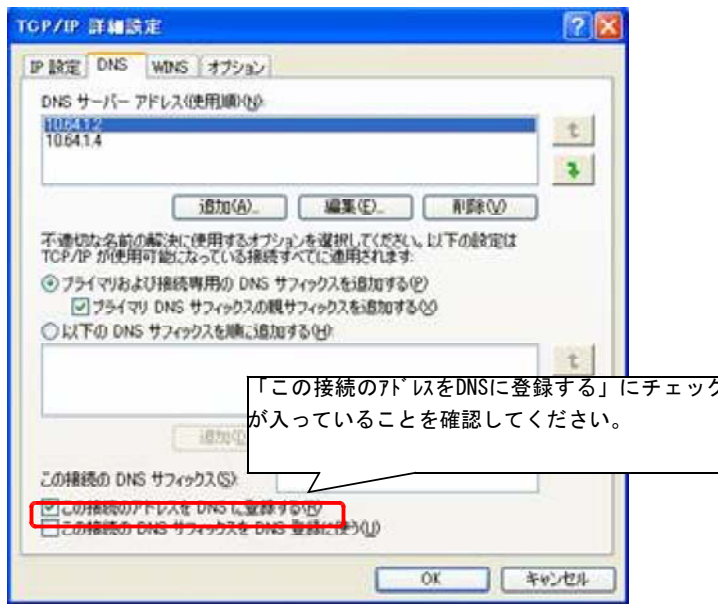
- ⑥ 「ローカルエリア接続のプロパティ」画面が表示されます。[インターネットプロトコル(TCP/IP)]を選択し、[プロパティ]ボタンをクリックしてください。



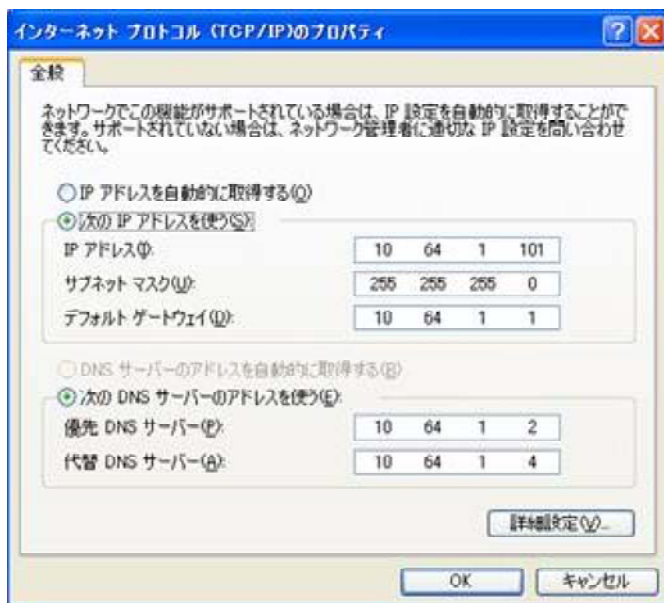
- ⑦ 「インターネットプロトコル(TCP/IP)のプロパティ」画面が表示されます。以下のとおり設定し、[詳細設定]ボタンをクリックしてください。



- ⑧ 「TCP/IP詳細設定」画面が表示されます。[DNS] タグをクリックし、以下のとおり確認してください。確認後、[OK] ボタンをクリックしてください。



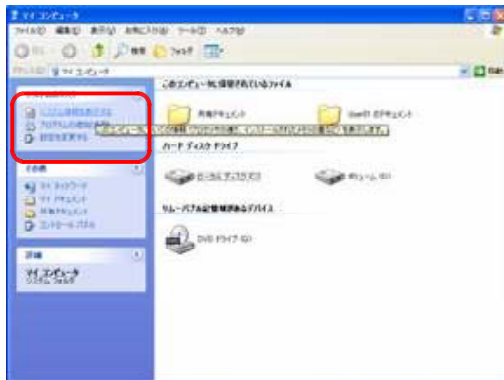
- ⑨ 「インターネットプロトコル(TCP/IP)のプロパティ」画面に戻ります。[OK] ボタンをクリックしてください。これでネットワーク設定は終了です。



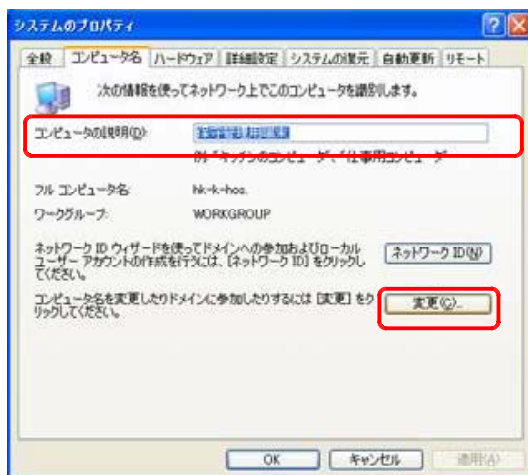
(2) コンピュータをドメインに参加させる設定 (Windows xp Professionalのみ)

※Windows xp Home Editionではドメインに参加出来ません。

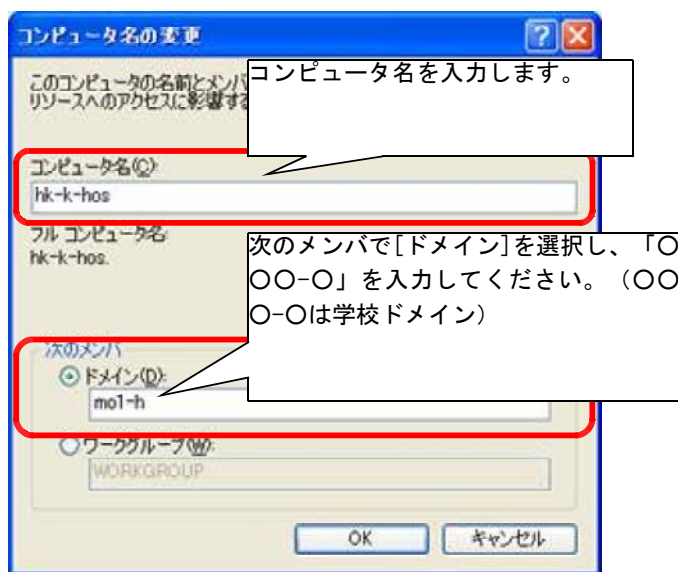
- ① デスクトップにおいて、[スタート]－[マイコンピュータ]をクリックします。
- ② 「マイコンピュータ」画面が表示されます。システムのタスクから[システム情報を表示する]をクリックしてください。



- ③ 「システムのプロパティ」画面が表示されます。[コンピュータ名]タグをクリックし、[コンピュータの説明]を入力してください。入力後、[適用]ボタンをクリックし、[変更]ボタンをクリックしてください。

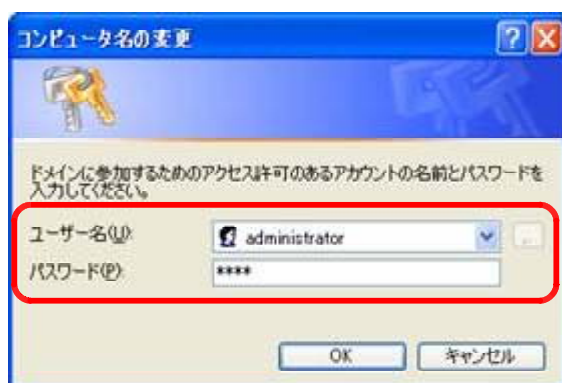


- ④ 「コンピュータ名の変更」画面が表示されます。以下の様に入力し、[OK]ボタンをクリックしてください。



- ⑤ ユーザー名とパスワードを要求されます。ユーザー名とパスワードを入力し、[OK]ボタンをクリックしてください。

※新規にコンピュータを参加させる場合は、Active Directoryに登録されているユーザー名とパスワードでも可能です。既にコンピュータが参加していた場合はユーザー名に「Administrator」とサーバーのパスワードを使用します。



- ⑥ 「〇〇〇-〇ドメインへようこそ。」メッセージが表示されます。[OK] ボタンをクリックしてください。コンピュータを再起動します。



(3) ログイン方法

- ① パソコンが再起動したら、各自割り当てられた「ユーザー名」、「パスワード」を入力し、ログイン先をドメインにして下さい。
- ② 入力後、[OK] ボタンをクリックして下さい。
- ③ Windowsが起動します。

4 LAN接続の確認

- ① 『スタートボタン』 — 『プログラム(P)』 — 『MS-DOSプロンプト』 をクリックします。
- ② 「MS-DOSプロンプト」ウィンドウより、 ping www.<サブドメイン>.iwate-ed.jp と入力してEnterキーを押します。下図のように「Reply from…」の表示が4行表示されればネットワーク接続の確認は終了です。

```
C:\WINDOWS> ping www.mol-h.iwate-ed.jp (入力例)

Pinging sv-intral.www.mol-h.iwate-ed.jp [10.XXX.XXX.2] with 32bytes of
data:

Reply from 10.XXX.XXX.2 bytes=32 time=1ms TTL=128
Reply from 10.XXX.XXX.2 bytes=32 time<10ms TTL=128
Reply from 10.XXX.XXX.2 bytes=32 time<10ms TTL=128
Reply from 10.XXX.XXX.2 bytes=32 time<10ms TTL=128

Ping statistics for 10.XXX.XXX.2:
. . . .
. . . .
```

「MS-DOSプロンプト」ウィンドウ (例)

- ※ 「MS-DOSプロンプト」がない場合は、『スタートボタン』 — 『ファイル名を指定して実行(R)』 をクリックし、[名前]にcommand.comと入力して、[OK]ボタンをクリックするとMS-DOSウィンドウが表示されます。
- ※ 「Request timed out」,「Unknown host」など、「Reply from…」以外が表示される場合は、接続ができていないので、もう一度設定内容をご確認下さい。

4-3-2 Internet Explorerの設定

オペレーティングシステムがWindows XP / 2000 / NT / Me / 98 / 95 においてローカルにログインした場合にこの設定が必要です。

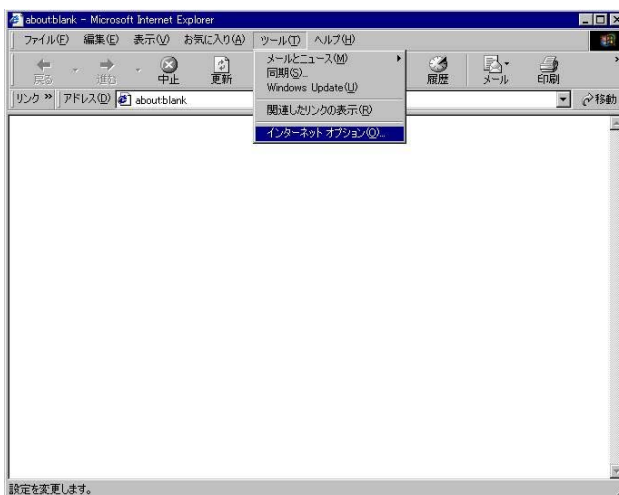
【設定手順】

- ① Internet Explorerのアイコンをダブルクリックしてください。



「Internet Explorer」アイコン

- ② Internet Explorerが起動したら、画面上において、[ツール]->[インターネットオプション] をクリックして下さい。



「Internet Explorer」ウィンドウ

- ③ 「インターネットオプション」ウィンドウが表示されます。[接続]タブをクリックして下さい。



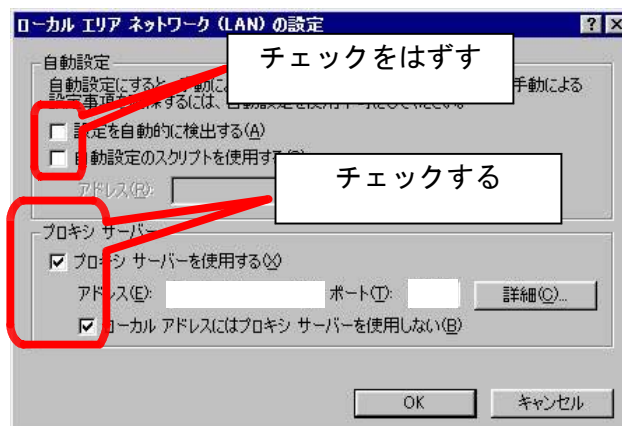
「インターネットオプション（接続）」ウィンドウ

- ④ 「インターネットオプション（接続）」ウィンドウにおいて、[LANの設定]ボタンをクリックして下さい。

- ⑤ 「ローカルエリアネットワーク (LAN) の設定」ウィンドウが表示されます。

自動設定の「設定を自動的に検出する」、「自動設定のスクリプトを使用する」のチェックをはずしてください。

また、プロキシサーバーの「プロキシサーバーを使用する」、「ローカルアドレスにはプロキシサーバーを使用しない」にチェックしてください。



「ローカルエリアネットワーク (LAN) の設定」ウィンドウ（その1）

- ⑥ 「ローカルエリアネットワーク (LAN) の設定」 ウィンドウにおいて、「アドレス」、「ポート」を入力してください。入力後は[詳細]ボタンをクリックして下さい。

注意：

- ① 「プロキシサーバーのアドレス」 入力欄には
「<proxy.>+<サブドメイン.>+<iwate-ed.jp>」を入力して下さい。
- ② 「ポート」 入力欄には「8080」を入力して下さい。

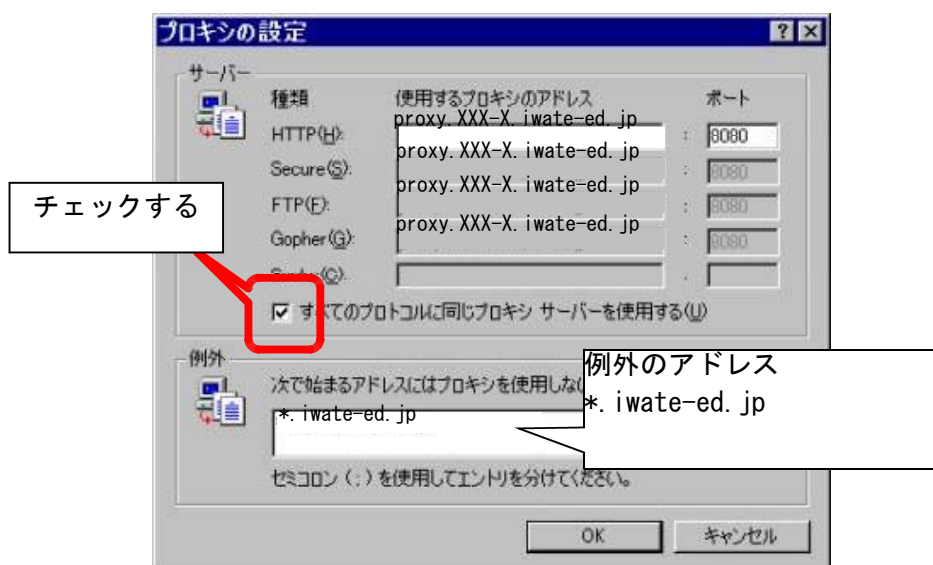


「ローカルエリアネットワーク (LAN) の設定」 ウィンドウ (その2)

- ⑦ 「プロキシの設定」ウィンドウが表示されます。「すべてのプロトコルに同じプロキシサーバーを使用する」にチェックして下さい。また、下図を参照して「例外」の入力欄に使用しないプロキシのアドレスを入力して下さい。
入力後は[OK]ボタンをクリックして下さい。

注意：

- ① 「例外」の入力欄には
「*.iwate-ed.jp」を入力して下さい。



「プロキシの設定」ウィンドウ

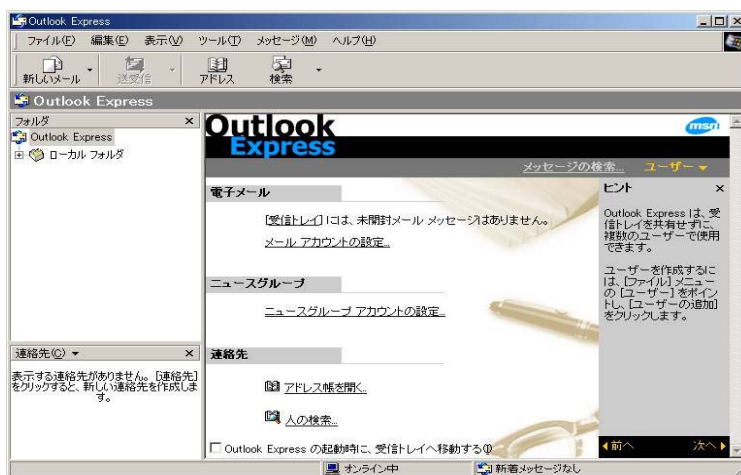
- ⑧ 「ローカルエリアネットワーク (LAN) の設定」ウィンドウに戻ります。[OK]ボタンをクリックして下さい。
- ⑨ 「インターネットオプション」ウィンドウに戻ります。[OK]ボタンをクリックして下さい。
- ⑩ 「InternetExplore」ウィンドウに戻ります。InternetExploreを閉じて下さい。

4-3-5 Outlook Expressの設定手順

メーラー（Outlook Express等）を利用してメールの送受信を行う場合の設定は、主に教職員の方々を対象にしています。

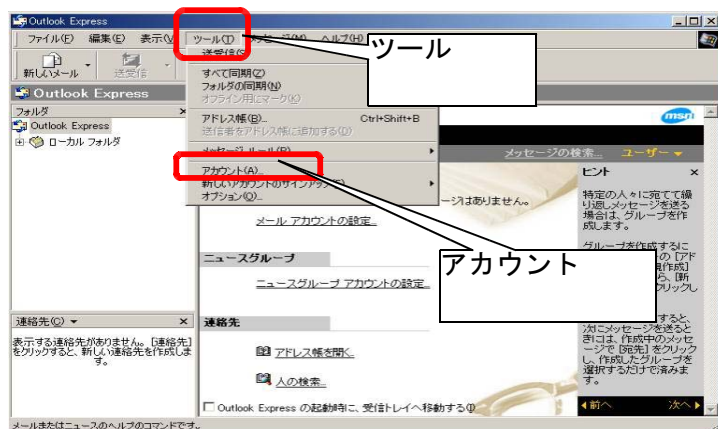
(1) 初期設定

- ① ディスก์トップ画面から[スタート]－[プログラム]－[Outlook Express]をクリックして下さい。
- ② Outlook Expressが起動します。



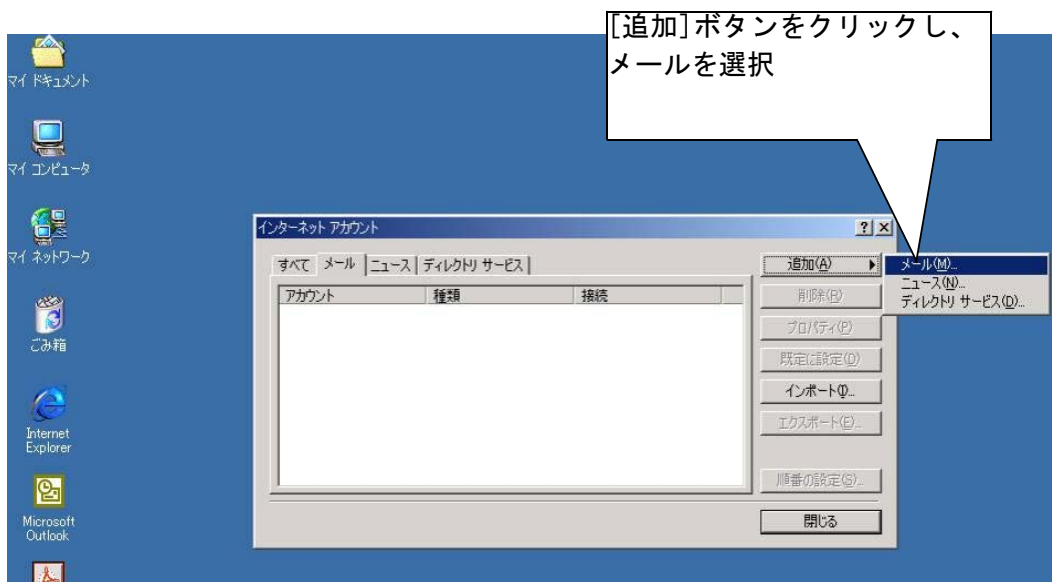
Outlook Express画面

- ③ Outlook Express画面において、[ツール]－[アカウント]をクリックして下さい。



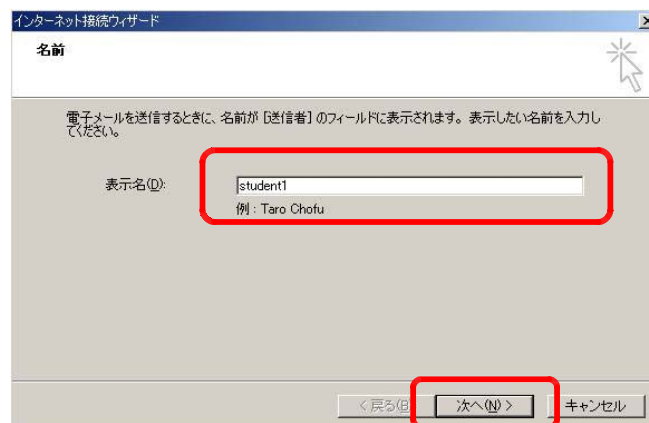
Outlook Express画面 その2

- ④ 「インターネット アカウント」ウィンドウが表示されます。[追加]ボタンをクリックし、[メール]を選択して下さい。



メールアカウント画面

- ⑤ 「インターネット接続ウィザード」ウィンドウが表示されます。「表示名」を入力して[次へ]ボタンをクリックして下さい。



インターネット接続ウィザード その1

- ⑥ 「○既存の電子メールアドレスを使用する」をクリックして、「電子メールアドレス」を入力して下さい。入力後は[次へ]ボタンをクリックして下さい。

インターネット接続ウィザード その2

- ⑦ 「電子メールサーバーの種類」は「POP3」に選択し、「受信メールサーバー」、「送信メールサーバー」を入力して下さい。入力後は[次へ]ボタンをクリックして下さい。

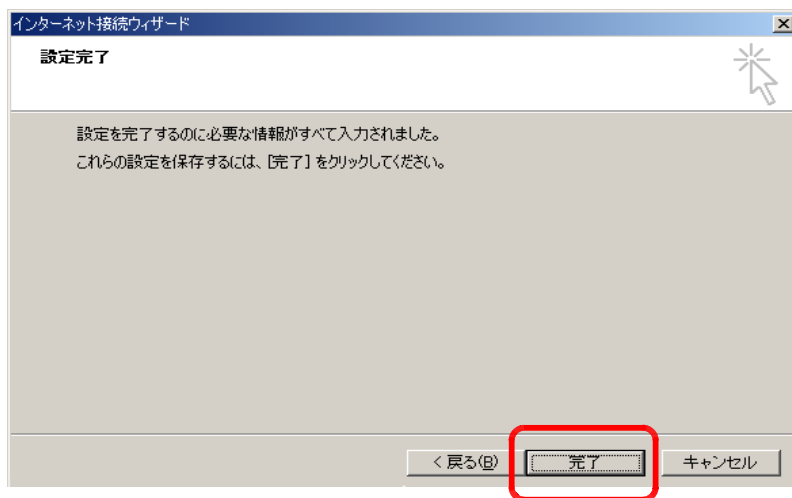
注意：

「受信メールサーバー」及び「送信メールサーバー」は「mail.<サブドメイン>.iwate-ed.jp」を入力して下さい。

例) 「mail.mo1-h.iwate-ed.jp」

インターネット接続ウィザード その3

- ⑧ 「設定完了」画面が表示されます。[完了]ボタンをクリックして下さい。



完了画面

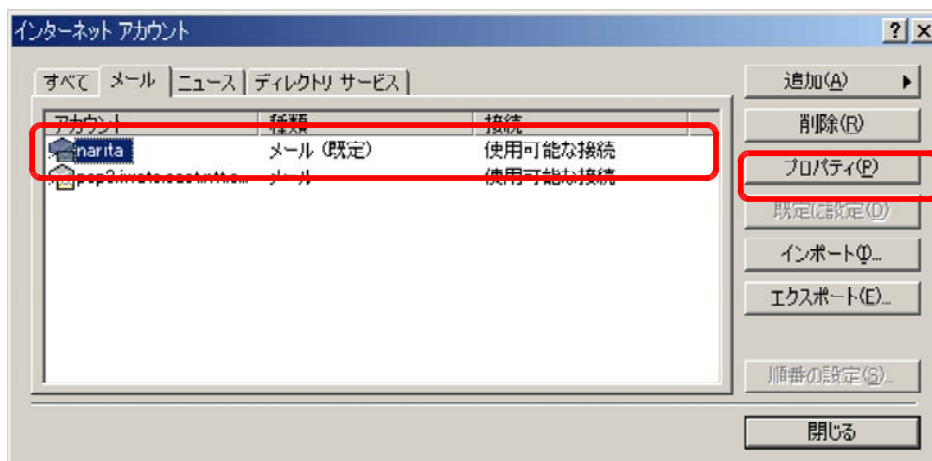
(2) Active!Mailの設定（追加設定）

Active!Mailでは、POP3認証（受信時）とSMTP認証（送信時）の両方で認証をしております。以下のように、Outlook ExpressでActive!Mailのアカウントを使用する場合は、設定が異なりますので注意して下さい。なお、IMailのメールアカウントの設定では、本設定は必要ありませんが、現在使用しているアカウントをサーバー側で変更した場合に必要なケースがあります。

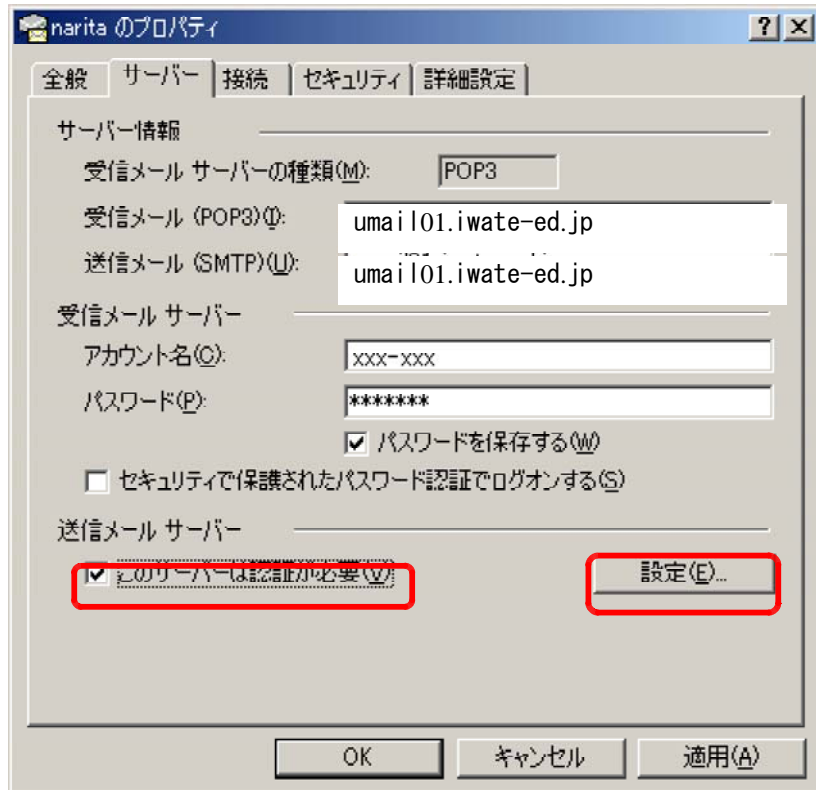
① 「ツール(T)」のメニューから「アカウント(A)…」を選択します。



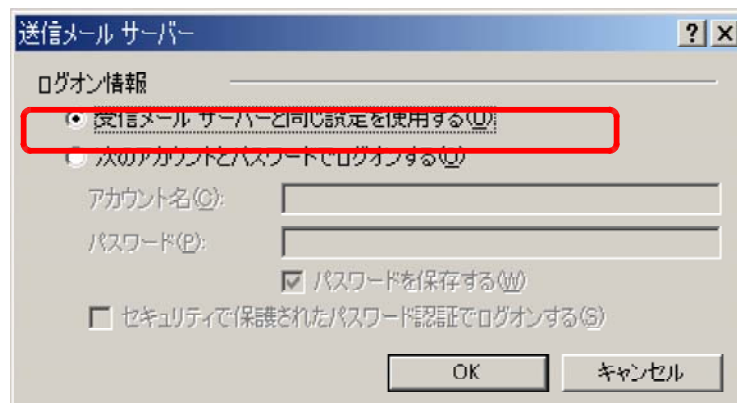
② 「メール」タブを選択し、Active!Mailのアカウントを選択し、「プロパティ(P)」をクリックします。



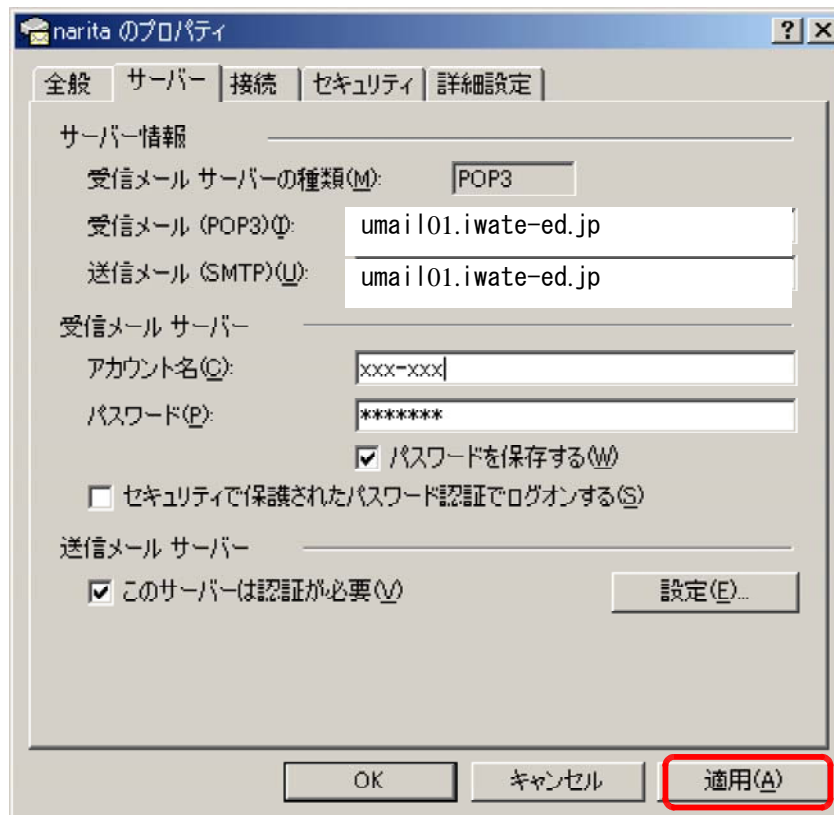
- ③ 「サーバー」タブを選択し、送信メールサーバーの欄の【このサーバーは認証が必要(V)】にチェックを入れます。



- ④ 「設定(E)…」ボタンをクリックし、ログオン情報で【受信メールサーバーと同じ設定を使用する(U)】にチェックが入っていることを確認します。(デフォルトでこの設定になっています。)



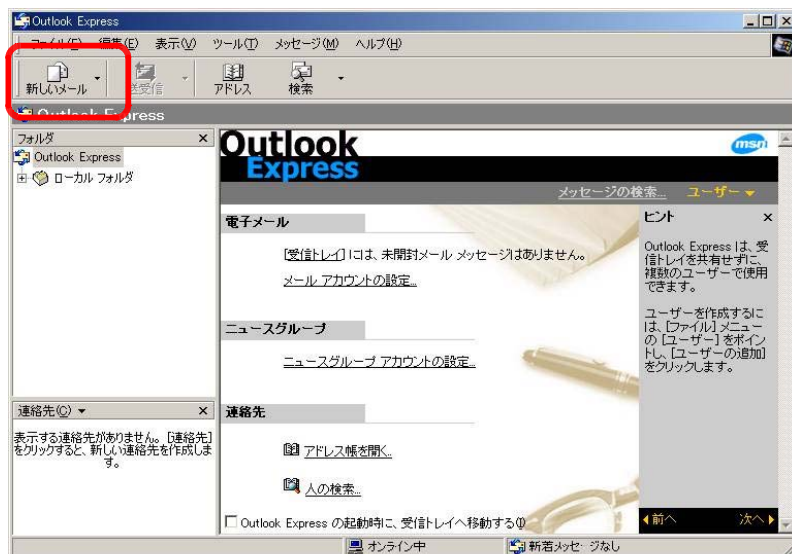
⑤ 「適用(A)」 ボタンをクリックし、設定を反映させます。



⑥ 「OK」 ボタンをクリックします。これで、Active!Mailの設定は終了です。

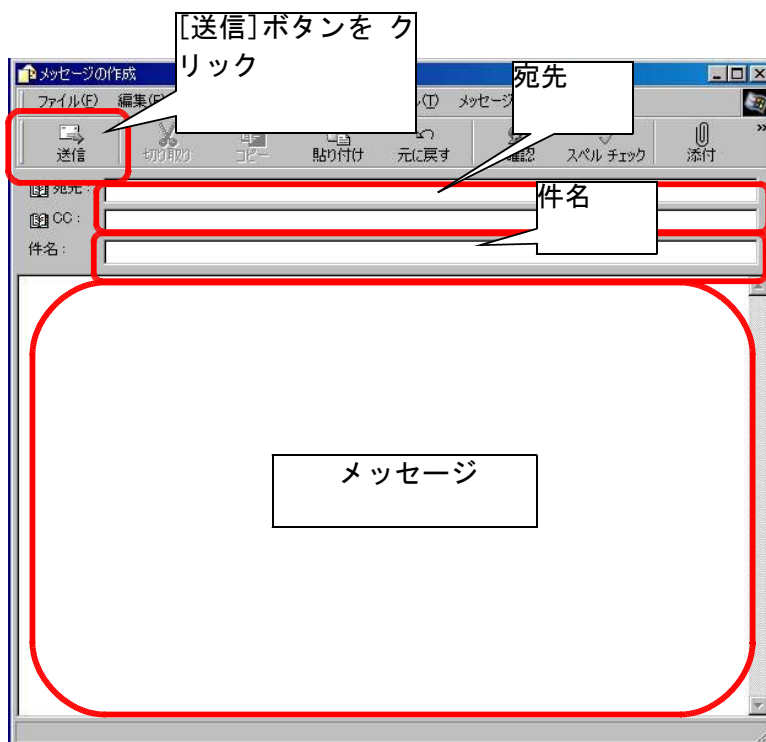
(3) メール送受信の確認方法

- ① デスクトップ画面から[スタート]－[プログラム]－[Outlook Express]をクリックして下さい。
- ② Outlook Expressが起動します。[新しいメール]ボタンをクリックして下さい。



Outlook Express画面

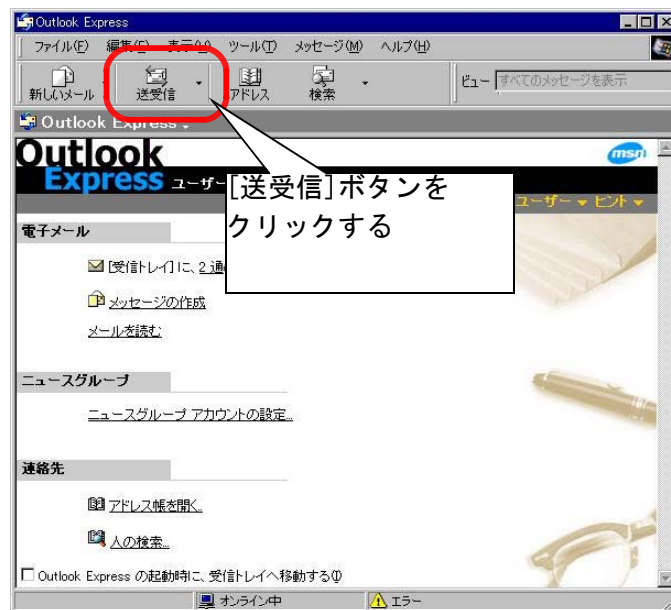
- ③ 「メッセージの作成」ウィンドウが表示されます。「宛先」、「件名」、「メッセージ」を入力し、[送信]ボタンをクリックして下さい。メールが送信されます。



メッセージ作成画面

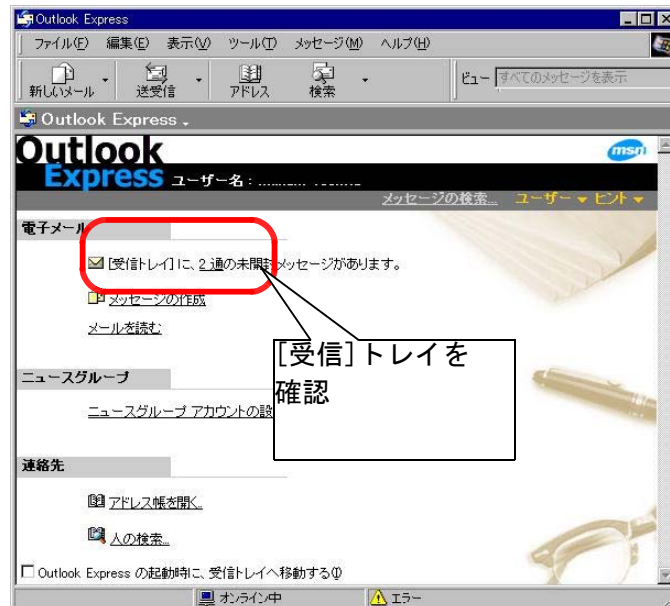
これでメール送信の確認は終了です。引き続き、メール受信の確認をして下さい。

- ④ Outlook Expressの画面において[送受信]ボタンをクリックして下さい。



Outlook Express画面

- ⑤ [受信トレイ]にメールが届いていることを確認して下さい。



Outlook Express画面

これでメール受信の確認は終了です。

4-4 トラブルシューティング

※トラブルシューティングの他の事例は、下記以外に、サポートページにも掲載しております。

<http://edudb.iwate-ed.jp/support/>

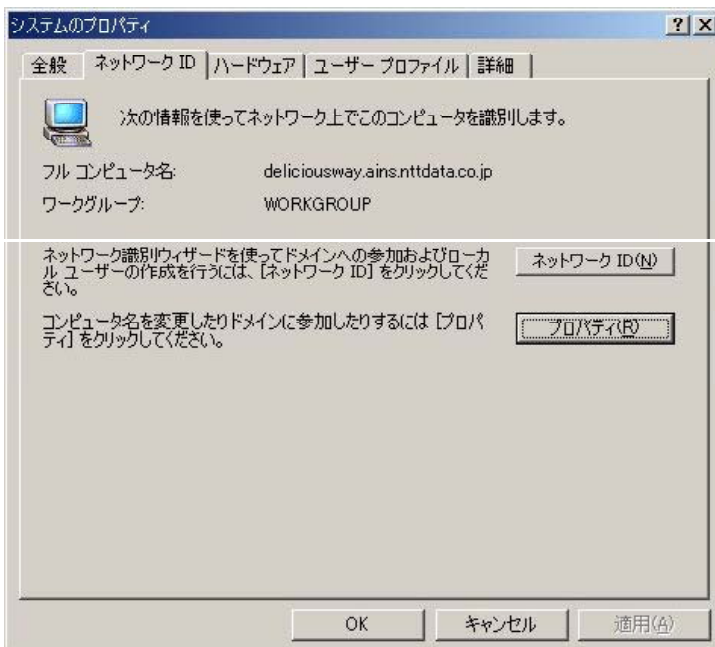
今回の研修テキストや操作マニュアル等も含めて掲載しておりますので、ぜひ一度ご覧ください。

4-4-1 Windows 2000端末でネットワークにログオンできない場合

【対処方法】 ローカルでログオンし、ドメインに参加する。

【手順】

1. ユーザー名 : Administrator
パスワード : (なし)
ログイン先 : (このコンピューター)
にて、ローカルログオンします。
2. マイコンピュータ→右クリック→プロパティを選択します。
3. ネットワーク ID タブを選択し、プロパティを選択します。



4. ドメインの「.local」部分を削除し、OKをクリックします。



5. ユーザー名、パスワードを入力して、OKをクリックします。
6. XXX-Xドメインへようこそそのメッセージがでたら、再起動します。
7. ユーザー名、パスワードを入力し、ログイン先をXXX-X（各学校により異なります）に指定すれば、ネットワークにログオンできます。

4-4-2 インターネット接続ができない場合

Windows 2000 Professionalにおいて、Internet ExplorerのPROXY設定がサーバから反映されていないために、インターネットへのアクセスが出来ない場合の処置方法です。

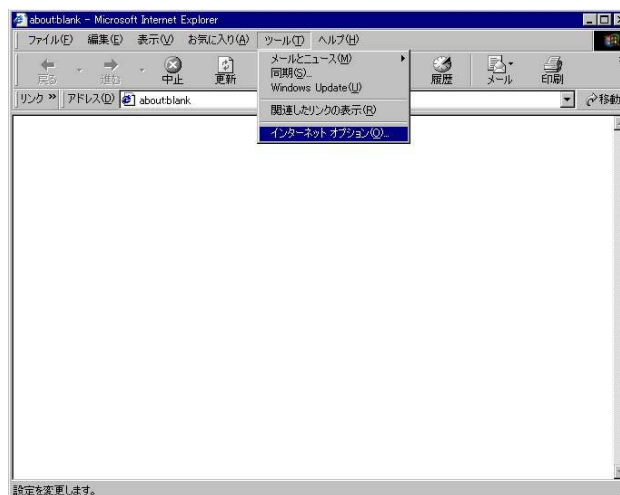
(1) Internet Explorer (PROXYサーバ) の設定

- ① Internet Explorerのアイコンをダブルクリックしてください。



「Internet Explorer」アイコン

- ② Internet Explorerが起動したら、画面上において、[ツール]->[インターネットオプション]をクリックして下さい。



「Internet Explorer」ウィンドウ

- ③ 「インターネットオプション」ウィンドウが表示されます。[接続]タブをクリックして下さい。



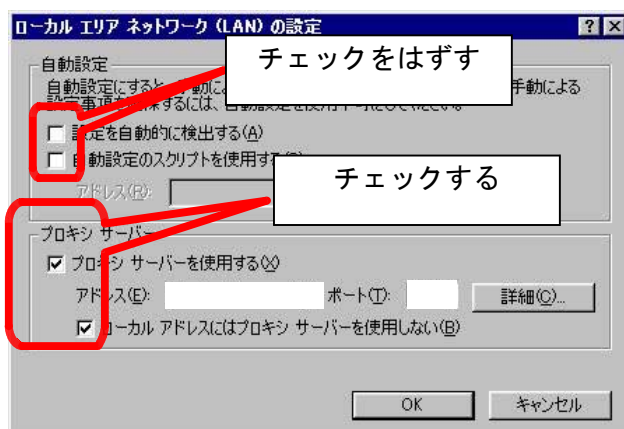
「インターネットオプション（接続）」ウィンドウ

- ④ 「インターネットオプション（接続）」ウィンドウにおいて、[LANの設定]ボタンをクリックして下さい。

- ⑤ 「ローカルエリアネットワーク (LAN) の設定」ウィンドウが表示されます。

自動設定の「設定を自動的に検出する」、「自動設定のスクリプトを使用する」のチェックをはずしてください。

また、プロキシサーバーの「プロキシサーバーを使用する」、「ローカルアドレスにはプロキシサーバーを使用しない」にチェックしてください。

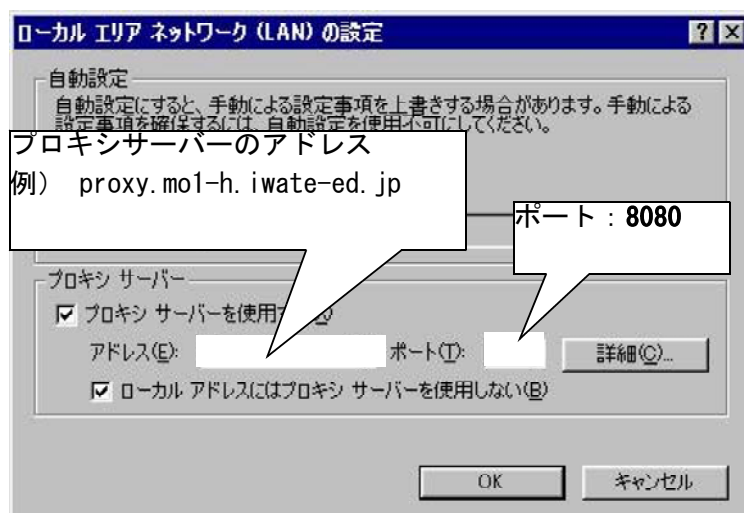


「ローカルエリアネットワーク (LAN) の設定」ウィンドウ（その1）

- ⑥ 「ローカルエリアネットワーク (LAN) の設定」 ウィンドウにおいて、「アドレス」、「ポート」を入力してください。入力後は[詳細]ボタンをクリックして下さい。

注意：

- ① 「プロキシサーバーのアドレス」 入力欄には
「<proxy.>+<サブドメイン.>+<iwate-ed.jp>」 を入力して下さい。
- ② 「ポート」 入力欄には「8080」を入力して下さい。

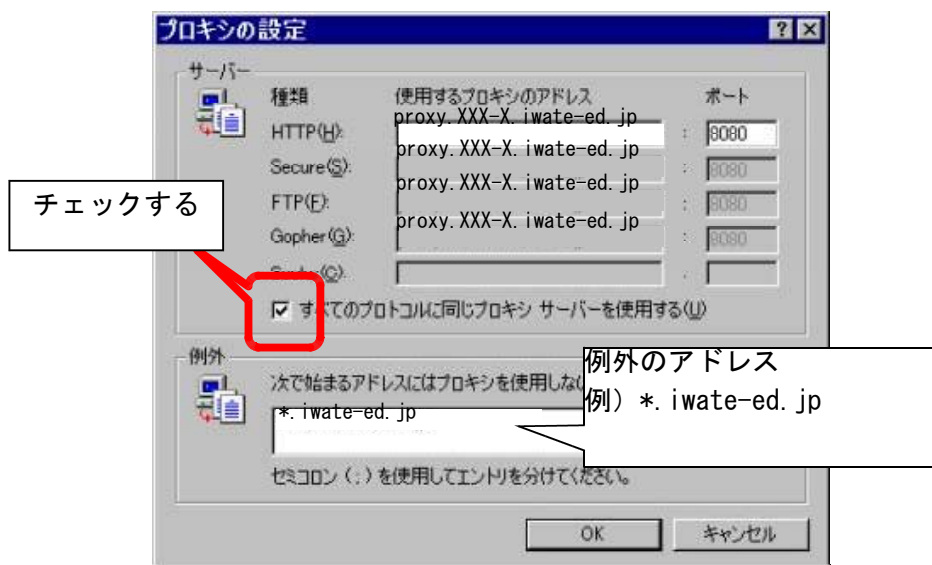


「ローカルエリアネットワーク (LAN) の設定」 ウィンドウ (その2)

- ⑦ 「プロキシの設定」ウィンドウが表示されます。「すべてのプロトコルに同じプロキシサーバーを使用する」にチェックして下さい。また、下図を参照して「例外」の入力欄に使用しないプロキシのアドレスを入力して下さい。
入力後は[OK]ボタンをクリックして下さい。

注意：

- ① 「例外」の入力欄には
「<*.>+<iwate-ed. jp>」を入力して下さい。



「プロキシの設定」ウィンドウ

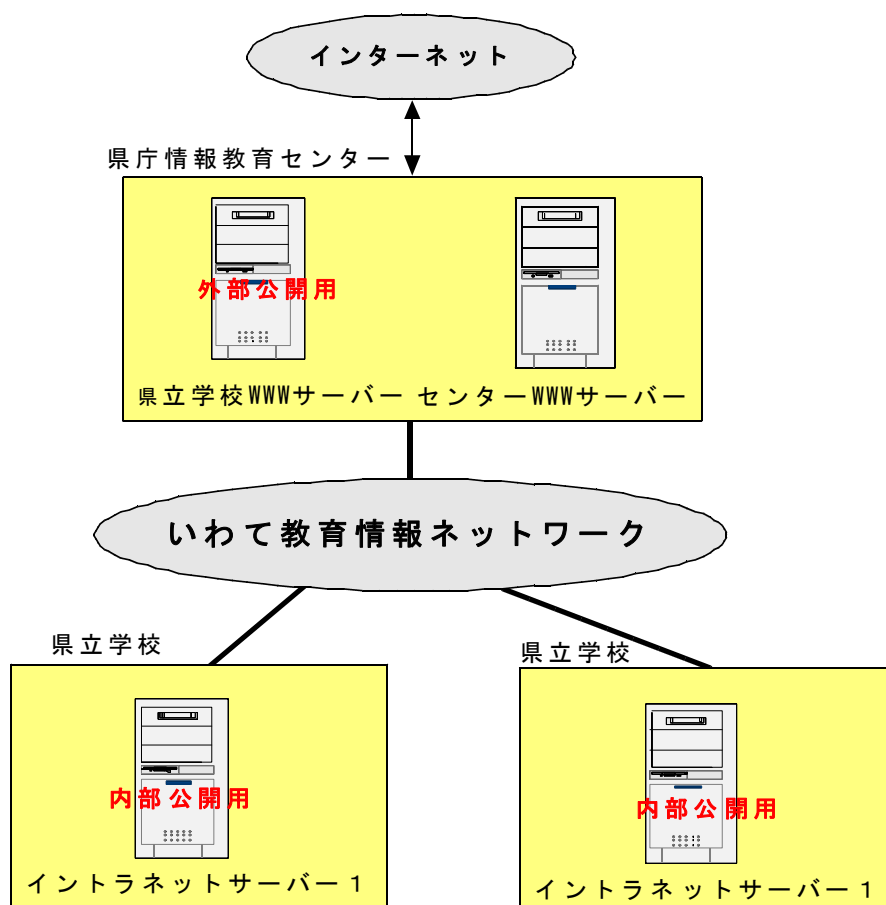
- ⑧ 「ローカルエリアネットワーク (LAN) の設定」ウィンドウに戻ります。[OK]ボタンをクリックして下さい。
- ⑨ 「インターネットオプション」ウィンドウに戻ります。[OK]ボタンをクリックして下さい。
- ⑩ 「InternetExplore」ウィンドウに戻ります。InternetExploreを閉じて下さい。

5 外部公開用WWWサーバーの運用管理

5-1 外部公開用WWWサーバーの概要

県庁教育情報センターに、各県立学校の公式ホームページを公開するためのWWWサーバーを配置しています。

また、各学校間の交流を実現するために、いわて教育情報ネットワーク内部用としては各県立学校のイントラネットサーバー1をWWWサーバーとして利用することも可能です。



5-2 県立学校公式ホームページの公開手順

(1) 公式ホームページの企画・立案

各県立学校毎に、公開するホームページ全体の構成や各ページのデザイン等を企画・立案します。この時、企画・立案の内容は文書化しておくことをお勧めします。この文書化により、公式ホームページ作成時の分業化を可能とすると共に、今後のホームページのメンテナンスする際の手助けとなります。

(2) 公式ホームページの作成

公式ホームページの企画・立案内容に沿って作成します。ホームページの作成には、専用の編集ソフトを利用すれば比較的簡単に作成することができます。

また、公式ホームページのトップページに「アクセスカウンタ」を設定することも可能です。（設定方法については後ほど説明します。）

(3) 公式ホームページの登録

県庁総合教育センターの県立学校用WWWサーバーにファイルを登録します。登録は、各県立学校毎に設定済みのユーザID/パスワードを利用するFTP機能を利用します。これにより、県立学校用WWWサーバー内の各県立学校毎の領域に公式ホームページが登録されます。

FTP機能を利用する際には、専用のFTP転送用ソフトを利用すれば、コマンド等を利用せずに簡単に登録作業が可能となります。（FTP転送用ソフトの利用方法例は後ほど説明します。）

【登録時の注意事項】

ホームページ登録には漢字コードはから“EUC”に変換してください。

漢字コードについて

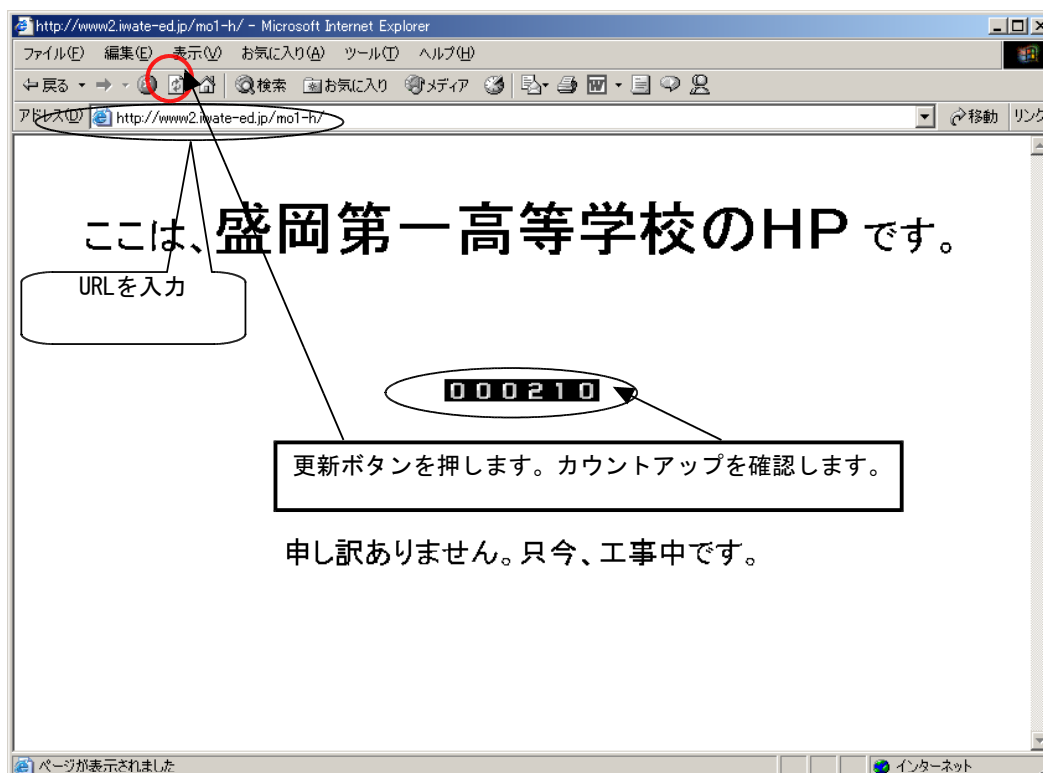
一般的にWindows系のパソコンで作成した文章等の漢字コードはSJISが使われています。

これに対してEUCは、UNIX（オペレーティング・システム）の日本語環境で、よく使われるコード体系です。Extended UNIXCodeの略で、UNIXの多言語対応の一環として制定されました。

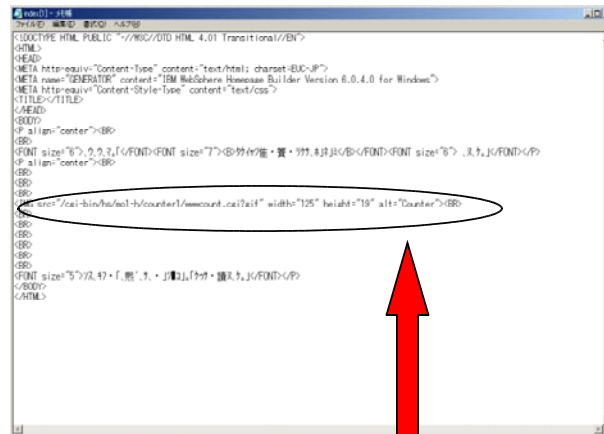
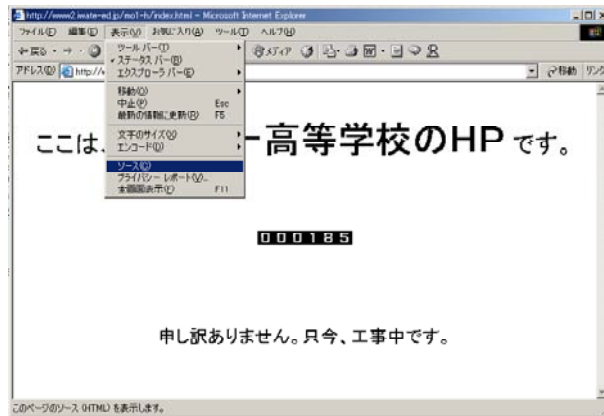
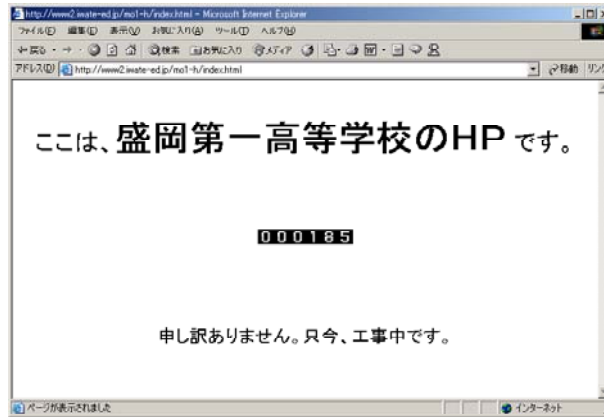
いわて教育情報ネットワークではUNIXサーバを利用しています。サーバに格納するHPコンテンツはシステムの安定稼働、ブラウザで閲覧するユーザーへの安定した表示を優先し、EUCで統一します。

(4) 公式ホームページの確認

県庁総合教育センターの県立学校用WWWサーバー登録したホームページをブラウザで確認します。アクセスカウンターを設定した場合は、ブラウザの再読込アイコンをクリックして、カウンターが更新されることを確認してください。



5-3 カウンターの設定方法



アカウントID

```
<IMG src="/cgi-bin/hs/mo1-h/counter1/wwwcount.cgi?zeif" width="125" height="19" alt="Counter"><BR>
```

hs: 高等学校
se: 養聾盲学校

この行を付け加えます。

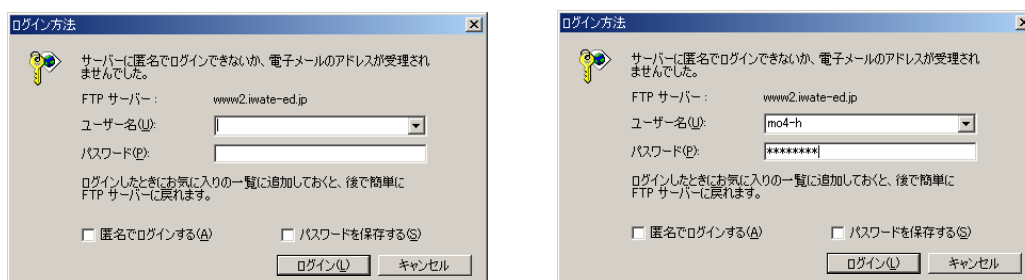
5-4 ホームページのアップロード方法

(1) ブラウザ編

- ① インターネットエクスプローラを起動し、下記アドレスを入力します。

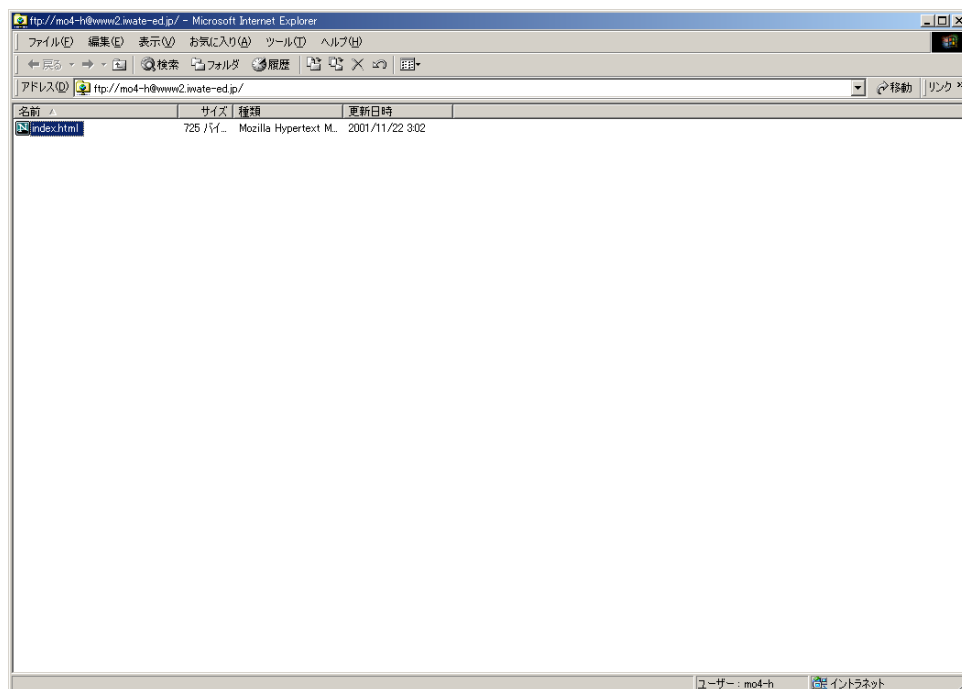
ftp://www2.iwate-ed.jp

- ② 以下のような画面が出てきますので「FTPアカウント表*」に従ったユーザ名とパスワードを入力し、[ログイン]をクリックします。（*県より通知されます。）



- ③ ログインすると以下のような画面が表示されます。

公開したいファイル（トップページのファイル名は「index.html」ファイル名に日本語は使用できません。）をウィンドウの中へドラッグ&ドロップすると公開用サーバにアップロードされます。

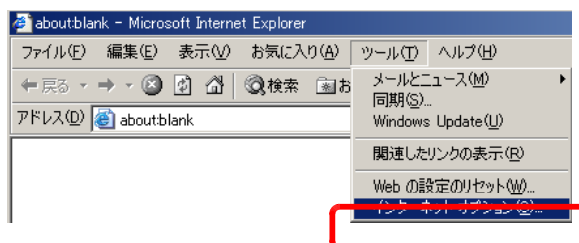


- ④ ウィンドウを閉じて終了します

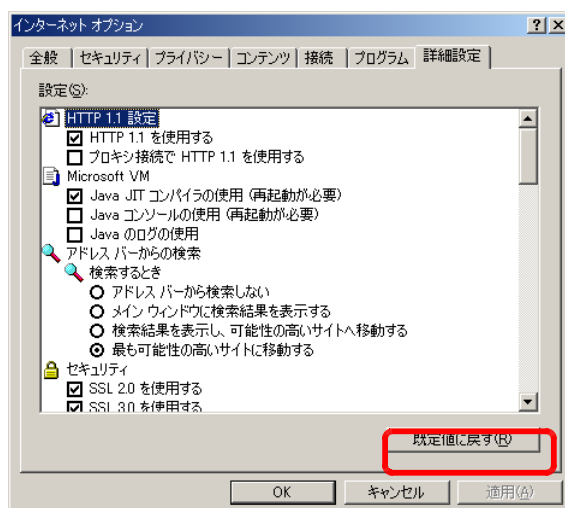
【トラブル】

認証画面が表示されず、アップロードが出来ない場合、下記のようにURLを入力し対処します。

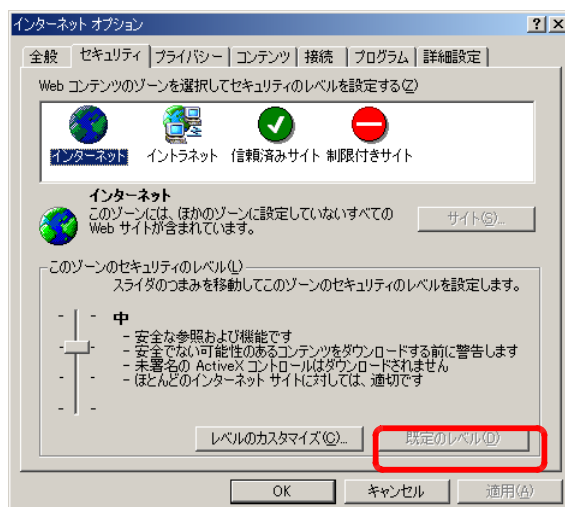
① ブラウザの設定を規定に設定します。



詳細設定で「規定値に戻す(R)」ボタンをクリックします。



セキュリティで「規定のレベル(D)」ボタン各ゾーン（インターネット、イントラネット、信頼済みサイト、制限付きサイト）でクリックします。



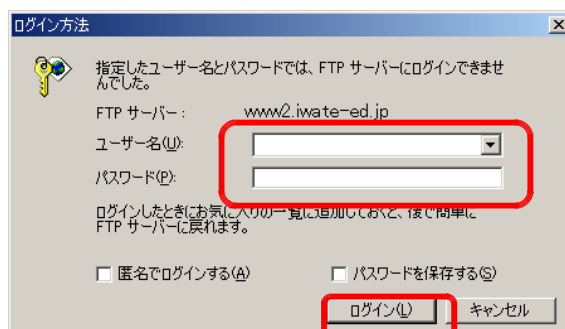
②URLの指定を以下のようにします。

ftp://**username**@www2.iwate-ed.jp/htdocs

username : ftpアカウント名



ログイン方法の画面でユーザ名(U)とパスワード(P)を入力し、ログイン(L)ボタンをクリックしてください。

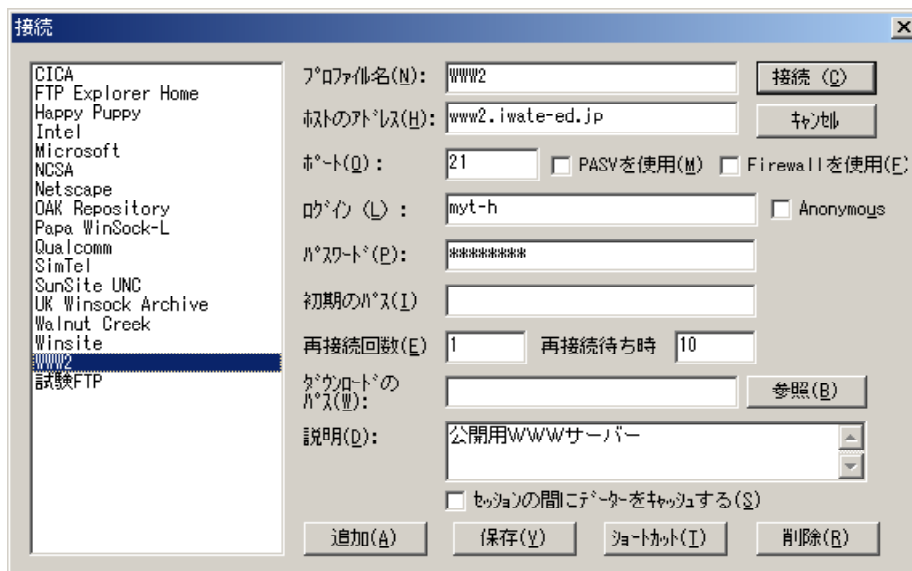


(2)FTPソフト編

FTPソフトでは以下の項目を指定します。

- ホスト名（アドレス）：www2.iwate-ed.jp
- ユーザ名（ログイン）：XXX-X（学校のサブドメインがアカウントになります。）
- パスワード：xxxxxx（県より通知されたパスワードになります。）
- Firewallは使用しません。
- Anonymouseでの接続はできません。

「FTP Explore」の設定例を以下に示します。



サーバの停止方法

作業停電時には、ED ネットサポート SE に、事前に連絡の上、サーバを停止・起動する必要があります。ここではその手順を示します。

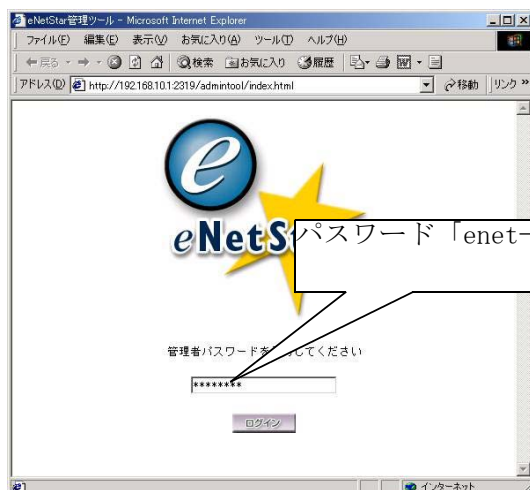
1 停止方法

1-1 SV-INTRA 2 サーバー（旧サーバーです。更新した場合はありません）

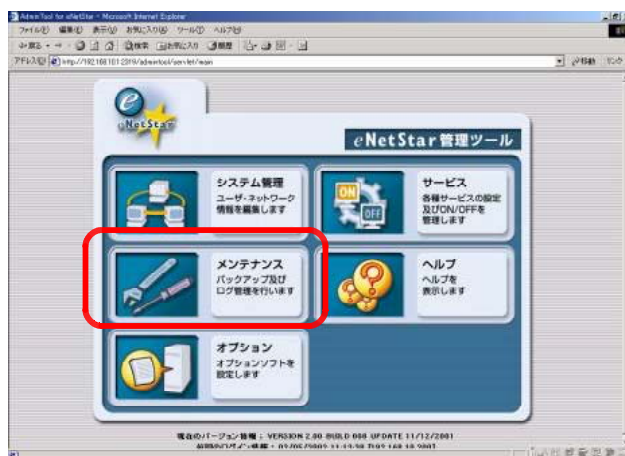
- 1 クライアント（管理者端末）においてブラウザを起動し、以下のURLにアクセスしてください。（XXX-Xは各学校のドメイン名です）

<http://ns.XXX-X.iwate-ed.jp:4649/admintool/>

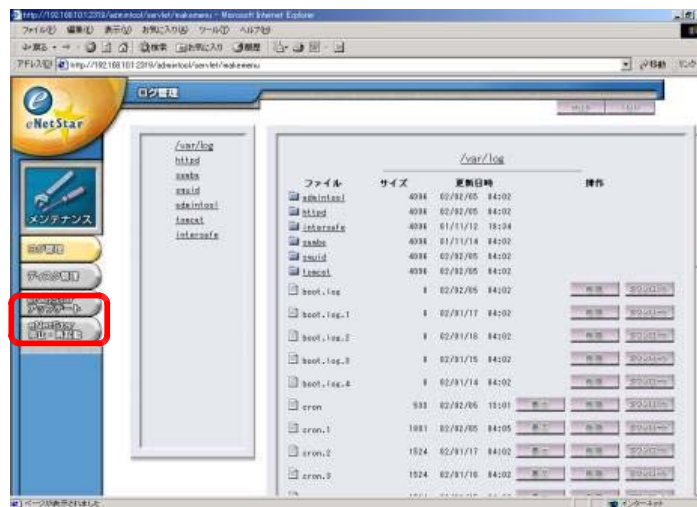
- 2 「ログイン」画面が表示されます。パスワード「enet-adm」を入力し、[ログイン]ボタンをクリックしてください。



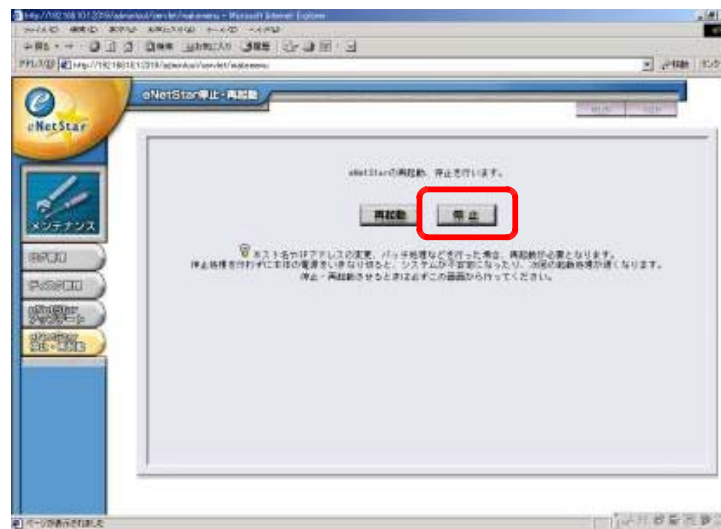
- 3 「eNetStar管理ツール」画面が表示されます。[メンテナンス]をクリックしてください。



- 4 「ログ管理」画面が表示されます。[eNetStar停止・再起動]をクリックします。



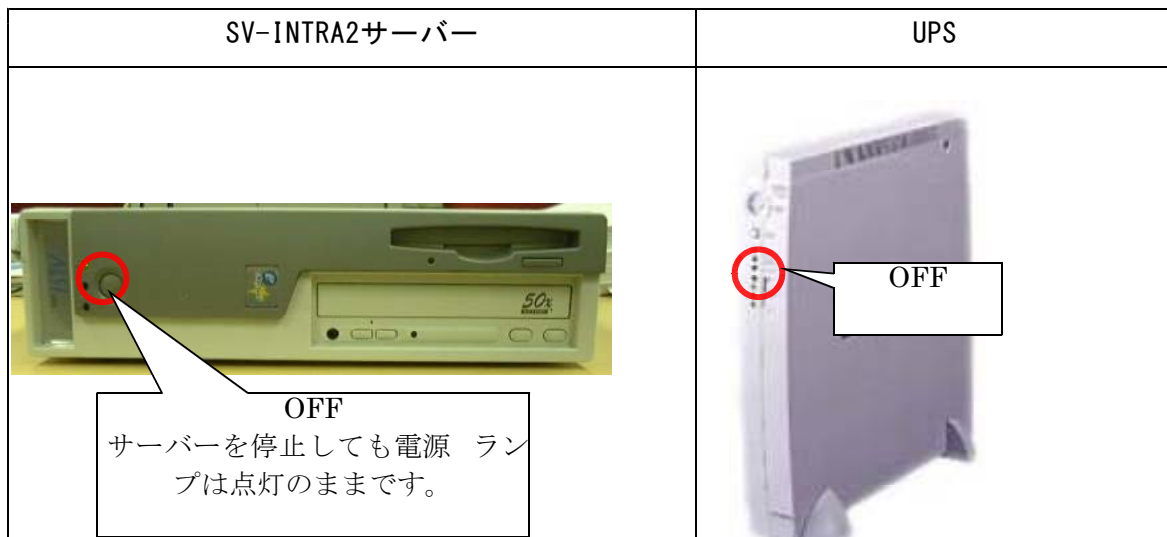
- 5 「eNetStar停止・再起動」画面が表示されます。[停止]ボタンをクリックします。



- 6 「eNetStarを停止させます。」メッセージが表示されます。[OK]ボタンをクリックしてください。



- 7 「eNetStarを停止しました。」メッセージが表示されます。SV-INTRA2サーバー本体のHDDランプ(赤)の点滅が完全に停止(停止後1~3分位)したら、電源ボタンをOFFにします。最後にUPSの電源をOFFにします。



H14年度はブラックになります。

これで、SV-INTRA2サーバーの停止方法は終了です。

1 - 2 SV-INTRA1及びSV-FILEサーバー



- 1 ユーザ名「Administrator」でログインします。ログイン後、[スタート]—[シャットダウン]をクリックします。



- 2 「Windows のシャットダウン」画面が表示されます。「シャットダウン」を選択し、[OK]ボタンをクリックします。



- 3 サーバーがシャットダウンします。(サーバーの電源ランプがオレンジになります。) シャットダウン後にUPSの電源を「OFF」にします。

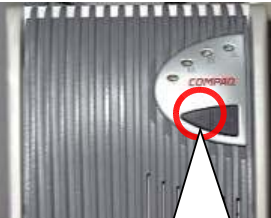





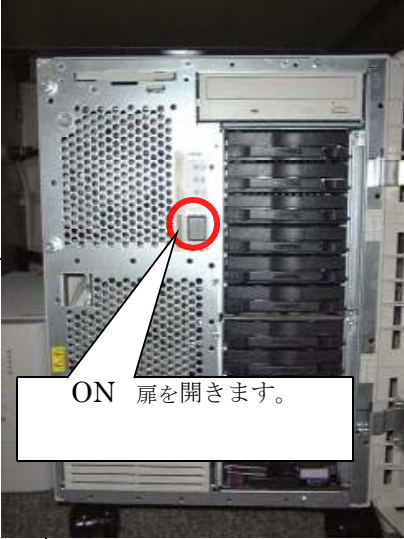
		機 種 名	
		COMPAQ ML370	COMPAQ ML530
U P S		OFF (左側) 少し長めに 押します。	

これで、SV-INTRA1及びSV-FILEサーバーの停止方法は終わりです。

2 起動方法

2-1 SV-INTRA1及びSV-FILEサーバー

- 1 UPSの電源をONにした後、サーバーの電源をONにします。

		機 種 名		
		COMPAQ ML370	COMPAQ ML530	
U P S		ON(左側) 少し長めに押します。		このランプが点けばOKです
				ON(一番上) 少し長めに押します。
サー バー		H13 年度構築		
		ON カバーをスライドさせます。		
		H14 年度構築		
		ON 扉を開きます。		ON 扉を開きます。

これで、SV-INTRA1及びSV-FILEサーバーの起動方法は終了です。

2-2 SV-INTRA2サーバー（旧サーバです。更新後はありません）

- 1 UPSの電源をONにした後、サーバーの電源をONにします。



これで、SV-INTRA2サーバーの起動方法は終了です。

2-3 Administratorパスワードの変更手順

- ① Windows 2000 Server が導入されているサーバにおいて、「Administrator」でログインしてください。ログイン後、「Ctrl」+「Alt」+「Delete」キーを押してください。
- ② 「Windows セキュリティ」ウィンドウが表示されます。[パスワードの変更]ボタンをクリックしてください。
- ③ パスワード入力ウィンドウが表示されます。「古いパスワード」と、「新しいパスワード」を入力してください。
- ④ 「パスワードは変更されました。」メッセージが表示されます。[OK]ボタンをクリックしてください。
- ⑤ 次回、「Administrator」でログインするときは、「新しいパスワード」を入力してください。